

E-BOOKのダイジェスト

ば一気に直近安値を目指すことが多い。

より勝率を高めたいなら、ケルトナーチャネルの下限で利食いしてもよい。

3. 下降トレンドの場合、戻り（ケルトナーチャネル上限付近まで戻せば一気に直近安値を目指すことが多い。

戻りでエントリー後上昇せずにダラダラとした動きが続くようなら押し目で決済してもよい。

ロスカット

1. ロスカットは基本的に上昇⇒下降のように（逆もあり）トレンド転換した時に行う。

2. 上昇トレンドで押し目買いした場合、直近安値を割り込んだ時点でロスカットする。

ただしエントリーポイントと直近安値が大きく離れている時はロスカットが大きくなってしまうため予めロスカット幅を決めておく。

3. 下降トレンドで戻り売りをした場合、直近高値を超えた時点でロスカットする。

ただしエントリーポイントと直近高値が大きく離れている時はロスカットが大きくなってしまうため予めロスカット幅を決めておく。

4. 上昇トレンドでケルトナーチャネル下限の押し目買いをした後、ケルトナーチャネル上限近くまで上昇してそこから失速した場合、エントリー近

E-BOOKのダイジェスト

辺の安値を割り込んだらロスカット。

5. 下降トレンドでケルトナーチャンネル上限の戻り売りをした後、ケルトナーチャンネル下限近くまで下落するも反発した場合、エントリー近辺の高値を超えたらロスカット。

さて以上が商材の内容すべてだ。この手法は裁量に部分が多く経験を多く積まないとなかなかスムーズに取引はできないだろう。

サポートの購入者限定ブログも読んでみたが、日々の取引を詳細に記してはいるのだが、このブログを読んだら即実践できる内容ではない。

またこの原稿を読んでいてどこかで見た手法だな、と感じた方もいるのではないだろうか。

そのとおり、多少のアレンジはしているものの昔からあるチャートパターン分析でトレンドを判断し、押し目買い、戻り売りを狙う手法である。

試しにネットなどで「三角持ち合い」「ダブルトップ」「ダブルボトム」などのキーワードで検索してみれば同様の情報が山ほどヒットするだろう。

確かにケルトナーチャンネルを使うなど工夫をしている部分はある。

しかし基本的には書籍などで手に入る内容である。

とてもこんな高額で販売する内容ではないだろう。

価格的には数千円で十分であるといえよう。

インドの投資市場で若干27歳の男が60日間で1億317万円を残した
勝率 89.87%以上!大好評につき再販売決定!

電子書籍 e ワラントマニュアルの決定版!

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | インディアワラント投資実践塾 |
| ■販売責任者 | 仲邑円 |
| ■所在地 | 東京都調布市調布ヶ丘 2-20-2 B102 |
| ■電話 | 03-5449-0341 |
| ■メール | info@india-warrant.jp |
| ■ URL | http://www.india-warrant.jp/ |

価格 19,600 円

… 目次 …

| | |
|---------------------------------|----|
| 第1章 eワラントとは | 8 |
| 第2章 eワラントの実践テクニック | 17 |
| 第3章 eワラント種類別活用法 | 28 |
| 第4章 eワラント売買においてやってはいけないミス | 35 |
| 第5章 他金融商品とのアレンジメント | 49 |
| 第6章 eワラントを用いた高度な投資戦略..... | 64 |

●全 67 ページ。

必要以上に e ワラント価格の画像が多くページ数を水増ししている印象。

E-BOOKのダイジェスト

「インディアワラント投資法」という題名とセールスレターを見て、筆者は始めインド株式指数を原資としたeワラントの投資手法だと思っていた。

しかし内容を見るとそうではなく、インド株式市場とは全く関係ない。

勘違いされる方もいると思うので、注意されたい。

まあそうなるとなぜ題名が「インディアワラント投資法」なのか全く不明なのだが。

では商材内容に入ろう。商材は全67ページからなる。

まずは取引会社や用語などeワラントの概要についての記述がある。

この部分は書籍レベルで特に記すこともない。eワラントの実践テクニックとある次ぎからが具体的な説明になる。

1 どの回号を選ぶか。

eワラントには同じ原資を対象にしても満期や権利行使価格の違いによって回号と呼ばれる番号がつけられ、区別されている。

投資する回号を選ぶ際、注意するのは以下である。

a 1 満期日までの期間と原資産価格が権利行使価格に到達しているか？

- ・満期日直前であれば、デイトレで差益を取りに行く。
- ・満期日まで3ヶ月未満の場合、リスクに応じて権利行使価格までの値幅を考えて選択する。

E-BOOKのダイジェスト

その場合時間経過による価値の減少（タイムディケイ）に注意する。

b スプレッドが開きすぎたり実行ギアリングが高すぎたり低すぎたりしていないか？

・実行ギアリングが大きいほどスプレッドやタイムディケイが大きい傾向にある。

実行ギアリングが低すぎる（3倍以下）場合や高すぎる場合は投資を手控える。

c eワラントの価格でリスクの大きさを見る。

・eワラントの価格はあらゆる要素を組み入れて計算したものなので、リスクの高いものほど価格が安くなる傾向がある。

2 eワラントの資金配分

a 原資価格で「買い目標」「売り目標」「損きりライン」を設定しておく。

eワラントはマーケットメイク方式なので一瞬でも価格が届けば約定する。

その特徴を生かしてできるだけ安く買う。

b 売りは数回に分ける

eワラントは値動きが激しいため、含み益もすぐに消えてしまう。

そのため売り目標に達しなくても利益が出たら順次利益確定をしていく。

E-BOOKのダイジェスト

c ナンピンのタイミング

e ワラントはタイムディケイのため価格が逆行すると下落が激しい。

そのためできるだけナンピンは避けるが、もしナンピンする場合は損きり価格を決めてその範囲内で行う。

d 塩漬け禁止

・タイムディケイによって価格はどんどん下がっていくので、価格の戻しを期待した塩漬けはしない。

3e ワラント種類別活用法

ここでは各eワラント種類別の売買方法が説明される。

国内株式eワラント

a 資源株を狙う。

資源株は日経平均の動向とともに石油、天然ガス、石炭等の原資価格の影響も大きく受ける。

日経平均と商品価格が両方上昇している場合は大きなチャンスとなる。

b 仕手性銘柄を狙う

E-BOOKのダイジェスト

貸借倍率などから仕手性銘柄を見つけ出せばチャンスとなる。

コモディティ系eワラント

a 原油 (WTI)e ワラント

原油価格の高騰が株価や為替に大きな影響を与えているので、リスクヘッジなどに有効。

為替eワラント

- a 権利行使価格が為替レートに近いものを選び、値上がり益を得る。
- b イン・ザ・マネーのコールを購入し、長期間で金利相当分の利益を得る。
- c やや価格の低い為替eワラントを購入し、暴騰・暴落を期待する。
- d FXのリスクヘッジとして利用する。
- e 同じ権利行使価格のコールとプットを同時に購入する（ストラドル）、異なる権利行使価格のコールとプットを同時に購入する（ストラングル）などの手法を使い利益を得る。

日経平均eワラント

a 日経平均で両建てヘッジ

- ・メジャーSQ日や経済指標の発表など日経平均が大きく動くと予想され

E-BOOKのダイジェスト

る時に、コールとプットを同時に購入し、方向が定まった時点で片方を損きりする。

4e ワラント売買において気をつけること。

a 極端に安い銘柄には手をださない。

・価格が0.5円以下の銘柄は価格が回復することはほとんどなく、リスクが高いので手をださない。

b 満期日が近い銘柄には注意する。

・タイムディケイによりeワラントの価格は満期日が近づくほど下落する。

c 自分の得意な対原資を選択する。

・株をやっているなら自分のよく知っている銘柄、保有している銘柄を中心に選ぶ。

d 目標値の高すぎない権利行使価格の銘柄を選ぶ

・余裕をもって投資するために、原資の現在の価格に対してあまり遠すぎない権利行使価格の銘柄を選ぶ。

e ある程度満期日まで余裕のある銘柄を狙う

・eワラントは満期日までに処分しないと投資金額を失う。

そのため満期日まで2、3ヶ月銘柄を選び、余裕をもって値動きを追える

E-BOOKのダイジェスト

ようにする。

f コールとプットを正しく使い分ける

- ・ 上げ相場にはコール、下げ相場、リスクヘッジにはプットを使う。

5 他金融商品との組み合わせ

ここではFXや現物株、日経225など他の金融商品とeワラントを組み合わせる手法が説明される。

a FX

- ・ スワップ金利狙いで円買いのポジションを持つ場合など、デルタヘッジで調節して同じ通貨ペアのプットを購入することで下落リスクをヘッジできる。

b 株式と債券 e ワラント

株と債権は普通逆相関関係にある。株式を保有している場合に債券eワラントを購入すれば、株式の下落リスクをヘッジできる。

また一般投資家には債券先物市場の参加は難しいが、その代替としても利用できる。

c ニアピン e ワラント

- ・ ロングバタフライスプレッドを商品化したものがニアピンeワラントである。

ロングバタフライスプレッドとは、レンジ相場を想定して利益を狙うオブ

E-BOOKのダイジェスト

ションの複合ポジションであるが、ニアピンeワラントなら簡単にこれを実行できる。

d バスケット e ワラント

これは関連する対原資群の指数を作り、その指数を原資とするeワラントだ。

銘柄を選ぶ時間や労力が省け、個別に購入するよりも経費が掛からないのがメリットである。

f トラッカー e ワラント

主要指数、商品先物指数、外国商品の指数を対象としたeワラントでレバレッジが効かないため原資と同様の値動きをする。

満期日も2年から7年と長期でコール、プットという形もない。

長期的の値上がりを狙う場合に適している。

6e ワラントを用いた高度な投資戦略

ここではスプレッドと呼ばれる複合ポジションによる投資戦略が説明される。

a ストラドル

E-BOOKのダイジェスト

- ・相場が大きく動くことを予想して利益を狙う。

この場合方向は関係ない。同じ原資、権利行使価格のコールとプットを同時に購入する。

基本的には満期日まで保有する。コールかプットのどちらかは償還金があるので、リスクを抑えられる。

b ストラングル

ストラグルを異なる権利行使価格で行うのがストラングルである。

ストラグルと違い満期日の価格がそれぞれの権利行使価格内だと償還金はない。

c デルタヘッジ

デルタとは原資の価格が1円動いた場合、eワラントがいくら動くかを示してる。

デルタヘッジとはeワラントを購入した場合、デルタが0になるように計算して原資を購入してリスクヘッジをすることだ。

例えばコールを購入したら原資を売り、プットを購入したら原資を買う。

さて以上が本商材の内容だ。eワラント初心者には非常にわかりやすい教材だと思う。

ただし内容は書籍レベルで十分入手できる類のものである。

この商材が数千円ならば文句は言わないが、とても価格に見合った内容で

E-BOOK のダイジェスト

はない。

また各手法も概要だけで実行可能なレベルまで落としこまれていない。

この商材を見て初心者がすぐ e ワラント投資はできないであろう。

セールスレターには「勝率 89.97%」「60 日間で 1 億 317 万円を残した」とあるが、実績も記載されていないし、一体何を根拠にしているのかわからない。

著者はセールスレターでこうも書いている。「私は本屋では売られていない本物の価値ある情報こそが、情報商材だと思っています！」それではこの商材は情報商材ではないことになるが…。

始めて15日の初心者でも、
1ヶ月236万をたたき出すFX新基準トレード術
シューターズFX!

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | ROUNDZERO (ラウンド・ゼロ) 代表ツツミダイスケ |
| ■販売責任者 | 齊藤奈津子 |
| ■所在地 | 東京都墨田区本所 1-33-9 寿元ビル6 F1 |
| ■電話 | 080-7016-3692 |
| ■メール | r@zro.name |
| ■URL | http://stsfxls.sakura.ne.jp |

価格 29,800 円

… 目次 …

| | |
|------------------------|----|
| FX自体がまるで初めて!という方へ..... | 3 |
| FX口座を開設する..... | 8 |
| 詳しいエントリー方法..... | 27 |
| 最後に | 34 |

●全37P。行間が広く実質にページ数は半分程。
また章立てもなく、流れがわかりづらい。

E-BOOKのダイジェスト

「FX暦わずか15日の完全初心者でも、楽に月236万を稼いでしまう最強FXノウハウ」が本商材の売り文句だ。

初期費用20万円を1年間に500万円にすることが第一段階の目標だという。

セールスレターには簡単に達成できるように書いてあるが、年利2500%である。

もし事実ならとんでもないパフォーマンスだ。にわかには信じがたい話であるが、結論は商材を検証してからにしよう。

本商材は全37ページからなる。まずは著者の経歴、口座開設方法の説明などがある。

ここは特に記すべきこともない。

チャートをトレーディングシステムビルダーで表示させるので、CMジャパンかFXA証券での口座を持っていれば便利だが、デモ口座を開設してもよいし、同様の設定ができるなら他のチャートソフトでも構わないだろう。

さて17ページから本編である売買ロジックの説明となる。

売買システムはシステムトレーディングビルダーにデフォルトで設定されている「Moving Average Cross System」をカスタマイズして使う。

カスタマイズ方法は簡単で2本の指数平滑移動平均線の単位をそれぞれ

E-BOOKのダイジェスト

「5」「15」に変更するだけである。

商材中にはこのカスタマイズ方法の記載しかなく、具体的な売買ロジックは説明されていないのだが、売買ロジックの説明なくして投資法の商材の意味はあるのだろうか？そもそも本書は「経験値0！FX暦わずか15日の完全初心者でも、楽に月236万を稼いでしまう最強FXノウハウがあるとしたら・・・」といううたい文句で売られているのだ。当然初心者が購入する可能性は高い。それなのに肝心の売買ロジックの説明がなければ、それだけで読者は騙されたと感じるのである。

トレーディングシステムビルダーの設定から売買ロジックを解析してみることにした。

対象通貨ペア

GBP/JPY、GBP/CHF、GBP/USD、USD/JPY、EUR/AUD、EUR/GBP、EUR/USD。

使用するチャート

4時間、60分、10分の平均足

5単位、15単位の指数平滑移動平均線

売買シグナル

指数平滑移動平均線（5）が指数平滑移動平均線（15）を上抜いたら買い、下抜いたら売り。

E-BOOK のダイジェスト

決済

反対の売買シグナルが出たら決済し、ドデンして新たなポジションを持つ。
デフォルトで設定されているのは、よくある移動平均線のゴールドデックロス、デッドクロスで売買するロジックである。

しかし本商材の売買ロジックはこのままでは使用しない。
以下その説明をしよう。

1 仕掛けるのは売りのみ。買いシグナルが出た場合は決済し、ドデンはしない。

2 4時間足でシグナルが出た場合、以下の条件を満たしているか確認する。

- a シグナル発生から 60 分経過してもシグナルが消えない。
- b 8 時間前にさかのぼって、同通貨ペアでシグナル消滅がない。

3 「2」の条件をすべて満たしていたら、60 分足と 10 分足の方向が 4 時間足と揃っているか確認する。

4 すべての時間足の方向が揃っていたらエントリーする。

5 決済は 4 時間足が以下の状態になったら行う。

- a 買いシグナルが発生し、1 時間以上経過した時。
- b 4 時間足が買い方向に 2 本出現した時。

6 損きり

原則として仕掛け値より 150pips 程度上にストップをおく。

E-BOOKのダイジェスト

以上が本商材の売買ロジックのすべてだ。売買ロジックは3つに時間枠の平均足を使う、売りのみで仕掛ける、ダマシのシグナル発生を一定時間観察することによって防ぐ、などの工夫はしている。

しかし元は移動平均線のクロスで仕掛けるという、昔からある誰でも知っている売買ロジックである。

これが「プロのトレーダーへ出しても恥ずかしくない、むしろ胸を張って誇れる、完全無欠の投資ノウハウです。」なのだろうか。

もちろん、誰もが知っているから有効ではないとはいわないが。

しかしこの売買ロジックで冒頭に書いた年率2500%のパフォーマンスが出せるとは筆者にはとても思えない。

売買結果を載せていれば、検証もできるのだが、セールスレターにあるような「2008年+1880pips」などの記載では何の証明にもならない。

有効でないと言わないが、年利2500%のパフォーマンスを謳うならそれなりの証拠を提示するべきだろう。

それなしにはとてもこれだけのお金を出して購入する気にはなれない。

最後にセールスレターの記載で気になった部分がある。

「シューターズFXの主な利点は「複利」で運用できるということ。」

複利運用はどんな投資法でも可能である。まさかそれを知らない人間が投資法を販売しているとも思えないが。

E-BOOKのダイジェスト

信用するに値しない情報商材には3種類ある。1つ目は明白なウソ、インチキの羅列の詐欺商材。2つ目は机上の空論や他商材のパクリで実践には何の役にも立たないもの。そして3つ目は初心者のラッキーパンチを、後付の理論と共に、いかにも不変の真理のごとく書くもの。本書は3番目の部類に入る商材である。

渋谷高雄の トップトレーダー育成プログラム

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 株式会社ウィニングエッジ |
| ■販売責任者 | 有限会社サウザンドフェイス |
| ■所在地 | 東京都新宿区 7-27-9 リブレ東新宿 1701 |
| ■電話 | 03-3252-6002 |
| ■メール | manual@shibuyatakao.com |
| ■ URL | http://shibuyatakao.com/toptraders/ |

価格 29,800 円

… 目次 …

| | | |
|------|---------------------------------------|----|
| 1. | はじめに..... | 1 |
| 1.1. | 本書の目的..... | 2 |
| 1.2. | 本書の前提条件..... | 3 |
| 1.3. | 本書の読み始める前に..... | 4 |
| 1.4. | 本書の読み終えた後に..... | 5 |
| 2. | 株式マーケットの正体を知る【マーケットの設計図 Lesson1】..... | 6 |
| 2.1. | 本章の目標..... | 7 |
| 2.2. | マーケットの設計図を解読..... | 8 |
| 2.3. | これから、株トレードの世界へ入る前に | 12 |
| 3. | 最低限必要な基礎知識【マーケットの設計図 Lesson 2】 | 13 |
| 3.1. | 本章の目標 | 14 |
| 3.2. | 必要不可欠なことと、そうでないことを分ける..... | 15 |
| 3.3. | 必要基礎知識 各項目の解説..... | 16 |
| 3.4. | みなさんが、この章で学んだ後、次に目指すべきこと..... | 29 |

| | | |
|-------|-----------------------------------|-----|
| 4. | 銘柄選択とチャートパターン分析のコツ | |
| | 【マーケットの設計図 Lesson 3・Lesson 4】 | 30 |
| 4.1. | 本章の目標 | 31 |
| 4.2. | 市場の違いと初心者が最初に注意すべきこと | 34 |
| 4.3. | チャートパターン分析のコツ | 35 |
| 5. | マーケットで生き残るために必要なリスク管理の方法 | |
| | 【マーケットの設計図 リスク管理】 | 49 |
| 5.1. | 本章の目標 | 50 |
| 5.2. | 損切り と関連したリスク管理 | 52 |
| 5.3. | 分散投資 と関連したリスク管理 | 54 |
| 5.4. | 本章を学んで | 57 |
| 6. | マーケットで生き残るために必要な心理コントロールの方法 | |
| | 【マーケットの設計図心理コントロールの意識】 | 59 |
| 6.1. | 本章の目標 | 60 |
| 6.2. | 心理コントロールの基礎的な考え方 | 61 |
| 6.3. | トレードしていると出てくる、心理コントロールの場面 | 62 |
| 6.4. | 本章を学んで | 68 |
| 7. | 専業トレーダーと兼業トレーダーの手法の違い | |
| | 【マーケットの設計図 デイトレーダーの優位性】 | 69 |
| 7.1. | 本章の目標 | 70 |
| 7.2. | デイトレード | 72 |
| 7.3. | 実例解説 | 73 |
| 8. | スイングトレード（数日～数週間）の技法とリスク管理、だましについて | |
| | 【マーケットの設計図 Lesson 5】 | 77 |
| 8.1. | 本章の目標 | 78 |
| 8.2. | マーケットサイクルの把握 | 79 |
| 8.3. | 究極の技法？ | 81 |
| 8.4. | 売買の流れとリスク管理 | 83 |
| 8.5. | 利益確定のタイミングとだまし | 84 |
| 9. | トレードシナリオの重要性と、その立て方 | |
| | 【マーケットの設計図 Lesson 6・Lesson 7】 | 87 |
| 9.1. | 本章の目標 | 88 |
| 9.2. | トレードシナリオの意味 | 89 |
| 9.3. | トレードシナリオの作成方法 | 91 |
| 9.4. | 具体例と応用 | 93 |
| 10. | デイトレード（1日完結）の技法とリスク管理、だましについて | 97 |
| 10.1. | 本章の目標 | 98 |
| 10.2. | 主な1日の作業 | 99 |
| 10.3. | デイトレード独特の作業 | 102 |

| | | |
|-------|-------------------------|-----|
| 10.4. | だまし..... | 104 |
| 11. | 信用取引を行う場合、空売りについて | 105 |
| 11.1. | 本章の目標 | 106 |
| 11.2. | 信用取引を行う場合、その扱い方..... | 107 |
| 11.3. | 空売りの扱い方 | 108 |
| 12. | おわりに..... | 112 |
| 13. | 実践を始めるための人へのアドバイス | 114 |
| 14. | 参考文献 | 116 |
| 15. | 特別特典..... | 118 |

●全 124 ページ。

画像や造りは綺麗だが、内容は重複している部分が多くわかりづらい部分がある。

E-BOOKのダイジェスト

本商材の著者は数冊の著作もある著名投資家である。

「4ヶ月で1億4000万円を株式投資で稼いだ」がそのキャッチコピーである。

果たしてその内容はいかほどだろう。早速内容を見ていこう。

まずは株式投資に勝つための必要条件が語られる。

①継続的に勝っているトレーダーが、普段行っている行動や思想をあらかじめ知る

②それが真似できるようになるための必要最低限な基礎部品（メインのテクニカル分析+サブのファンダメンタル分析）を学ぶ

③利益を残し続けるために継続して行う作業を理解する（＝数日から数週間後の株価推移の予想と、銘柄発掘ができるようになるため。）

④トレードを継続的に行っていく上で、損失につながりやすい人間の本能に注意し続ける（リスク管理面と心理コントロール面）

ではまず②のテクニカル分析の説明をしよう。

テクニカル指標は見る順番があり、以下の順番で見っていく。

1. トレンドライン

トレンドラインを引いて高値と安値の目途をつける。

このトレンドラインをエントリーポイント、利益目標、損きりラインを決める際の参考にする。

E-BOOKのダイジェスト

2. 出来高

出来高をトレンドの始まりと終わり示す指標として使う。

- ・トレンドの始まり

下降トレンドまたはもみ合い状態から突然出来高が急増し株価が上昇し始めたら、上昇トレンドに反転の可能性がある。

- ・トレンドの終わり

それまで安定して上昇してきた株価が出来高の急増を伴ってさらに上昇した場合、上昇トレンドの終わりと考えて、利益確定を考える。

3. サポート・レジスタンス

- ・サポートとレジスタンスはブレイクされるとその役割を逆転させる。

つまりサポートがブレイクされると今までのサポートが今度はレジスタンスの役目になる。

- ・出来高が多いほど、サポート・レジスタンスの強度、信用度が高まる。

4. 移動平均線

- ・5日移動平均線

超短期のトレンドを示す

- ・25日移動平均線

E-BOOK のダイジェスト

短期のトレンドを示す

- ・ 13、26 週移動平均線

長期のトレンドを示す。

移動平均線は以下のポイントに注意してみる。

- ・ 日足と週足を比較してみる。
- ・ 株価が移動平均線に接近する場面、もしくは大きく離れる場面に注意する。
- ・ 傾きの方向を意識し、マーケットの動きを掴む。

5. ローソク足

1～4 までを見てその重要点でローソク足がどのような形なのかを見る。

ここまでがテクニカル分析の基礎の部分だ。

つぎは銘柄選択とチャートパターン分析に入る。

1. まずは以下の基本のチャートパターン 5 個を記憶する。

- ・ 安値圏で出来高が急増して上昇（対応相場：下降またはもみ合い）
- ・ Wボトムネックライン突破（対応相場：下降またはもみ合い）
- ・ 急騰後高値もみ合いのブレイクアウト（対応相場：上昇）
- ・ 上昇トレンドの押し目（対応相場：上昇）
- ・ 急騰後高値もみ合いのブレイクアウト（対応相場：上昇）

E-BOOKのダイジェスト

本稿ではチャートパターンの画像が無く、わかりづらい。初心者にはこれではまるで理解できないだろう。高額な値段で販売しているのだからしっかりと説明すべきだ。明らかな手抜きである。

2. 現在のマーケットでの頻出パターンの把握。

・マネックス証券にはチャートフォリオという頻出するチャートパターンがわかるサービスがあり、それを利用して現在頻出しているチャートパターンを把握する。

ここまでできたら以下の手順で銘柄選択する。

主要銘柄の場合

1. 日経平均採用銘柄の中で日経平均より良いセクターを探す。

探す方法は日経平均に移動平均線とセクター別に移動平均線を比較するとよい。

2. 業種別指数、セクター別チャートを見て日経平均を先導しているセクターを見つける。

3. セクター内の銘柄をチェックする。もっと絞り込みたい場合は日経225採用銘柄のみを対象とする。

E-BOOKのダイジェスト

4. 銘柄を前述したチャートパターン分析にしたがって絞り込む。

この際銘柄のチャートが全体のトレンドにあっていないかを確認する。

新興銘柄の場合

1. 各市場の売買代金ランキング上位 50 位までをチェックする。

2. 日足チャート、週足チャートをチェックし前述したチャートパターン分析に従って絞り込む。

ここまでで一応銘柄を選択し、エントリーする準備はできた。

しかしエントリーする前にリスク管理をしなければならない。

詳しい方法は後述するが、まずは概要を説明する。

1. 損きりと関連したリスク管理

・株を買うと同時に損きりの位置を決める。

チャートで決めてもいいし、金額で決めてもいいし、%で決めてもいい。

・自分の心が受け入れてくれる損失額を考え、損きりラインを設定する。

2. 分散投資と関連したリスク管理

ここで述べる分散投資の主な目的は分散投資をして個別銘柄への思い入れを少なくし、損きりへの心理抵抗を減らそうというものがある。

つぎにはリスク管理と同じく重要な心理コントロールについてのポイントを述べよう。

E-BOOKのダイジェスト

- ①勝率100%にはならないことを認める。
- ②損失額を日常生活の金銭感覚に結びつけない。
- ③心に受け入れられる損失額（最初は2万とか）を考え、損切りラインを最初に決定する

④複数のトレードシナリオを考えるクセをつける。

さてここまでがいわば基礎の部分だ。ここからは具体的な手法の説明に入る。

まずはスイングトレードの手法を説明しよう。

手順は以下になる。

1. 日経225先物または平均株価、ニューヨークのダウ・ナスダックのチャート分析、モーニングサテライトなどファンダメンタル、世の中全体的な動向などから現在が強気相場なのか、その反対なのかといった大極的な流れを以下の方法で把握する。

①海外の指数一覧（特に債券金利のチャートを見る）を日足で確認する。

<http://www.stock-chart.net/ST/C-main/kaigaisihyou.html>

②日本の全33業種のチャートを見る

<http://www.stock-chart.net/ST/industry/index.shtml>

③②の個別銘柄のチャートをみて、移動平均線との乖離を確認する。

どのセクターが先導しているかをみて、そのセクターに続く第2集団になりそうなセクターを探す

E-BOOKのダイジェスト

2. 「1.」によって、全体の流れを把握したら、各種ランキングやチャートなどからできるだけ多くの個別銘柄の日足、週足を見て、現在のマーケット状況において、どのような形のチャートが数多く出現しているかを以下の方法で把握する。

- ・主力銘柄中心の場合

毎週土曜日に発売されるチャート集（日足）をパラパラめくって、どんなパターンが多く出現しているのかイメージをつかむ。

- ・新興銘柄の場合

値上がり率、値下がり率、売買代金急増のそれぞれのランキングから気になった銘柄をリストアップし、それらの値動きを日々追いかけることによって、個別銘柄の動きの傾向をつかむ。

4. 「1.」「2.」で銘柄をピックアップしたら、前述した基礎知識をベースに利食いラインと損きりラインを設定する。

その際以下の点に注意して設定する。

- ・利益と損きりの比率は、利益のほうが大きいのか？
- ・損きりにひっかかった場合、確実に実行できる損失金額が設定可能な投入資金でトレードしようとしているか？

5. ここまでの手順を実行し、合理的な利食いラインと損きりラインがきまったらエントリーする。

E-BOOKのダイジェスト

エントリーして後ダマシに合う場合もあるがその際は以下のように対処する。

- ①（初心者におすすめ）しばらくの間、2度とその株を見ない。
- ②その後も株価をチェックし、元に戻ったところで買い直し、その時の損きりポイントはダマシの時の最低株価に置く。

さて実際エントリーする際は銘柄選択の後、シナリオを作ってからエントリーする。

このシナリオを作る目的は2つある。

- ・感情を排し、チャート分析とリスク管理に基づいて、合理的に目標株価と損切り株価を考えられる。
- ・損きりのメドを事前に決定しておくことによって、塩漬け株の量産を防止し、さらに利益を伸ばす機会をつかむことができるようになる。

そのシナリオの作成手順について説明しよう。

シナリオには必ず以下の内容を必ず入れるように注意する。

- ①エントリーポイント
- ②ロスカットポイント
- ③資金量調節
- ④期間（タイムストップ）

E-BOOKのダイジェスト

⑤エグジット（利益確定）ポイント

以上の内容を盛り込んで以下の手順でシナリオを作成する。

1. チャートパターンに合致する銘柄を探してきてきたら、今後チャートにそった動きを予想し、どのくらいの期間に、その形になりそうか推定する。
2. 前述した基礎知識から、短期的な上下のメド（＝利益確定と損きりのメド）を推定する。

この際利益確定と損きりの比率は2対1以上にする。

また損きりは必ずチャートから決めることが大切だ。

利益確定はレジスタンス・サポートを目安としたトレーリングストップを用いてよいし、設定した利益確定ポイントに達したら、持ち株の半分確定をしてもよい。

また利益確定したらそこで新たなシナリオを作成する手もある。

さてここまでがメインの手法であるスイングトレードの説明となる。

つぎはデイトレードの手法について説明しよう。

手順は以下となる。

①前日のNYダウ、ナスダック、S&P 500の動きを見る。

②日経225、CME日経225をチェックする。

（基本的にはCMEの終値が上がっていれば、東京市場の日経225の寄り付きは上がり、CMEの終値が下がっていれば、東京市場の日経225も寄

E-BOOKのダイジェスト

り付きは下がると考える。しかしあくまで参考程度に留める)

③業種別指数の値上がり率、値下がり率ランキングをみて、先導しているセクターを探し、第2集団になりそうなセクターをチェックする。

④個別銘柄の値上がり率、値下がり率ランキングをみて、チャート分析をする。

またスイングトレードとは違ったデイトレード特有の判断材料もある。

- ・主な判断基準は分足の動き。その日にどういう日足を描きそうか予想し(これが当たるかどうか利益を大きく左右する)、できるだけ有利な位置でエントリーを心がける。

- ・一度に多額投入せず(ロス幅を限定するためと、精神的に冷静さを保つため)、損きり時の損失価格を心理的に許せる金額に設定する。

- ・板に惑わされないよう気をつける。板はあくまで参考程度に留める。

- ・9:00~10:00、12:30~13:00、14:00~15:00といった時間帯にチャンスが多くある。

これまで説明したのが買いだけのスタイルだが、下げ相場では利益を得ることが難しい。

そこで空売りのテクニックも必要になってくる。

具体的な手法は以下になる。

E-BOOKのダイジェスト

1. 下降トレンド銘柄を単純に売る。

日足ベースで、5日、25日移動平均線が下向きかけ、株価が陰線を連発するようになったらエントリーを検討する。

2. トレンドライン、または支持線（サポートライン）を割ったら売りたいてる

3. 日足上の25日移動平均線で跳ね返されたら売りたいてる。

4. 大ギャップ+大陰線による新規下降トレンドの開始を狙う。

損きりは出来高の増加を伴って直近の高値を超えたら行う。

ここまでが具体的なトレード手法の説明だ。また初心者向けの手順として以下が紹介されている。

①チャート分析を行い、50銘柄のリストを作る。（ただし、倒産の危険性があるようなあまりにも悪いファンダメンタルは、例えチャートが良くても外すこと）

②値上がりランキングを最低でも週1回はチェックして、どのようなセクターがあがってきているかを確認する。

③ランキングから外す時は、思い入れのある銘柄は残しておいて、それ以外で出来高の少ないものを外していき、再度①のチャート分析を行い新しい銘柄を追加していく。

E-BOOKのダイジェスト

④①～③の作業になれば、監視銘柄を見渡して、セクターごとに分かれているかどうかをチェックする。

なるべく1セクター1、2銘柄 といった感じに分散させる。

初心者のころは1セクター1銘柄として監視リストをつくと良い。

⑤投入資金量調節表（特典）を作って、資金を分散させて投入する銘柄数を決める。

⑥シナリオを数パターン用意して、損きりラインを明確に決める。

⑦何度も実践して経験をつむ。

以上が本商材の内容すべてだ。全体の印象は株式初心者向けの教科書といった感が強く、実際商材冒頭でも「初心者向け」と書かれている。

ある程度の具体的な手法は説明されているが、投資全体をカバーする部分に比重がおかれている印象だ。

すぐに儲かる売買ロジックといったものではなく、その手の手法を求めている人には不向きだ。

また売買手法にしても誰がやっても同じような結果になるものではなく、利益をあげられるようになるには学習と経験が必要だろう。

書かれている内容は納得のいくものだが、正直いって書籍レベルで入手できる部分が多い。

筆者は著者の書籍を読んだことはないが、著者の書籍を全部買ったほうが

E-BOOK のダイジェスト

安上がりな気はする。

時間があれば読んで本商材と内容を比べてみたいものだ。

プレジデントFX

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 株式会社ウィルパワー |
| ■販売責任者 | 星野直樹 |
| ■所在地 | 150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-14-9 6F |
| ■電話 | 03-3476-8554 |
| ■メール | info @ president-fx.com |
| ■ URL | http://www.president-fx.com/ |

価格 31,500 円

… 目次 …

| | |
|-------------------------|----|
| 第一章 はじめに | 9 |
| 第二章 FX の基礎知識・取引方法 | 21 |
| 第三章 資金 1 億円までの戦略 | 40 |
| 第四章 最後に神話をひとつ | 42 |
| 第五章 マニュアル内の用語集 | 67 |

●全 67 ページ

画像も少なく、FX の基礎知識や用語集などでページを水増ししている。
実質的内容は 20 ページ程。

E-BOOKのダイジェスト

この「プレジデントFX」の著者はたった2年で1億円のキャッシュを手に入れたという。

いかにも胡散臭い話だが、早速検証に入ってみよう。

商材は全67ページ。いささか少なめのページ数である。

まず「はじめに」では定番の著者のこれまでの歴史が書かれている。

次がFXの基礎知識。外貨預金と比べてFXがいかに優位かを力説している。

セールスレターの「●●●●と重ねてみると透けて見えるFXの7つの武器とは？」とはこの部分のことだろう。

●●●●とは外貨預金のことだったのだ。誰でも知っている内容であり、もったいつけるほどのものでもない。

ここまでで全ページ数の約3分の1を使っている。

次からやっと本題の部分だ。題して「資産1億円までの戦略」。

著者は「差益」を狙わず「金利」で儲ける」手法を推奨している。

これがセールスレターにある「FXで利益を上げる究極の2つ「方法」と「選択」とは？」である。

こんなことは誰でも知っているし全然究極ではない。

E-BOOKのダイジェスト

そして為替差益とスワップ金利を同時に狙ってはいけないという。

この部分が「99%の人が知らないFXで絶対に同時にやってはいけない2つの事とは？」だろう。

まあ、いっていることはわかるが「99%の人が知らない」どころか「99%の人が知っている」ことだ。

「確実の発生するスワップ金利で堅実に運用して資産を築く」これは誰でもできるFX必勝法だという。

ここまで読んでまたこの手の手法かと少しくんざりしたのだが、先入観は禁物だ。

先に進もう。

1. スワップポイントの高い通貨を選択する。
2. スワップポイントの高い取次ぎ会社を選択する。

代表的な取次ぎ会社として次が挙げられている。

外為どっとコム

セントラル短資

フォーランドフォレックス

サイバーエージェントFX

上田ハーロー

E-BOOKのダイジェスト

3. ポジションを決済しなくてもスワップポイントが受け取れる取次会社を選択する。

代表的な取次ぎ会社として次が挙げられている。

外為どっとコム

セントラル短資

フォーランドフォレックス

サイバーエージェント FX

上田ハーロー

4. 取引単位の小さい取次ぎ会社を選択する。

1000通貨単位で取引可能な代表的な取次ぎ会社として次が挙げられている。

外為どっとコム

サイバーエージェント FX

5. 適切なレバレッジを効かせる。

セールスレターにある「内藤が発見した5つのポイントと2つの戦略」の5つのポイントとはこれだろう。

これもまたもったいぶって書くほどの内容ではない。

誰でも知っていることだ。次は具体的な運用戦略に入る。

E-BOOKのダイジェスト

1. 通貨ペアだが「政策金利が11%の南アフリカランド」を推奨している。
2. 南アフリカランド円でレバレッジを効かせ年利20～30%を狙う。

「内藤が発見した5つのポイントと2つの戦略」の2つの戦略とはこれである。

誰もが知っている内容である。これを「発見」したというのだろうか。もちろん戦略といえるほどの代物でもない。

さて通貨ペアの選択をするときのポイントとして以下が挙げられる。

1. 金利差
2. カントリーリスク
3. 為替変動
4. 主だったFX取次ぎ会社がその通貨ペアを扱っているか。

さて次は具体的な運用方法だ。といっても南アフリカランド円を買い持つというだけなのだが。

例として資金50万円でランド円を10枚買い持つと年利30%近い運用が可能だという。

もちろん可能だろう。為替変動を考えなければという話だが。

次はリスクコントロールについて書かれている。

例では外為どっとコムでレバレッジ20倍ロスカットを30%に設定すると4円70銭円高に触れるとロスカットされるという。

E-BOOKのダイジェスト

つまりポジションを持った時点より4円70銭円高にならなければ毎日390円のスワップポイントを受け取れ、年利30%近い運用が可能だとのことだ。

そして直近5年間でランド円が4円70銭円高に進んだことは無いという。

確かにそうだろう。しかしこれでは為替変動のリスクをまったくヘッジできていない。

今までにないからこれからも無いとは言えないし、その有り得ない1回の出来事があればこれまで蓄積してきたすべてを吹き飛ばしてしまうことは今や誰でも知っているだろう。

次からはリスクヘッジの説明がされる。何か有効な手法があるのだろうか。

1. 資金を追加入金する
2. 両建て

これがリスクヘッジだそう。これではまったくリスクヘッジになっていない。

追加する資金が無い場合はどうするのか。

しかも資金を追加してそれ以上円高になったらどうするのか。これでは損失を拡げるだけである。

また両建てでも一時的な処置としてはありうるが、両建てをしてそれからど

E-BOOKのダイジェスト

うするのか、いつポジションを元に戻すのか、などの具体的な記述がなにもない。

そもそも両建てをする資金が無い場合はどうすればいいのか。
また運用ポイントとして含み益がでてでも決済しないともある。
保有期間を定め、利益目標を決めこまめに利食いすればリスクは減るとい
うのに。

そして今のレートは半年程前の17円より下がって14円だからチャンス
だということだ。

これから14円より下がる場合は考えないのだろうか。

運用シミュレーションとして100万円からスタートして福利で年30%
運用をすれば23年後には1億6941万円となる表が掲載されている。

23年間も金利差が変化せず、為替変動による損益もないと本気で考えて
いるのだろうか。

だとしたら相当おめでたい話である。

ひょっとしたら「資金1億円までの具体的な…」とはこれのことか。

全然具体的ではないのは明らかだろう。

以上で売買手法はすべて終わりである。この時点で43Pである。

商材は全67Pなのだが実質はここで終わりである。

あとの20数Pは用語や取引業者の説明で水増しされている。

売買手法を説明した部分は実質20Pほどだ。

E-BOOKのダイジェスト

そしてセールスレターにある「2年間で1億円のキャッシュを手に入れることができた」証拠や売買履歴はついにどこにも見つけられなかった。

そして何度も商材を読み返したのだが、ついに「FXで1%の勝ち組になってしまう「100、25、1、21」の数字の意味とは？」がどこの部分に該当するのかわからなかった。

そして「為替相場の流れを予測する ⇒ あらかじめ「知る」もだ。
これは受け取るスワップ金利は予め分かっているということだろうか。
しかし金利差も変化するのは当然である。
著者はそれも予め知っているのだろうか。
この商材、明らかにセールスレターと商材の内容が違う。

商材に書いてあるようなことは誰もが知っているし、こんな手法では利益は出せない。そしていずれ為替変動でそれまでの利益をすべて吹き飛ばしてしまうだろう。

そして返金条件もおかしい。「ノウハウ通りに実践して利益が出なかった場合は商品代金を全額返金いたします。」

これはいいだろう。しかしこう但し書きがある。

「返金保証制度は先着100名さまのみの対象となります。100名さま以降はこの表示自体がなくなりますのでご希望の方は今すぐお申し込みください」

E-BOOKのダイジェスト

なぜ先着100名なのだろう。何の説明もない。

すべての購入者に権利があるのは当然だろう。

先着100名にする意味が分からない。

しかも「返金制度の対象期間は、レポートご購入日から1ヶ月以内とさせていただきます。」と返金受付期間はわずか1ヶ月である。おそらくほとんどの人が条件外として返金を拒まれるだろう。

その場合は、虚偽広告、誇大広告という特商法違反で追及しなければならないので多少手続きが面倒になる。

商品内容がしっかりしていて、自信がある人はこのような姑息な条件をつけることはない。読者もこのような商材に騙されないようにするには、返金制度に現実離れした条件をつけているような人のノウハウは避けるという感覚を磨いて欲しい。

誰もが知っている情報をあたかも独自のノウハウであるように見せかけたセールスレター。

戦略とも呼べない、お粗末な売買ルール。

この商材のどこが「プレジデント」なのか著者に是非尋ねてみたいものである。

■無料立ち読み■ GLOBEX 通貨先物トレーダーが書いた本■2%のプロの流儀を伝授

■2007年最新 UPDATE ■365日間無条件全額返金保証■

これが唯一まともな FX 本 98%のトレーダーが知らない FX の常識 10

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 岡部 健 |
| ■販売責任者 | 岡部 健 |
| ■所在地 | 兵庫県神戸市北区鈴蘭台西町 5-1-1 |
| ■電話 | 078-593-9274 |
| ■メール | fx10.okabe@gmail.com |
| ■ URL | http://fx10book.com/ |

価格 25,100 円

… 目次 …

E-BOOKのダイジェスト

「常識1～3（基礎知識編）」

FXをこれから始める投資家は、いい入門書がないか、ウの目タカの目だろう。そうした投資家の目を引くのが、このタイトルだ。98%のトレーダーが知らない、つまり、これを見れば、知っている2%の仲間に入ることができるというエリート意識をくすぐる。

その期待に十分にこたえてくれるのが「常識1」である。

ひとつの口座で世界16カ国、40以上の市場で売買できるインタラクティブ・ブローカーグループ（IB、URL = <http://www.interactivebrokers.com>）を紹介、口座開設を勧める。

「IBは完全にダイレクトな処理、大きなボリューム、自社清算によって、プロフェッショナル基準の価格で取引実行と清算サービスを提供できる。IBが提供する米国リテール・コミッション（手数料）は、500株以下の取引に対して1株当たり0.01ドル、5000株以上同数株に対して1株当たり0.005ドル、VWAP株式に対して同0.02ドル、オプション契約当たり1.00ドル、先物契約当たり2.40ドルとなっている。」ためだ。

「IBでの手数料の総額はFXでおおよそ800円。国内業者の平均3000円～4000円に比べれば劇的に低いコストでの取引が行える」というわけだ。

国内の業者の平均的な手数料は4000円から5000円。それに比べれば確かに割安である。デイトレーダーなど売買数が多い投資家には朗報だ。

E-BOOKのダイジェスト

筆者によればIBは世界有数の業者。にもかかわらず、国内ではそれほど知られていない。口座を開設すれば、パフォーマンスが変わる情報である。

常識2はFX先物。FX先物を取り上げたものはほとんどない。あっても、知識としての紹介程度だが、<http://equivalentsrdc.cme.com:443/e-equivalents2.swf>ではリアルタイムでのFX先物市場を垣間見ることができる。それについては紹介だけにとどまっている。

先物は金融デリバティブのひとつ。その価格が将来、上がるか下がるかを予想して売買するほか、現物との組み合わせでリスクヘッジもできる。工夫次第でFX投資の幅が広がる。

常識の3はIBのリストオーダーでの売買注文の仕方。いわゆる板情報タイプの注文伝票を見ながらのシミュレーションである。ここは口座を開設するまでは読み飛ばしてもかまわない部分だ。

常識4～6（テクニカル編）前半でFX世界の深さに驚かされ、いよいよ売買における2%の常識である。最初に取り上げたのはフィボナッチリトレースメントレベル。

これは自然界の安定を支配しているというフィボナッチ級数をベースにしたもの。フィボナッチ級数は1, 2, 3, 5, 8, 13, 21……。隣り合う2つの数字を並べただけのものだが、2つの合計数字と前の数値の比率は、1.618に収束する。この比率が黄金分割比と言われ、ピラミッドやイスラエル国旗

E-BOOKのダイジェスト

の五ぼう星などに使われている。

この比率を相場に使う試みも昔から行われており、信奉者も多い。筆者もフィボナッチ信奉者の一人であり、唯一、信頼できるテクニカルであるという。これを実際に使用するために必要なのが Meta Trader 4 というチャートシステムだ。これにはフィボナッチ級数をチャート上に描く機能が備えられているからだ。

常識 5 では時間ユニットという考え方を重視し、Meta Trader 4 に期間区切りのラインが引けるファイルを配布する。期間区切りとは 1 時間、1 日などのユニットでチャートを見るという考え方で、1 ユニットの終わりに、フィボナッチのどこで終わるかをチェック、それによって、目標値やロスカットなどを決定するという方法だ、たとえば、ロスカットをフィボナッチの 0% ラインとしたら、エントリー 61.8%、利益確定 161.8% というようにトレードを行うわけだ。

筆者がフィボナッチや期間区切りを重視するのは、「ボリンジャーバンドとかの変数（パラメータ）というのがひとつもない。一切ない」からだ。期間区切りとは 1 時間、1 日、1 週間という期間単位で相場を見ること。

1 日は 1 日であり、変えようがない。フィボナッチも 1.618 は不変である。それに対して移動平均などは変数を変えれば判断も変わるというわけだ。普遍の法則がフィボナッチと期間区切りというのである。それだけ信頼できるというわけだ。

E-BOOKのダイジェスト

常識 7～10（応用編）ここでフィボナッチの応用編や、システムの話へと展開する。応用編ではトレンドが発生しやすい時間帯や統計との関係などの理論を展開しているが、基本的にはパラメータではなくフィボナッチや高値・安値などの確定値をメドにすべきという考え方のようだ。

すなわち、移動平均線やフィボナッチなどのラインをメドとしての相場の転機は変数によって変わるが高値・安値、それにフィボナッチは変わりようがないからだ。

MACD 派などが聞けば、否定するに違いない理論だが、筆者の指摘も説得力がある。

日本には相場の底を見るのに「半値八掛け二割引き」という格言があるが、これはまさにフィボナッチ級数の 0.318 倍に当たっており、相場がフィボナッチ級数に支配されているひとつの証拠ともいえる。

【評価】

会話形式で進行しているが、それがかえって災い。まとまりのない話題の羅列になっている。会話形式であるために、強調すべき点がぼけてしまっているのである。しかも、事細かに説明するというのではなく、知りたければ自分で調べろという内容のため、初心者にはとっつきにくいだろう。

フィボナッチ級数が表示できるという Meta Trader 4 に関しても、操作方

E-BOOKのダイジェスト

法は一切なし、読者が試行錯誤しなければならない。

まえがきでFXの当初から参加している投資家だということで期待していた向きには、物足りなさ、初心者にはレベルが高すぎてな理解しにくい内容である。

【販売サイトとの比較】

この種の販売サイトとしては全体的に落ち着き好印象であるが、マニュアルのメニューのみの展開で、内容のかけらも開示していない。読み物が中心だけに、中身の一部でも知るような作りが読者に親切だろう。

20万円をわずか1ヶ月で73万円にした
プロのデイトレ手法!

相場師育成マニュアル極

発行元情報

| | |
|--------|-------------------------------|
| ■発行元 | ドリームインベストメント |
| ■販売責任者 | 柏原隆大 |
| ■所在地 | 京都府京都市西京区桂市ノ前町 119 番地 |
| ■電話 | 080-6208-4154 |
| ■メール | info @ xn--fx-og4ayfgg8vqe.jp |
| ■ URL | http://xn--fx-og4ayfgg8vqe.jp |

価格 79,800 円 (07/9/3 時点)

… 目次 …

E-BOOKのダイジェスト

1. システムの設定

当テキストの前半はV T Trader というチャートシステムにオリジナルの「K i w a m i」というシステムを組み込んで行うデイトレード。専用ファイルをV Tトレーダーにインポートさせ、そのサインに従って売買する。対象通貨は米ドル円、ユーロ円で、10分足を使用する。ポジションはチャートのサインどおりで、矢印が確定した次の足。資金の10%以下のロットで売買する。

2. 3通りの決済方法

エントリーは同じだが、決済は3通り。初級は「シグナルが反転した時点で決済」。この「メリットは何も考える必要がないことだけ。大相場は根こそぎ取れるが、揉み合い相場では負けが続く。最大ドローダウンが大きくなるため、レバレッジを低くする必要あり」。

中級は「シグナルを移動平均で判断」。「チャートの青色の移動平均（＝長期）の傾きに注目。移動平均が自分のポジションと異なる方向の傾きに転じる瞬間に決済する。利益を多く確保できるようになり、ダマシも軽減できる」。最後が上級で「さらに1分足での判断」。

「長期移動平均が逆の傾きに転じると予想される場面でさらに1分足のチャートを見ながら、利益を最大化する」というのがノウハウである。

相場師育成は大風呂敷。この程度のシステムと移動平均線では結局、儲けは個人の資質によるだろう。タイトルで売るテキストである。

E-BOOKのダイジェスト

【検証結果】

| ポジション | ノミネート | 月日 | 時間 | 決済 | 月日 | 時間 | 損益 |
|-------|--------|-----------|-------|--------|-----------|-------|--------|
| 売り | 160.09 | 2007/9/13 | 14:40 | 159.48 | 2007/9/13 | 20:30 | 6,100 |
| 買い | 159.48 | 2007/9/13 | 20:30 | 159.46 | 2007/9/13 | 23:20 | -200 |
| 売り | 159.46 | 2007/9/13 | 23:20 | 159.6 | 2007/9/14 | 0:20 | -1,400 |
| 買い | 159.6 | 2007/9/14 | 0:20 | 159.55 | 2007/9/14 | 10:00 | -500 |
| 売り | 159.55 | 2007/9/14 | 10:00 | 159.51 | 2007/9/14 | 1:10 | 400 |
| 売り | 159.51 | 2007/8/28 | 1:10 | 159.56 | 2007/9/14 | 2:10 | -500 |
| 買い | 159.56 | 2007/9/14 | 2:10 | 159.51 | 2007/9/14 | 4:20 | -500 |
| 売り | 159.51 | 2007/9/14 | 4:20 | 159.39 | 2007/9/14 | 8:40 | 1,200 |
| 買い | 159.39 | 2007/9/14 | 8:40 | 158.99 | 2007/9/14 | 8:50 | -4,000 |
| 売り | 158.99 | 2007/9/14 | 8:50 | 159.42 | 2007/9/14 | 10:10 | -4,300 |
| 買い | 159.42 | 2007/9/14 | 10:10 | 159.72 | 2009/9/16 | 18:40 | 3,000 |
| 売り | 159.72 | 2009/9/16 | 18:40 | 159.87 | 2007/9/16 | 20:40 | -1,500 |
| 損益合計 | | | | | | | -2,200 |

良かったのは、誰でも取れるような大きな下落トレンドでの売りだけ。あとは出るとやられる状況。サインが遅いし、転換ポイントで出ず、揉み合い相場で逆に出る有様。このシステムと付き合っていたら、いくら資金があっても足りないだろう。下の下のシステム。

ありがとう！700万円記念！
今なら1週間お試しキャンペーン開催中！飯島章弘の
FXEZ(エフエックス★イージー)

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 株式会社インフォスマイル |
| ■販売責任者 | 池内俊介 |
| ■所在地 | 宮城県仙台市宮城野区福室2-8-17-314 |
| ■電話 | 022-797-8613 |
| ■メール | fxez@infosmile.jp |
| ■URL | http://infosmile.jp/fxez |

価格 48,000 円

… 目次 …

| | | |
|-----|------------------------|-----|
| 1. | 誰もが陥るFXの甘いワナ..... | 9 |
| 2. | 失敗から得た一つのヒント..... | 11 |
| 3. | FXEZの売買環境を整える..... | 15 |
| 4. | その日の通貨ペアを4つに絞り込む！..... | 20 |
| 5. | ネクストチャートを活用する！..... | 40 |
| 6. | まずは大まかな流れをつかむ！..... | 43 |
| 7. | ここで秘密兵器登場！（笑）..... | 49 |
| 8. | EZ式クロスポジションを狙え！..... | 55 |
| 9. | 一撃必殺「ヨンパチの法則」！..... | 59 |
| 10. | 勝ち越し確実！「MAX70の奇跡」..... | 66 |
| 11. | FXEZは短期勝ち逃げが鉄則！..... | 69 |
| 12. | 【復習】実践例から学ぼう！..... | 78 |
| 13. | レバレッジ100倍！？超資金配分術..... | 95 |
| 14. | おわりに..... | 101 |

●全 105 ページ。綺麗なデザイン。文字は大きめ。構成はやや分かりづらい。

E-BOOKのダイジェスト

2008年5/16日現在インフォトップのマネー運用部門24時間ランキングで1位のFX情報商材がこのFXEZである。

まずはセールスページを見てみよう。「10万円が2ヶ月半で700万に」と言う派手な文句が書かれている。

私もこの手の煽り文句には慣れてしまったので、これくらいじゃ驚かない。セールスページをざっと見た印象では多少の誇張的な表現はあるものの特に矛盾した部分や問題点は感じられなかった。

では早速内容の検証に入ってみよう。当商材はPDFファイルで全105ページのマニュアルである。

ツールなどのソフトはついていない。あとで詳しく説明するがセールスページにある「マル秘必勝アイテム」は自分で購入する必要がある。

といっても本当のセールスページにあるように100円ショップで買える安価なものなのだが。

まず10Pまでは利用規約や使用許諾書、著者のFX経歴などが書かれている。

つぎに著者と同じ投資環境を作るということで外為ドットコムでの口座開設を勧められる。

そして外為ドットコムでの口座開設の方法が続く。

特に問題はないのだが、本文冒頭に他の商材のように「難しい理論とボリュームでごまかさず必要最低限のことだけ述べる」とあったのでいささか

E-BOOKのダイジェスト

肩透かしを食った感じだ。

口座の開設方法は外為ドットコムホームページを見れば分かることだし、この部分が必要最低限だとは思えないのだが。

さて、この商材の売買ロジックを一言で言えばMACDを使ったスキャルピングである。

いくつかのファクターがあるのだが基本的には古典的なMACDのゴールデンクロス、デッドクロスで売買を行うタイプのものだ。

これ自身は古典的な手法だが、そこからどのような工夫があるのか、見てみよう。

まず初めにすることは取引する通貨ペアを4つに絞ることである。

その方法は著者が考案した「EZ期待値」を通貨ペアごとに算出し、その数値の上位4つの通貨ペアを取引する。(香港ドル円と南アフリカランド円は除く)

「EZ期待値」は次の式で求められる。

$$(60分チャートの最高値下3桁 - 60分チャートの最低値下3桁) \div \text{スプレッド}$$

これで求められるのは時間当たりの変動幅であり、ボラティリティの高い通貨ペアを狙うということだろう。

続いて実際の特定の日の各通貨ペアのEZ期待値の算出例を挙げている。

E-BOOKのダイジェスト

考え方としては特に目新しいものではないが、スプレッドを考慮してより正確に算出しようということだろう。

さてこれで取引する通貨ペアは決まった。では実際の売買はどうするのか。まず短期中期長期の移動平均線の並びと方向から大まかな流れを掴むとある。

この部分はかなり説明不足だ。図解でパターンは示しているのだが、各移動平均線の期間は書いていないし、並び方についてもかかれていない。

またMACDのパラメータについても記述がない。

外為ドットコムネクストチャートを使うとあるので、ネクストチャートのデフォルトの値でいいのだろうが、他のFX業者を使う場合これでは設定できない。[o1] これでは読者には理解できない。

図をみると上から短期、中期、長期と並び右肩上がりになるのが「買い優勢」(本商材ではUP) 逆に並びになり右肩下がりになるのが「売り優勢」(本商材ではDOWN) それ以外が「持ち合い」(本商材ではKEEP) としているのだろう。

これ自体は一般的なトレンドの判定方法である。

次に選んだ4つの通貨ペアが「UP」「DOWN」「KEEP」どの状態にあるのかを判別する。

E-BOOKのダイジェスト

そしていよいよ取引というわけだが前述したようにMACDの15分チャートを使い売買シグナルにはゴールデン、クロスデッドクロスを使う。さて次からは [o2] チャートを見ての説明だ。

MACDにはMACDとシグナルとの差を表す数字がある。

通常チャートの右側にある「0」を中心とした数字だ。

外為ドットコムネクストチャートにはこの数字を0.05ずつ区切る升目のような線が入っている。

画面には通常3, 4本の線が入るのだが、それを一番上から3番線、2番線、1番線とする。

著者によれば3番線の上で出たデッドクロス、1番線の下で出たゴールデンクロスにはかなり信頼性があるという。

これは従来ある「0」から下のゴールデンクロスが「0」を上回ったら「買い」、「0」から上のデッドクロスが「0」を下回ったら「売り」という手法をアレンジしたものだろう。

そして次にはいよいよセールスページにもある100円ショップで買える秘密ツールの登場である。

それは何かというと分度器である。どういう使い方をするかというと、ゴールデンクロス、デッドクロスが出た時のMACDのラインの角度を測るのである。

E-BOOKのダイジェスト

この角度が48度以上ならチャンス、70度以上ならさらにビッグチャンスということだ。

MACDの上昇具合でトレンドの強さを測るというのは以前からある方法である。

これに具体的な数字を付け足したわけだ。

[03]

さてこの商材の売買方法を簡単に書くとEZ期待値で4つの通貨ペアを選び、移動平均線で流れを見て、MACDのクロスが出たら分度器で角度を見て3番線より上のデッドクロス、1番線より下のゴールデンクロスで角度が48度以上だったらポジションを持つということである。

但し角度が70度以上の場合はクロスが出た位置に関わらずポジションを持つ。

各手順や用いている方法自体は通常のテクニカル分析に沿ったものだし特に矛盾点はない。

より精度を高めるための工夫や各フィルターの組み合わせがこの手法のキモだ。

さて最後は決済ルールである。これは移動平均線で見るとトレンド(UP、KEEP<DOWN)とクロス(48度、70度)の組み合わせで利益確定ラインと損きりラインの値幅が決められている。

E-BOOKのダイジェスト

しかしここで気になったことがある。このいくつかの決済ラインの中で利益確定ラインより損きりラインが大きい部分が何箇所かあるのだ。

例えばKEEPトレンドでクロスが角度が48度以上で買いポジションを持っていた場合、利益確定は9銭上、損きりは10銭下としている。

投資の常識ではリミット（利益確定ライン）とストップ（損きりライン）の比率は1：1以上でなければならないとされている。

つまり勝ったら100円貰える賭けに支払っていい参加料は最高でも100円でこれをこえてはならないということだ。

この場合9銭貰える賭けに参加料10銭はらっていることになる。それでも高勝率だから大丈夫というならそれは危険な考え方だ。

うがった見方をするとその高勝率を達成するためにこんな設定にしているのかもしれない。

次は資金配分についてだ。資金の10分の1の保証金を使ってポジションを持ち、1日の利益目標は1回当たりの保証金の5%にするという。

レバレッジは100倍。一見すると随分リスクをとっているように見える。しかし著者はこの手法は高勝率なのでこの設定で大丈夫という。

そして10万の資金で始めて福利運用した場合90日目には700万円を超えるとして表まで載せている。

E-BOOKのダイジェスト

たしかにそうだが、表をみると90日のうち一日も損失を出した日がない。

勝率100%だ。これはありえないだろう。そして文中なんども「9勝1敗」を目指す、高勝率だと書いているが、これも確かめようがない。

そして危険である。確かに利益確定ラインが5銭～28銭と小さく、ある程度の勝率は残せるかもしれないが。

そしてこの方法では一日に何度もチャンスはないだろう。

結論としては方法自体に矛盾はないが、ちゃんと機能するか、そしてセールスページにあるように10万円を90日で700万円に[o7]できるかはとても疑問だ。

著者は十分な検証をせずにたまたま良い成績を出した売買ロジックを一般化している可能性が高い。

最後にひとつふたつセールスレターとの矛盾を指摘しておく。

「あなたの時間に合わせて好きな時間にトレードできます。」

たしかにそうだろう、しかし利益を出すためにはPCの前でシグナルをまたなければならない。

そしてそれはいつでるかわからない。

「円高も円安もテロも政策発表も影響なし！」

E-BOOK のダイジェスト

どんな状況にも対応」

そんなテクニカル分析はこの世に存在しない。

誰でも寝てる間に稼げる!

自動判定機能付驚異のホッタラカシ投資!

20万円でスタートし、3年半で5億円稼ぐ
オーバーナイト・システム・トレード♪ 無期限サポート付

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | たのしい投資実践会 |
| ■販売責任者 | 松原秀樹 |
| ■所在地 | 静岡県三島市泉町 14-10 |
| ■電話 | 055-975-0706 |
| ■メール | piccolo@yumenakama.com |
| ■URL | http://yumenakama.com/ON/ONtop.html |

価格 26,000 円

… 目次 …

【概要】

ホッタラカシ投資シリーズのオーバーナイト・トレード版。日経225先物と日経225先物 mini に絞ったシステムトレード。もう1つのデイトレード・システムとの違いは成り行き売買を出すタイミング。デイトレードが当日決済なのに対し、前日引けの成り行き買い、当日寄り付きの決済になっている。付属のエクセルソフトで完全システム売買を可能にしている。

E-BOOKのダイジェスト

「オーバーナイト・トレードとは？」

文字通り、一晩寝かせて、翌日に刈り取るという投資。これを日経225先物で行おうというのである。

日経先物とは日経平均指数を基準とした、デリバティブ取引。日経平均が、この先、いくらになるのかを当てるような投資である。

先々高くなると読む投資家が多ければ、現実値を大きく超えるし、安くなるとの見方が増えれば下落する。これに10倍程度のレバレッジがかかるため、ハイリスク・ハイリターンの投資になる。

日経225の先物は海外でも取引されているが、このシステムは国内用。前日の引けに成り行きで取引を行い、翌日の寄り付きに決済する仕組みである。その判断は付属のエクセルシートで行う。

トレードに必要なのは当日の225先物の4本値（始値、高値、安値、終値）と最新のNYダウの終値。当日の引け前、つまり15時前に入力し、その出た結果の通りに売買するだけである。15時前というと、当日の始値以外、決定していないが、予想値で十分なようだ。「少々の終値の誤差ではほとんど判定結果に影響しない」からだ。

データ入力後にシートの「引成判定」ボタンを押せば、売買の判断が出るので、それに従い成り行き注文を出す。

E-BOOKのダイジェスト

成り行きとは現在値で売買するという意思表示であり、日経225先物ならほぼ確実に売買が執行される。あとは、果報は寝て待てというわけだ。

ソフト次第

このような投資で、元金20万円が3年半で5億円を超えたというのである。それが「事実であるなら、すごいソフトということになる。だが、その理論はブラックボックスのなかで、確認はできない。当然のことだが、果たして、そのようなことが可能なのであろうか。

というのも、日経225先物は日本の市場が閉まった後でも海外で売買されているからだ。そのため、多々、海外での動きが、翌日の日本市場に影響を及ぼしている。

そのため、オーバーナイトはきわめてリスクな取引で、投資家の多くは、引けまでに当日の取引を決済しようとするものだ。そうしたリスクを超えて取引しようというのが、このシステムになる。

【評価】

本文の内容はほとんど同じ。根本的な違いはデータの部分だけという手抜きぶりである。

いかにも二匹目のドジョウを狙ったといか思えないものである。2007年

E-BOOKのダイジェスト

10月27日にバージョンアップを行ったため、同期間の運用実績とバックテストの結果が大きく異なっている。

8月31日から11月6日までの運用実績は570円のマイナスなのに、バックテストの結果は1180円のプラスに変わっているのである。

善意に解釈すれば、システムに大幅な改良を加えた結果、システムの精度が上がったといえる（検証したのは10月27日にバージョンアップしたver. 1.5）が、マクロが公開されていないので、都合のいいようにデータを改ざんしたと指摘されても反論はできない。

まさにブラックボックスである。不思議なのは直近のパフォーマンスには変化がないのに、日にちが古くなるにつれて、売りと買いの判断が逆転していること。運用実績での勝率は50%なのに、バックテストは60%近くになる。

デイトレード・システムでも同じ現象が起きており、バックテストで年平均856万円のパフォーマンスをあげたといっても信頼性が落ちるだろう。

E-BOOK のダイジェスト

【販売サイトとの比較】

販売サイトの作りもデイトレード・システムと同じ。タイトルとデータを差し替えているだけである。

その証拠に1か所、デイトレードシステムとなっている（このことからデイトレードが先に販売されたと思われる）。

重要なのは、デイトレードと同様、ここでの実績も「バックテスト」のもの。ソフトに運用実績があるにも関わらずである。

検証

E-BOOKのダイジェスト

誰でも寝てる間に稼げる！

の真実

| 日付 | 運用実績 | | | | バックテスト | | | | |
|------------|------|------|----|------|------------|------|----|------|-------|
| | 当日G | 翌日G | 判定 | 翌日損益 | 当日G | 翌日G | 判定 | 翌日損益 | |
| 2007/8/31 | 120 | -100 | 買い | -100 | 120 | -100 | 売り | 100 | |
| 2007/9/3 | -100 | -80 | 買い | -80 | -100 | -80 | 買い | -80 | |
| 2007/9/4 | -80 | 120 | 買い | 120 | -80 | 120 | 買い | 120 | |
| 2007/9/5 | 120 | -200 | 買い | -200 | 120 | -200 | 売り | 200 | |
| 2007/9/6 | -200 | -100 | 売り | 100 | -200 | -100 | 売り | 100 | |
| 2007/9/7 | -100 | -440 | 買い | -440 | -100 | -440 | 買い | -440 | |
| 2007/9/10 | -440 | 40 | 買い | 40 | -440 | 40 | 買い | 40 | |
| 2007/9/11 | 40 | 120 | 買い | 120 | 40 | 120 | 買い | 120 | |
| 2007/9/12 | 120 | 140 | 買い | 140 | 120 | 140 | 買い | 140 | |
| 2007/9/13 | 140 | 130 | 買い | 130 | 140 | 130 | 買い | 130 | |
| 2007/9/14 | 130 | -150 | 買い | -150 | 130 | -150 | 買い | -150 | |
| 2007/9/18 | -150 | 490 | 買い | 490 | -150 | 490 | 買い | 490 | |
| 2007/9/19 | 490 | 100 | 買い | 100 | 490 | 100 | 買い | 100 | |
| 2007/9/20 | 100 | -140 | 買い | -140 | 100 | -140 | 買い | -140 | |
| 2007/9/21 | -140 | 110 | 買い | 110 | -140 | 110 | 買い | 110 | |
| 2007/9/25 | 110 | -10 | 買い | -10 | 110 | -10 | 買い | -10 | |
| 2007/9/26 | -10 | 160 | 買い | 160 | -10 | 160 | 買い | 160 | |
| 2007/9/27 | 160 | 120 | 買い | 120 | 160 | 120 | 買い | 120 | |
| 2007/9/28 | 120 | 10 | 買い | 10 | 120 | 10 | 買い | 10 | |
| 2007/10/1 | 10 | 250 | 買い | 250 | 10 | 250 | 買い | 250 | |
| 2007/10/2 | 250 | 40 | 買い | 40 | 250 | 40 | 買い | 40 | |
| 2007/10/3 | 40 | -100 | 買い | -100 | 40 | -100 | 買い | -100 | |
| 2007/10/4 | -100 | -30 | 買い | -30 | -100 | -30 | 買い | -30 | |
| 2007/10/5 | -30 | 90 | 売り | -90 | -30 | 90 | 売り | -90 | |
| 2007/10/9 | 90 | 30 | 買い | 30 | 90 | 30 | 買い | 30 | |
| 2007/10/10 | 30 | 10 | 売り | -10 | 30 | 10 | 売り | -10 | |
| 2007/10/11 | 10 | -50 | 買い | -50 | 10 | -50 | 買い | -50 | |
| 2007/10/12 | -50 | 100 | 売り | -100 | -50 | 100 | 売り | -100 | |
| 2007/10/15 | 100 | -120 | 買い | -120 | 100 | -120 | 買い | -120 | |
| 2007/10/16 | -120 | 10 | 買い | 10 | -120 | 10 | 買い | 10 | |
| 2007/10/17 | 10 | 30 | 買い | 30 | 10 | 30 | 買い | 30 | |
| 2007/10/18 | 30 | -170 | 買い | -170 | 30 | -170 | 買い | -170 | |
| 2007/10/19 | -170 | -540 | 買い | -540 | -170 | -540 | 売り | 540 | |
| 2007/10/22 | -540 | 50 | 買い | 50 | -540 | 50 | 買い | 50 | |
| 2007/10/23 | 50 | 50 | 売り | -50 | 50 | 50 | 売り | -50 | |
| 2007/10/24 | 50 | 60 | 売り | -60 | 50 | 60 | 売り | -60 | |
| 2007/10/25 | 60 | 140 | 買い | 140 | 60 | 140 | 買い | 140 | |
| 2007/10/26 | 140 | 170 | 買い | 170 | 140 | 170 | 買い | 170 | |
| 2007/10/29 | 170 | -90 | 買い | -90 | 170 | -90 | 買い | -90 | |
| 2007/10/30 | -90 | -40 | 買い | -40 | -90 | -40 | 買い | -40 | |
| 2007/10/31 | -40 | 110 | 買い | 110 | -40 | 110 | 買い | 110 | |
| 2007/11/1 | 110 | -370 | 買い | -370 | 110 | -370 | 買い | -370 | |
| 2007/11/2 | -370 | -50 | 売り | 50 | -370 | -50 | 売り | 50 | |
| 2007/11/5 | -50 | -150 | 買い | -150 | -50 | -150 | 買い | -150 | |
| 2007/11/6 | -150 | | 買い | | -150 | 70 | 買い | 70 | |
| 2007/11/7 | | | | | 70 | | 買い | | |
| 8/31 からの損益 | | | | -570 | 8/31 からの損益 | | | | 1,180 |
| 勝ち | | | | 22 | 勝ち | | | | 26 |
| 負け | | | | 22 | 負け | | | | 19 |
| 勝率 | | | | 50.0 | 勝率 | | | | 57.8 |

E-BOOK のダイジェスト

デイトレードの商材と同様、運用実績とバックテストが異なっているのだが、意図的に行っていると思えない。

誰でも超簡単!

自動判定機能付驚異のホッタラカシ投資!

20万円でスタートし、3年間で4億円稼ぐ!無期限サポート付

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | たのしい投資実践会 |
| ■販売責任者 | 松原秀樹 |
| ■所在地 | 静岡県三島市泉町 14-10 |
| ■電話 | 055-975-0706 |
| ■メール | piccolo@yumenakama.com |
| ■URL | http://yumenakama.com/systemtrade/top.html |

価格 37,000 円

… 目次 …

【概要】

ホッタラカシ投資シリーズのデイトレード版。日経225先物と日経225先物miniに絞ったシステムトレード。もう1つのオーバーナイトシステムとの違いは成り行き売買を出すタイミング。オーバーナイトが引け値、翌日の寄り付きなのに対し、こちらは当日の寄り付きにエントリーし、引けにイグジットする方法。付属のエクセルソフトで完全システム売買を可能にしている。

E-BOOKのダイジェスト

「ホッタラカシ投資とは？」

タイトルはきわめて魅力的。楽しんで大もうけをしたいという人間の欲望をくすぐる。その方法は、たしかに簡単。付属のエクセルシートにわずかなデータを入力しシートが出した判定通りに売買するだけだ。

日経 225 先物とは、株式市場を代表する株式指数である日経 225 種平均を対象としたデリバティブ取引のこと。近い将来の日経平均を当てるという感覚で価格が推移する。基本的には現実の日経平均に連動するが、先行き強気の見通しが強まれば現実価格よりピッチが高めに上昇する。先安感が強まれば反対に売られる。投資家の思惑が入るため、現物指数より価格のブレが大きくなる。

それに加えて先物ではレバレッジがかかる。レバレッジとはテコの原理のことで、簡単にいえば投資資金以上の規模で取引ができる仕組み。日経 225 先物なら 10 倍以上のレバレッジが一般的である。その分だけリスクーだが、利益が出た時のリターンも大きいというわけだ。

こうしたむずかしい取引に必要なのは前日の 225 先物の 4 本値（始値、高値、安値、終値）と最新の NY ダウの終値。これを当日の 9：00 前に付属のエクセルシートの所定の位置に入力する。あとは「判定ボタン」を押せば、建て玉の判定が出るので、それに従って寄り付きに成り行き注文を出し、その日の引けに成り行きで決済するだけである。

成り行きとは、その時の市場価格で売買するという意思表示。日経先物で

E-BOOKのダイジェスト

あれば確実に売買は執行されるわけだ。

「生命線はソフトの信頼性」

こうした取引の生命線は断るまでもなく、付属のエクセルソフトに対する信頼性。現在、取得できるソフト（9月5日に更新されたバージョン2）は、日経平均の上昇相場が始まった2004年1月以降のデータに基づくもの。「つねに生きの良いシステムを作り続ける以外にシステム・トレードで勝ち続けることはできない」という理念からだ。

いずれにしても、仕組みは簡単、あとはソフトの正確さにかかる。

【評価】

本文の内容はオーバーナイト・システムとほとんど同じ。根本的な違いはデータの部分だけという手抜きぶりである。いかにも二匹目のドジョウを狙ったとしか思えないものである。

2007年9月5日にバージョンアップを行ったため、同期間の運用実績とバックテストの結果が大きく異なっている。運用実績は1520円のプラスでしかないのに対し、バックテストの結果は5420円に膨れ上がっているのである（11月10日現在のソフトによる）。

善意に解釈すれば、システムに大幅な改良を加えた結果、システムの精度

E-BOOKのダイジェスト

が上がったといえるが、マクロが公開されていないので、都合のいいようにデータを改ざんしたと指摘されても反論はできない。

まさにブラックボックスである。不思議なのは直近のパフォーマンスには変化がないのに、日にちが古くなるにつれて、売りと買いの判断が逆転していること。運用実績での勝率は59%なのに、バックテストは70%を超えるのである。

オーバーナイト・システムでも同じ現象が起きており、バックテストで年平均924万円のパフォーマンスをあげたといっても信頼性が落ちるだろう。現在の運用実績を年換算すると1枚で3000円程度しかない。これでも300万円にはなるが、内容とは大きく異なる。

【販売サイトとの比較】

日経平均を「統計的な解析手法にかなりの程度まで予測することができます」と言い切るが、それは不可能に近いだろう。サイトにはバックテストの結果として「儲かる仕組み」を披歴しているが、それはあくまでも「バックテストの結果」であり、随所に「以上の検証は、シミュレーションである旨」を掲げている。購入したソフトには、運用実績があるにも関わらず、それを載せずにバックテストの結果だけをアピールしている点が解せない。

そのソフトに書かれた運用実績が前述したようにバックテストと大きな開きがあることは問題だろう。

E-BOOKのダイジェスト

【検証】

運用実績

| 日数 | 日付 | DOW終値 | 判定 | 翌日値動き | 翌日損益 |
|----|-----------|-----------|----|-------|------|
| 1 | 2007/5/31 | 13,627.64 | 売り | -10 | 10 |
| 2 | 2007/6/1 | 13,668.11 | 売り | -60 | 60 |
| 3 | 2007/6/4 | 13,678.32 | 売り | 40 | -40 |
| 4 | 2007/6/5 | 13,595.46 | 買い | 30 | 30 |
| 5 | 2007/6/6 | 13,465.67 | 買い | 220 | 220 |
| 6 | 2007/6/7 | 13,266.73 | 買い | -90 | -90 |
| 7 | 2007/6/8 | 13,424.39 | 売り | -100 | 100 |
| 8 | 2007/6/11 | 13,424.96 | 売り | -60 | 60 |
| 9 | 2007/6/12 | 13,295.01 | 買い | 80 | 80 |
| 10 | 2007/6/13 | 13,482.35 | 売り | 50 | -50 |
| 11 | 2007/6/14 | 13,553.73 | 売り | 50 | -50 |
| 12 | 2007/6/15 | 13,639.48 | 売り | 30 | -30 |
| 13 | 2007/6/18 | 13,612.98 | 売り | 10 | -10 |
| 14 | 2007/6/19 | 13,635.42 | 買い | 50 | 50 |
| 15 | 2007/6/20 | 13,489.42 | 買い | 140 | 140 |
| 16 | 2007/6/21 | 13,545.84 | 売り | 40 | -40 |
| 17 | 2007/6/22 | 13,360.26 | 売り | -20 | 20 |
| 18 | 2007/6/25 | 13,352.05 | 買い | -40 | -40 |
| 19 | 2007/6/26 | 13,337.66 | 買い | -140 | -140 |
| 20 | 2007/6/27 | 13,427.73 | 売り | 50 | -50 |
| 21 | 2007/6/28 | 13,422.28 | 売り | 130 | -130 |
| 22 | 2007/6/29 | 13,408.62 | 売り | 50 | -50 |
| 23 | 2007/7/2 | 13,535.43 | 売り | -10 | 10 |
| 24 | 2007/7/3 | 13,577.30 | 売り | 0 | 0 |
| 25 | 2007/7/4 | 13,577.30 | 売り | 20 | -20 |
| 26 | 2007/7/5 | 13,565.84 | 買い | -60 | -60 |
| 27 | 2007/7/6 | 13,611.68 | 売り | 30 | -30 |
| 28 | 2007/7/9 | 13,649.97 | 売り | 0 | 0 |
| 29 | 2007/7/10 | 13,501.70 | 買い | -50 | -50 |
| 30 | 2007/7/11 | 13,577.87 | 売り | -140 | 140 |
| 31 | 2007/7/12 | 13,861.73 | 売り | 80 | -80 |
| 32 | 2007/7/13 | 13,950.98 | 買い | -50 | -50 |
| 33 | 2007/7/17 | 13,971.55 | 売り | -100 | 100 |
| 34 | 2007/7/18 | 13,918.22 | 買い | 10 | 10 |
| 35 | 2007/7/19 | 14,000.41 | 売り | 10 | -10 |
| 36 | 2007/7/20 | 13,851.08 | 買い | -10 | -10 |
| 37 | 2007/7/23 | 13,943.42 | 売り | 0 | 0 |
| 38 | 2007/7/24 | 13,716.95 | 買い | 90 | 90 |
| 39 | 2007/7/25 | 13,785.79 | 売り | -130 | 130 |
| 40 | 2007/7/26 | 13,473.57 | 買い | 40 | 40 |
| 41 | 2007/7/27 | 13,265.47 | 買い | 230 | 230 |
| 42 | 2007/7/30 | 13,358.31 | 売り | 0 | 0 |
| 43 | 2007/7/31 | 13,211.99 | 売り | -300 | 300 |
| 44 | 2007/8/1 | 13,362.37 | 売り | 30 | -30 |
| 45 | 2007/8/2 | 13,463.33 | 売り | -20 | 20 |
| 46 | 2007/8/3 | 13,181.91 | 買い | 160 | 160 |
| 47 | 2007/8/6 | 13,468.78 | 買い | -110 | -110 |
| 48 | 2007/8/7 | 13,504.30 | 買い | 140 | 140 |
| 49 | 2007/8/8 | 13,657.86 | 売り | -30 | 30 |
| 50 | 2007/8/9 | 13,270.68 | 買い | -50 | -50 |
| 51 | 2007/8/10 | 13,239.54 | 買い | -50 | -50 |
| 52 | 2007/8/13 | 13,236.53 | 買い | 20 | 20 |
| 53 | 2007/8/14 | 13,028.92 | 買い | -230 | -230 |
| 54 | 2007/8/15 | 12,861.47 | 買い | -190 | -190 |
| 55 | 2007/8/16 | 12,845.78 | 買い | -680 | -680 |
| 56 | 2007/8/17 | 13,079.08 | 売り | -60 | 60 |
| 57 | 2007/8/20 | 13,121.35 | 買い | 100 | 100 |
| 58 | 2007/8/21 | 13,090.86 | 買い | 40 | 40 |
| 59 | 2007/8/22 | 13,236.13 | 売り | 100 | -100 |
| 60 | 2007/8/23 | 13,235.88 | 売り | -60 | 60 |

バックテスト

| 日付 | 判定値 | 判定 | 翌日値動き | 翌日損益 |
|-----------|--------|----|-------|------|
| 2007/5/31 | 13.08 | 売り | -10 | 10 |
| 2007/6/1 | 9.63 | 売り | -60 | 60 |
| 2007/6/4 | 3.18 | 売り | 40 | -40 |
| 2007/6/5 | -12.45 | 買い | 30 | 30 |
| 2007/6/6 | -26.67 | 買い | 220 | 220 |
| 2007/6/7 | -35.83 | 売り | -90 | 90 |
| 2007/6/8 | 27.65 | 売り | -100 | 100 |
| 2007/6/11 | 1.20 | 売り | -60 | 60 |
| 2007/6/12 | -28.79 | 買い | 80 | 80 |
| 2007/6/13 | 43.38 | 売り | 50 | -50 |
| 2007/6/14 | 28.52 | 買い | 50 | 50 |
| 2007/6/15 | 27.06 | 売り | 30 | -30 |
| 2007/6/18 | 3.60 | 買い | 10 | 10 |
| 2007/6/19 | 9.71 | 買い | 50 | 50 |
| 2007/6/20 | -29.81 | 買い | 140 | 140 |
| 2007/6/21 | 16.25 | 売り | 40 | -40 |
| 2007/6/22 | -35.46 | 売り | -20 | 20 |
| 2007/6/25 | -6.11 | 買い | -40 | -40 |
| 2007/6/26 | -1.13 | 売り | -140 | 140 |
| 2007/6/27 | 10.87 | 売り | 50 | -50 |
| 2007/6/28 | 7.06 | 売り | 130 | -130 |
| 2007/6/29 | 9.28 | 売り | 50 | -50 |
| 2007/7/2 | 35.24 | 売り | -10 | 10 |
| 2007/7/3 | 11.46 | 売り | 0 | 0 |
| 2007/7/4 | 8.34 | 売り | 20 | -20 |
| 2007/7/5 | -1.95 | 買い | -60 | -60 |
| 2007/7/6 | 8.12 | 売り | 30 | -30 |
| 2007/7/9 | 15.99 | 売り | 0 | 0 |
| 2007/7/10 | -29.20 | 売り | -50 | 50 |
| 2007/7/11 | 8.59 | 売り | -140 | 140 |
| 2007/7/12 | 58.25 | 買い | 80 | 80 |
| 2007/7/13 | 32.15 | 買い | -50 | -50 |
| 2007/7/17 | 2.32 | 売り | -100 | 100 |
| 2007/7/18 | -15.63 | 買い | 10 | 10 |
| 2007/7/19 | 23.41 | 売り | 10 | -10 |
| 2007/7/20 | -30.89 | 買い | -10 | -10 |
| 2007/7/23 | 14.41 | 売り | 0 | 0 |
| 2007/7/24 | -42.18 | 買い | 90 | 90 |
| 2007/7/25 | 11.27 | 売り | -130 | 130 |
| 2007/7/26 | -74.49 | 買い | 40 | 40 |
| 2007/7/27 | -55.50 | 買い | 230 | 230 |
| 2007/7/30 | 27.42 | 売り | 0 | 0 |
| 2007/7/31 | -28.13 | 売り | -300 | 300 |
| 2007/8/1 | 19.29 | 売り | 30 | -30 |
| 2007/8/2 | 34.17 | 売り | -20 | 20 |
| 2007/8/3 | -60.08 | 買い | 160 | 160 |
| 2007/8/6 | 63.06 | 売り | -110 | 110 |
| 2007/8/7 | 10.29 | 買い | 140 | 140 |
| 2007/8/8 | 41.15 | 売り | -30 | 30 |
| 2007/8/9 | -81.00 | 売り | -50 | 50 |
| 2007/8/10 | -19.58 | 買い | -50 | -50 |
| 2007/8/13 | -2.24 | 買い | 20 | 20 |
| 2007/8/14 | -41.90 | 売り | -230 | 230 |
| 2007/8/15 | -52.20 | 売り | -190 | 190 |
| 2007/8/16 | -8.48 | 売り | -680 | 680 |
| 2007/8/17 | 34.32 | 売り | -60 | 60 |
| 2007/8/20 | 23.43 | 買い | 100 | 100 |
| 2007/8/21 | 1.01 | 買い | 40 | 40 |
| 2007/8/22 | 38.58 | 売り | 100 | -100 |
| 2007/8/23 | 15.53 | 売り | -60 | 60 |

E-BOOKのダイジェスト

驚異のホツタラカシ投資！

の真実

| | | | | | |
|-----|------------|------------------|----|------|------|
| 61 | 2007/8/24 | 13.378.87 | 売り | -190 | 190 |
| 62 | 2007/8/27 | 13.322.13 | 買い | 60 | 60 |
| 63 | 2007/8/28 | 13.041.85 | 売り | 200 | -200 |
| 64 | 2007/8/29 | 13.289.29 | 買い | -70 | -70 |
| 65 | 2007/8/30 | 13.238.73 | 買い | 280 | 280 |
| 66 | 2007/8/31 | 13.357.74 | 売り | 40 | -40 |
| 67 | 2007/9/3 | 13.357.74 | 売り | -60 | 60 |
| 68 | 2007/9/4 | 13.448.86 | 売り | -330 | 330 |
| 69 | 2007/9/5 | 13.305.47 | 買い | 250 | 250 |
| 70 | 2007/9/6 | 13.363.35 | 売り | -40 | 40 |
| 71 | 2007/9/7 | 13.113.38 | 買い | 80 | 80 |
| 72 | 2007/9/10 | 13.127.85 | 買い | 60 | 60 |
| 73 | 2007/9/11 | 13.308.39 | 売り | -180 | 180 |
| 74 | 2007/9/12 | 13.291.65 | 買い | -120 | -120 |
| 75 | 2007/9/13 | 13.424.88 | 買い | 210 | 210 |
| 76 | 2007/9/14 | 13.403.42 | 売り | -160 | 160 |
| 77 | 2007/9/18 | 13.739.39 | 買い | 100 | 100 |
| 78 | 2007/9/19 | 13.815.56 | 買い | -90 | -90 |
| 79 | 2007/9/20 | 13.766.70 | 買い | 30 | 30 |
| 80 | 2007/9/21 | 13.759.06 | 買い | 50 | 50 |
| 81 | 2007/9/25 | 13.778.65 | 買い | 80 | 80 |
| 82 | 2007/9/26 | 13.878.15 | 売り | 200 | -200 |
| 83 | 2007/9/27 | 13.912.94 | 売り | -150 | 150 |
| 84 | 2007/9/28 | 13.895.63 | 買い | 10 | 10 |
| 85 | 2007/10/1 | 14.087.55 | 売り | -10 | 10 |
| 86 | 2007/10/2 | 14.047.31 | 買い | 70 | 70 |
| 87 | 2007/10/3 | 13.968.05 | 買い | 20 | 20 |
| 88 | 2007/10/4 | 13.974.31 | 買い | 40 | 40 |
| 89 | 2007/10/5 | 14.043.73 | 売り | -20 | 20 |
| 90 | 2007/10/9 | 14.164.53 | 売り | 0 | 0 |
| 91 | 2007/10/10 | 14.078.69 | 売り | 290 | -290 |
| 92 | 2007/10/11 | 14.015.12 | 買い | -140 | -140 |
| 92 | 2007/10/11 | 14.015.12 | 買い | -140 | -140 |
| 93 | 2007/10/12 | 14.093.08 | 売り | -40 | 40 |
| 94 | 2007/10/15 | 13.984.80 | 買い | -150 | -150 |
| 95 | 2007/10/16 | 13.912.94 | 買い | -160 | -160 |
| 96 | 2007/10/17 | 13.892.54 | 買い | 110 | 110 |
| 97 | 2007/10/18 | 13.888.96 | 売り | -130 | 130 |
| 98 | 2007/10/19 | 13.522.02 | 買い | 160 | 160 |
| 99 | 2007/10/22 | 13.566.97 | 売り | -10 | 10 |
| 100 | 2007/10/23 | 13.676.23 | 売り | -160 | 160 |
| 101 | 2007/10/24 | 13.675.25 | 買い | -150 | -150 |
| 102 | 2007/10/25 | 13.671.92 | 買い | 70 | 70 |
| 103 | 2007/10/26 | 13.806.70 | 売り | 70 | -70 |
| 104 | 2007/10/29 | 13.870.26 | 売り | 30 | -30 |
| 105 | 2007/10/30 | 13.792.47 | 買い | 80 | 80 |
| 106 | 2007/10/31 | 13.930.01 | 売り | 90 | -90 |
| 107 | 2007/11/1 | 13.567.87 | 買い | -50 | -50 |
| 108 | 2007/11/2 | 13.595.10 | 買い | -140 | -140 |
| 109 | 2007/11/5 | 13.543.40 | 買い | 120 | 120 |
| 110 | 2007/11/6 | 13.660.94 | 売り | -210 | 210 |
| 111 | 2007/11/7 | 13.300.02 | 買い | -40 | -40 |
| 112 | 2007/11/8 | | | | |
| 113 | | 5/31~11/7までの累積損益 | | | 1520 |
| 114 | | | 勝ち | | 59 |
| 115 | | | 負け | | 41 |
| 116 | | | 勝率 | | 59 |

| | | | | |
|------------|--------|------------------|------|------|
| 2007/8/24 | 22.20 | 売り | -190 | 190 |
| 2007/8/27 | -16.09 | 買い | 60 | 60 |
| 2007/8/28 | -65.42 | 買い | 200 | 200 |
| 2007/8/29 | 53.00 | 売り | -70 | 70 |
| 2007/8/30 | -4.66 | 買い | 280 | 280 |
| 2007/8/31 | 42.46 | 売り | 40 | -40 |
| 2007/9/3 | 26.07 | 売り | -60 | 60 |
| 2007/9/4 | 12.45 | 売り | -330 | 330 |
| 2007/9/5 | -41.45 | 買い | 250 | 250 |
| 2007/9/6 | 18.87 | 売り | -40 | 40 |
| 2007/9/7 | -57.30 | 買い | 80 | 80 |
| 2007/9/10 | -3.72 | 買い | 60 | 60 |
| 2007/9/11 | 48.54 | 売り | -180 | 180 |
| 2007/9/12 | -6.15 | 買い | -120 | -120 |
| 2007/9/13 | 28.86 | 買い | 210 | 210 |
| 2007/9/14 | 9.14 | 売り | -160 | 160 |
| 2007/9/18 | 61.26 | 買い | 100 | 100 |
| 2007/9/19 | 38.46 | 買い | -90 | -90 |
| 2007/9/20 | -11.92 | 買い | 30 | 30 |
| 2007/9/21 | -6.07 | 買い | 50 | 50 |
| 2007/9/25 | 12.13 | 買い | 80 | 80 |
| 2007/9/26 | 26.56 | 売り | 200 | -200 |
| 2007/9/27 | 21.99 | 売り | -150 | 150 |
| 2007/9/28 | -6.38 | 買い | 10 | 10 |
| 2007/10/1 | 41.76 | 売り | -10 | 10 |
| 2007/10/2 | 0.28 | 買い | 70 | 70 |
| 2007/10/3 | -11.64 | 買い | 20 | 20 |
| 2007/10/4 | -0.63 | 買い | 40 | 40 |
| 2007/10/5 | 16.86 | 売り | -20 | 20 |
| 2007/10/9 | 26.24 | 売り | 0 | 0 |
| 2007/10/10 | -15.50 | 売り | 290 | -290 |
| 2007/10/11 | 1.03 | 買い | -140 | -140 |
| 2007/10/12 | 9.40 | 売り | -40 | 40 |
| 2007/10/15 | -19.89 | 買い | -150 | -150 |
| 2007/10/16 | -24.95 | 買い | -160 | -160 |
| 2007/10/17 | -5.72 | 買い | 110 | 110 |
| 2007/10/18 | 8.73 | 売り | -130 | 130 |
| 2007/10/19 | -83.53 | 買い | 160 | 160 |
| 2007/10/22 | 6.73 | 売り | -10 | 10 |
| 2007/10/23 | 26.60 | 売り | -160 | 160 |
| 2007/10/24 | -3.85 | 買い | -150 | -150 |
| 2007/10/25 | -1.69 | 買い | 70 | 70 |
| 2007/10/26 | 39.80 | 売り | 70 | -70 |
| 2007/10/29 | 19.98 | 売り | 30 | -30 |
| 2007/10/30 | -15.51 | 買い | 80 | 80 |
| 2007/10/31 | 31.80 | 売り | 90 | -90 |
| 2007/11/1 | -68.55 | 買い | -50 | -50 |
| 2007/11/2 | -11.57 | 買い | -140 | -140 |
| 2007/11/5 | -16.59 | 買い | 120 | 120 |
| 2007/11/6 | 27.12 | 売り | -210 | 210 |
| 2007/11/7 | -82.92 | 買い | -40 | -40 |
| 2007/11/8 | -14.23 | 買い | | |
| | | 5/31~11/7までの累積損益 | | 5420 |
| | | | 勝ち | 72 |
| | | | 負け | 28 |
| | | | 勝率 | 72 |

E-BOOK のダイジェスト

このように、運用実績とバックテストの大きな差が生まれているは非常に問題だろう。

月間勝率100%・毎月100円超の実績!
初心者でも楽々稼げる

日経225先物

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 山本和彦 |
| ■販売責任者 | 山本和彦 |
| ■所在地 | 沖縄県宜野湾市佐真下 86-1 ルナ・エスパシオ 303 |
| ■電話 | 098-898-8780 |
| ■メール | n225sign@nifty.com |
| ■URL | http://nikkei225.main.jp/01/info1/ |

価格 28,800 円

… 目次 …

| | | |
|----|--------------------------------|----|
| 1章 | はじめに..... | 2 |
| 2章 | 日経225先物取引の概要..... | 4 |
| 3章 | 日経225先物取引の始め方..... | 11 |
| 1) | 証券会社の選び方..... | 11 |
| 2) | 取引口座の作り方..... | 13 |
| 3) | チャート画面のセッティング方法..... | 14 |
| 4章 | 毎月100万円を稼ぎ出す売買方法..... | 17 |
| 1) | どのチャート・テクニカル指標を見るか..... | 18 |
| 2) | 売買サインの基本ルール..... | 19 |
| 3) | ロスカットのタイミング..... | 20 |
| 5章 | 日経225先物取引の実践売買..... | 20 |
| 1) | 実際の売買に使う補助チャート..... | 20 |
| 2) | 1日の値動きを予測する・上値・下値抵抗ラインの作成..... | 24 |
| 3) | 板の見方・歩み値の見方..... | 25 |

| | | |
|----|---------------------------|----|
| 4) | 経済指標の発表をどうみるか..... | 26 |
| 5) | 証券会社の情報・有料情報をどう利用するか..... | 27 |
| 6) | 225先物取引で気をつける事項..... | 29 |
| 6章 | テクニカル指標の概略..... | 30 |
| 7章 | 用語集..... | 53 |
| 8章 | おわりに..... | 59 |

●全 60 ページ。キャプチャー画像が不鮮明で説明が理解しにくい。

E-BOOK のダイジェスト

セールスレターには「月間勝率 100%！ 10 ヶ月連続プラス決済」「毎月 100 万円超の実績」のキャッチコピーが並ぶ。

勝率 100%は普通ありえない。これまでも勝率 100%を謳っている商材はあったが、すべて損きりを絶対しない、利食い幅に比べて、損きり幅が異常に広いなど、所詮は実行不可能な売買ロジックを駆使したインチキ商材であった。

本商材ははたしてどうなのか、検証してみたい。

商材名の「初心者でも楽々稼げる 2 2 5 先物・必勝法」でもわかるように日経先物を対象としたデイトレード手法である。

では順を追って内容を見ていこう。本商材は全 60P からなり、前半 18P までは日経先物の概要、証券会社の選び方、口座開設法の仕方、チャートの設定の仕方などの基礎知識の説明に費やされている。

初心者向けにわかりやすく書かれているが、一般書籍レベルの内容であり、特に記すこともない。

次からが売買ロジックの説明となる。

1. 使用するテクニカル指標

スローストキャスティクス（5 分足、1 時足）

E-BOOKのダイジェスト

2. エントリー

まず以下の条件になったらエントリーの準備をする。

- ・ ストキャスティクススローが5分足、1時間足とも20以下になった時点で買い準備。
- ・ ストキャスティクススローが5分足、1時間足とも80以上になったら売り準備。

以上の状態を確認したら買いの場合はストキャスティクススローの%Kと%Dが20付近でクロスしたらエントリー。

売りの場合はストキャスティクススローの%Kと%Dが80付近でクロスしたらエントリー。

3. ロスカット

売買サインの高値、安値から±60円にロスカットをおく。

これは著者の過去の検証データから割り出した値だそう。

4. 補助チャート

以上が売買の基本だが、補助的に以下のテクニカル指標も利用する。

- ・ ボリンジャーバンドの5分足
- ・ 一目均衡表の5分足

ボリンジャーバンドの使い方は±1σをサポート・レジスタンスの目安として使う方法で、買いなら-1σの底、売りなら+1σの天井付近で仕掛

E-BOOKのダイジェスト

ける。

一目均衡表は主に先行スパン、転換線を参考にする。

価格が先行スパン、転換線から大きく離れて推移している場合はその後、先行スパン、転換線の近づいていく傾向が強くとそれを売買の際に参考にする。

ここまでの売買ロジックの基本だ。具体的には狙う値幅のよって以下のよ
うに売買する。

・1回の取引で100円程度の値幅を狙う

1時間足のストキャスティクススローを主に使い、1時間足のストキャ
スティクススローが20付近でクロスしたら買い、80付近でクロスしたら売る。

ストキャスティクススローの20から80の間の値幅の内の100円を狙う。

・1回の取引で30～50円程度の値幅を狙う

まず1時間足のストキャスティクススローが上昇しているか下降している
かを確認する。

次に5分足のストキャスティクススローの向きが1時間足のストキャ
スティクススローと同じであれば5分足のストキャスティクススローが20付
近でクロスしたら買い、80付近でクロスしたら売る。

ストキャスティクススローの20から80の間の値幅の内の30～50円を

E-BOOKのダイジェスト

狙う。

ロスカットは20～40円程度に置き、ボリンジャーバンド、一目均衡表を併用しながら売買する。

また以下のマーケットデータ、テクニカルデータから1日の値幅を予測し、サポート・レジスタンスラインとして参考にする。

マーケットデータ

- ・前日のCME終値、前日の終値・高値・安値

テクニカルデータ

日足

- ・一目均衡表の転換線・基準線
- ・ボリンジャーバンドの $\pm 1\sigma$
- ・移動平均線（25日・5日）

週足

- ・ボリンジャーバンドの $\pm 1\sigma$

さてここまでが売買ロジックの説明である。、なんのことはないストキャスティクスの売られすぎ、買われすぎレベルでのクロスを売買シグナルにする昔からあるテクニカル分析である。

補助的に使用するボリンジャーバンド、一目均衡表の使い方も教科書通りで特に目新しい部分はない。

E-BOOKのダイジェスト

はっきりいってこの売買ロジックで勝率 100%などありえないだろう。

裁量の部分もあるので、個人差はあるだろうが、これで勝率 100%なら誰もが大金持ちになれる。

売買結果もセールスページにある「月間利益いくら、何勝何敗、勝率何%」という記述だけでは何の証明にもならない。

リアルタイムで売買成績を載せているというブログも見てみたがこれも同じような記述だし後でいくらでも修正できるので証拠にはならない。

著者が本当に勝率 100%を達成したというなら納得ができるような証拠を載せるのが販売者としての義務であろう。

虚偽広告もいいところだろう。また商材名でもセールスレターでも「初心者でも楽々稼げる」と謳っているがこれもまったく正しくない。

裁量部分がかなりある上にその部分の説明も「参考にしましょう、気をつけましょう」とあるのみで具体性がない。

これでは初心者はまったくわからないであろうし、実践などできるわけがない。

ここまでで 24P である。この商材は全 60P であるので後のページもざっと説明しよう。

・寄り付き値を予測する方法

E-BOOK のダイジェスト

前日の CME 終値と当日 8:45 分の開場する SGX の寄り付き値を参考に寄り付き値を予測する。

重大ニュースがない限り CME 終値との寄り付き値から大きくは乖離しない。

・売買板の見方

売り板と買い板が極端に偏っていないか、1000 枚以上の大きな板がないかを確認する。

1000 枚以上の板がある場合は大口投資家の見せ板である可能性が高いのでエントリーを控える。

・歩み値の見方

100 枚以上の大きな出来高をみて価格がどちらに動くかを予測する。

200 枚以上の大口の約定があればその方向に動くことが多い。

・日経先物で気をつけること。

前場の寄り付きは値動きが荒くなるので、基本的に手を出さない。

前場と後場はギャップが出る場合が多いので、安全のため前場でポジションを一度決済したほうが良い。

SQ 日、特に 3、6、9、12 月のメジャー SQ は値動きが荒くなるので、注意する。

E-BOOKのダイジェスト

この部分も内容は正しいのだが、一般書籍レベルの話である。
わざわざ高いお金を払って読む情報ではない。

ここまでで29Pである。後のページはなにがかいてあるかというとテクニカル指標の説明、用語集である。

もちろんこれもどこにでもある情報だ。はっきりいって売買ロジックの説明以降は明らかなページ数を増やすために無理やりつけたものだ。

裁量の入った具体性のない一般書籍レベルの売買ロジックを「勝率100%」「初心者でも楽々できる」と謳い、半分以上のページを水増しする、そしてはっきり有効性を確認できる売買成績を載せない。

こんな商材はまったく買うに値しないのは当然だろう。
けっしてこんな商材を購入してはいけない。

暴落投資法

発行元情報

| | |
|--------|-------------------------|
| ■発行元 | プライム株式会社 |
| ■販売責任者 | 池内圭 |
| ■所在地 | 埼玉県入間市二本木 1280-1 |
| ■電話 | 050-5863-6128 |
| ■メール | info@1primu.net |
| ■ URL | http://1primu.net/boura |

価格 35,800 円

… 目次 …

| | | |
|-----|--------------------------|----|
| 1. | はじめに..... | 5 |
| 2. | システムトレードについて..... | 6 |
| 3. | 優位性のあるトレードコンセプト..... | 8 |
| 4. | 銘柄スクリーニングからトレード実践まで..... | 11 |
| | a 銘柄スクリーニング | |
| | b 追加チェック事項の確認 | |
| | c 資金配分の決定 | |
| | d 注文を出す | |
| 5. | 終わりに..... | 32 |
| 6. | 返金保証について..... | 33 |
| 7. | サポートのご案内..... | 34 |
| おまけ | 自分で売買ルールを検証したい方のために..... | 35 |

●全35ページ。

取引画面の画像などが挿入されていて視覚的に見やすい構成となっている。

E-BOOKのダイジェスト

「…2年3ヶ月で3億1065万円の現金を盗み取り、今では月収3000万をコンスタントに達成している…」

セールスレターにはこうある。もし本当だとしたらすごいことだ。

売買成績をみても1990～2008年の間で年平均650%のパフォーマンスを出している。

とはいってもこの結果をそのまま信用することはできない。

商材の検証を始めよう。

この商材の手法は株式システムトレードであり2つのトレードプランを併用する。

トレードプラン1 急騰銘柄の逆張り

仕掛け：短期的の急騰した銘柄が反落するのを狙い逆張りする。

手仕舞い：一定の利益が出たら利食いし、利食いができなかった場合は一定期間経過後損きりする。

トレードプラン2 トrend銘柄の押し目買い

仕掛け：強いトレンドに乗っている銘柄が一時的に急落した時その押し目を狙って買い。

手仕舞い：トレンドを形成している間は保有し、トレンドが崩れた時に仕切る。

E-BOOK のダイジェスト

2つのトレードプランの具体的な売買ルールは以下となる。

トレードプラン1

仕掛け条件

1. 当日終値が以下の条件をすべて満たす時、翌日始値で仕掛け
 - a. 5日移動平均乖離率が-12%以下
 - b. 25日移動平均乖離率が-20%以下
 - c. ストキャスティクス%D（9日、3日）が25%以下
 - d. 株価暴落率が-7%以下
 - e. 信用倍率が2倍以下

手仕舞い条件

当日終値が以下 [o3] の条件のいずれかを満たす時、翌日始値で手仕舞い。

- a. 仕掛けた価格に対して10%以上の利益が出た時
- b. 仕掛けから60日以上経過した時

トレードプラン2

仕掛け条件

当日終値が以下の条件を全て満たす時、翌日始値で仕掛け

- a. 25日移動平均乖離率が0%以上
- b. 株価暴落率が-7%以下
- c. 信用倍率が2倍以下

手仕舞い条件

E-BOOKのダイジェスト

当日終値が以下の条件のいずれを満たす時、翌日始値で手仕舞い。

- a 25日移動平均乖離率が0%以下
- b 仕掛けた価格に対して10%以上の損失となった時
- c 仕掛けから60日以上経過した時

これらの売買ルールを元に以下の手順で取引を行う。

まずは銘柄のスクリーニングを行う。商材中では松井証券のネットストック口座で行っているが同様の機能があるならば他の証券会社の口座でも構わないだろう。

以下のテクニカル指標の条件で銘柄をスクリーニングする。

トレードプラン1

1. 5日移動平均乖離率・・・100～12%
2. 25日移動平均乖離率・・・100～20%
3. ストキャスティクス・・・0～25%
4. 株価暴落率・・・100～7%
5. 信用倍率・・・0～2倍

画面には「最低投資金額・RSI・サイコロジカルライン・ストキャスティクス・ボリュームレシオ・信用倍率・流動性・対日平均ベータ数」を表示させておく。

E-BOOKのダイジェスト

トレードプラン2

1. 25日移動平均乖離率・・・0～100%
2. 株価暴落率・・・-100%から-7%
3. 信用倍率・・・0～2倍

画面には「最低投資金額・RSI・サイコロジカルライン・ストキャスティクス・ボリュームレシオ・信用倍率・流動性・対日平均ベータ数」を表示させておく。

以上の条件でトレードプラン1、2ともに検索を実行する。

次に検索結果からチェック項目にしたがって銘柄をさらに絞っていく。

まずは検索された銘柄数を見て下記のように判断する。

銘柄数が1～10銘柄の場合

- ・基本的には見送り

銘柄数が11～100銘柄の場合

- ・銘柄を選別しながら仕掛け

銘柄数が101銘柄以上の場合

- ・基本的には仕掛け

この段階で銘柄数が10銘柄以上の場合に次のステップに進む。

101銘柄以上の場合には次からのチェックを省略していきなり取引してもよいが、万全を期すなら次のチェックに進む。

次は企業業績をチェックする。企業業績が悪化していないか業績の下方修

E-BOOK のダイジェスト

正がないかを「TOKYOIPO」や「トレーダーズウェブ」といったサイトで調べる。

<http://www.tokyoipo.com>

<http://www.traders.co.jp/>

直近 1 週間以内に悪材料がなければ次のチェックに進む。

次は「トレーダーズウェブ」で信用残の推移というページの信用評価率という項目を見る。

これは個人投資家が信用取引でどれくらいの含み損を抱えているかのデータである。

目安としては-20%より大きな時はトレードチャンスで-5%より小さい時はトレードを見送る。

-5~-20%の間の場合は他のチェック項目を見て勝算がありそうなら仕掛けてもよい。

次は「トレーダーズウェブ」で外資系動向というページの差し引きという項目を見る。

これは外国人が買い越しか売り越 [o5] しかを見るデータである。

ここがプラスなら基本的には仕掛け、マイナスなら見送る。

E-BOOKのダイジェスト

ただしマイナスでも他のチェック項目を見て勝算がありそうなら仕掛けてもよい。

以上のチェック項目をパスした銘柄を売買ルールに沿ってトレードする。

手仕舞い条件は前述した売買ルールに従うが、保有中に業績の下方修正が発表された場合は即手仕舞いする。

逆に業績の上方修正が発表された場合は手仕舞い条件の「仕掛けから60日以上経過したとき」を過ぎても保有しても構わない。

資金配分は以下のルールに沿って行う。

1. 基本的には検索結果で表示される「流動性」の数字の大きい銘柄を優先してトレードする。
2. 最低でも10銘柄以上分散してトレードし、可能な限り等金額になるようにする。
3. 資金量に対して最低投資金額が高額な銘柄は見送る。
4. 信用取引の場合レバレッジは2倍までとする。
できればレバレッジを使わないほうが望ましい。

以上がこの手法の内容だ。売買ルールとしては妥当なものだろう。

「大きい」「可能な限り」「高額」という抽象的な表現がらぶが、基準、目安がなければ意味がない。

E-BOOKのダイジェスト

セールスレターにある売買成績が正しいものならば統計的にも優位性が証明されているとも言えよう。

しかし資金管理の部分はいささか簡単に流してしまっている。

書いてあることはもっともだが、具体的な数字で示した内容がないと個人によって差がでてしまうだろう。

誰がやっても同じ結果になるのがシステムトレードのはずだ。

資金管理は非常に重要な部分なのだがこの商材は仕掛けの部分に力を注ぎすぎてしまったようだ。

企業ですら、資金管理ができないところはつぶれるのだ。不確実性の高い投資で資金管理をきちんとせずにトレードして3億モノ利益を果たして上げられるものだろうか？この部分を読むと筆者の実績には疑問符がつく。

またセールスレターと商材内容の乖離が随所にある。

「投資の際に絶対に参考にしてはならない、カリスマ投資家達の情報とは・・・？」

この部分はいくら探しても商材中にはでてこない。

「1522人を対象に調査した結果明らかになった、98%以上の投資家にみられるあるひとつの根本的な問題とは？」

この部分も調査結果など全然出てこない。何の調査結果を根拠にしているのかがわからない。

E-BOOK のダイジェスト

「世界でも上位 5 % にランキングされる超一流トレーダーのみが人知れずこっそり実践している、統計的に見て圧倒的に有利なロスカット法とは・・・？」

この商材で使用しているロスカットはそれほど特別ではない一般的な手法だ。

これだけではなく細かくみればまだセールスレターの虚偽広告はたくさんある。

年利平均 650 % もの利益を上げられるかどうかはわからないが、売買ルール自体は妥当なものだけにこうしたハッターともいえるセールスレターの内容は残念だ。

これでは売買成績も本当なのかと疑われてもしょうがないだろう。下手なマーケティングがかえって逆効果になってしまったようだ。

FX 完全攻略！トレーダーズ・クラブ！

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | パワーサポート |
| ■販売責任者 | 柳園 武彦 |
| ■所在地 | 愛知県大府市中央町 7-142 - 602 |
| ■電話 | 0562-48-8999 |
| ■メール | info@pawa-sapo.com |
| ■ URL | http://pawa-sapo.com/top.html |

価格 10,000 円

… 目次 …

なし

E-BOOKのダイジェスト

1. 3つの相場を見極める

相場には上昇トレンド、下落トレンド、ノントレンドしかない。ボリンジャーバンドでトレンドを把握する。中心線が上向きなら上昇、下向きなら下落、横ばいならレンジ相場。

これが把握できれば価格の変動幅がわかる。上昇トレンドの時には中心線から $+2\sigma$ のなかで価格が推移する。下降トレンドなら中心線から -2σ のなかで動く。

そしてレンジ相場は $\pm 2\sigma$ の間。これが理解できればトレンドの変換期がわかる。

グランベルの法則とペナントパターンが重要。ペナントの収束でトレンドの変換が起こる。

2. ピンポイントでの予想が重要

日足3本がわかれば1時間足では72本分に相当する。つまり日足1本が見えれば1時間足24本で勝負ができることになる。

日足で予想を立て、1時間足で、その予想通りに動いたときにエントリーする。予想と逆に動いたときはエントリーしない。

E-BOOKのダイジェスト

3. ストップの入れ方

深く置くか、浅く置くかのいずれか。

中途半端はやめる。深く置くならボリンジャーバンドの外に置く。

浅く置く。これはメインとしている足より短い時間足のボリンジャーバンドの外に置く。

動画と音声で説明しているのもので、初心者には理解しやすいが、ただ、それだけ。主にボリンジャーバンドを使って相場の見方を説明しているが、時折、説明に給する場面もある。

それは実際にボリンジャーバンドを使ったときの判断の難しさを証明しているようなもの。

動画といっても、実際に相場が動いているわけではないので、むしろテキスト形成の方がわかりやすいだろう。

【検証結果】

具体的な売買タイミングを指示していないため検証不能

6月30日 第4回限定モニタ締切

暗黒 FX レバレッジの秘密

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 有限会社 エッジ・インベストメント |
| ■屋号 | FX 投資研究会 |
| ■販売責任者 | 麻生行俊 |
| ■所在地 | 東京都千代田区神田小川町 2-2-2 小川町 B5 ビル |
| ■電話 | 03-5282-7455 |
| ■メール | akfx331@gmail.com |
| ■ URL | http://www.edge-investment.com/infocart/akfx.html |

価格 49,800 円

… 目次 …

| | |
|--------------------------------|----|
| レバレッジについて | |
| その1 取引証拠金に対するレバレッジ比率..... | 5 |
| レバレッジについて | |
| その2 実質レバレッジ..... | 14 |
| 第一章 トレードスタイル、投資資金に合ったFX業者の見つけ方 | |
| 第二章 使用通貨ペアと取引時間帯..... | 50 |
| 第三章 使用インジゲーター..... | 51 |
| 第四章 エントリータイミング..... | 55 |
| 第五章 手仕舞いルール..... | 57 |
| 第六章 トレードスタイルと業者選び..... | 62 |
| 最後に..... | 65 |
| サポートについて..... | 66 |

- 全 67 ページ。付属品冊子版、動画解説 CD。行間が広く 1 ページの文字数も少ない。実質的な分量はページ数の半分くらい。冊子版、動画解説 CD とともに PDF と内容は同じ。

E-BOOKのダイジェスト

この商材、まず目を引くのがそのセールスレターの内容である。

「なぜ、レバレッジは、間違えて伝えられているのか？すべては、フィクサー黒田の暗躍の結果なのです。日本のFX市場ができたころに、フィクサー黒田が「ある仕掛け」をしたため、今では、日本のFX会社は、フィクサー黒田の言いなりです。レバレッジは、フィクサー黒田の指示により、「意図的」にわかりにくく伝えられているのです。」

つまりフィクサー黒田なる人物がFX市場を影で操り間違ったレバレッジを流しているということらしい。

そんなことが可能だとはとても思えないし、もしできたとしても国家予算並みの資金が必要だろう。

それだけの資金があったらFX投資などする必要も無いと思うのだが。

またこうもある。「フィクサー黒田は、莫大な資金力を背景に、日本のインターネット情報も、操作しようとしています。実際、有名なブログ運営者も、フィクサー黒田の子飼いが札束を押しつけると、レバレッジの情報操作に協力してくれました。」

数あるFXブログもみなフィクサー黒田に操作されているということである。

筆者もFXブログを運営していてレバレッジについても何度か書いたこと

E-BOOKのダイジェスト

があるが、フィクサー黒田なる人物からのコンタクトはなかったが。

そのフィクサー黒田なる人物の経歴は以下のように記載されている。

「ホームレスのテントが並ぶ公園のトイレで孤児として誕生。

幼少時より、孤児院で育ち、9歳の時に脱走。

窃盗と恐喝を生活の糧とする。

13歳で暴力団に入り、裏社会の道を突き進む。

以降、金融業、人身売買業、麻薬密売等にて莫大な富を築く。

22歳のときに、裏社会の大物フィクサーと共同で外国為替にかかわるビジネスを起業。

莫大な資金力を武器に、日本のFX会社を裏で操っている。」

ここまで来ると冗談としか思えない。しかしこの人物は実在するらしく希望すれば面談できるという。

もっても1時間50万円の料金はとられるということだが。

さてあまりに突拍子もないセールスレターの内容だったのでつい前置きが長くなってしまった。

早速商材の内容に入ろう。ここでは実質レバレッジというレバレッジの考え方がまず説明される。

この実質レバレッジがセールスレターにある「本当のレバレッジ」のこと

E-BOOKのダイジェスト

だろう。

実質レバレッジとは以下の式で計算される。

想定元本÷時価評価されたFX業者に預金している資産

想定元本というのは例えばドル円が100円の時に1枚（1万通貨）のポジションを持ったとする。

$$100円 \times 1万通貨 = 100万円$$

これが想定元本になる。ご存知のようにFX取引では実際はこの金額分の通貨を保有しているわけではなく、決済時に差額のみをやり取りする。

時価評価されたFX業者に預金している資産とは例えば口座を開いた時に100万円を入金したとする。

この時点では時価評価されたFX業者に預金している資産は100万である。

その後例えばドル円を100円の時に10枚買ったとする。

先ほどと同じように想定元本を計算すると1000万円になる。

その後為替レートが変動してドル円が95円になったとする。

その時点での想定元本は950万円となり、50万円の含み損が発生する。

その場合の時価評価されたFX業者に預金している資産は100万円－50万円＝950万円となる。

E-BOOKのダイジェスト

この実質レバレッジは保有しているポジションのレートの変化によって変わる。

先ほどの例だとドル円が100円の際は10倍だが95円の際は19倍になっている。

つまりよりリスクが大きくなっていることがわかる。

このように実質レバレッジを把握することはリスクコントロールにおいて重要だ。

しかしこのような知識は書籍やネットで充分入手できるものだ。

それにFX業者が発表しているレバレッジは最大で証拠金の何倍のポジションが保有できるかというもので、比較する事自体おかしい。

保有するポジション量と預け入れ資産量を調節すればレバレッジをコントロールできる。この考え方は実質レバレッジと同じだ。

この実質レバレッジをFX業者が公表しないのは「FX初心者の方に自分がなにをやっているのかわかって欲しくないのです」という理由からだそう
だ。

ここまでいくと少し誇大妄想の気がある。そして驚いたことにこの実質レバレッジをどう使って取引をしていくかについてはまるで書かれていない。

あんなに「本当のレバレッジを知れば勝てる」とセールスレターで煽っているのにだ。

E-BOOKのダイジェスト

言うまでもないが誇大広告、虚偽広告である。

次からは実質レバレッジのことなど忘れたかのように売買ルールの説明に入ってしまう。

セールスレターと商材内容にあまりに乖離がありすぎる。

購入者は取引に関係ない豆知識に高額な料金を払うのではないのだ。

さて売買ルールの説明に戻ろう。取引する通貨ペアは特に指定はない。

デイトレードにはユーロ円、スイングトレードにはドル円がオススメだとのことだ。

取引時間帯はロンドン市場、ニューヨーク市場が開いている時間帯が望ましいという。

使用する指標は以下となる。

1. **指数加重移動平均線 (EMA) 5本線と21本線**
2. **MACD**
3. **ストキャスティクススロー (SSD)**

エントリーは以下になる。

E-BOOK のダイジェスト

買い

1. SSD のゴールデンクロスを確認
2. 次に MACD のゴールデンクロスを確認
3. エントリー

売り

1. SSD のデッドクロスを確認
2. 次に MACD のデッドクロスを確認
3. エントリー

決済は EMA を使う。

買いの場合は EMA の 5 本線と 21 本線のデッドクロス、売りの場合は MA の 5 本線と 21 本線のゴールデンクロスで決済する。

損きりは以下のポイントに置く。

超短期スキャルピングの場合・・・5～10 pips

スキャルピングの場合・・・10～15 pips

デイトレードの場合・・・20～50 pips

E-BOOKのダイジェスト

スイングトレードの場合・・・30～55 pips

これで売買ルールはすべてだ。多少の工夫はされているが、ゴールデンクロス、デッドクロスを使ったありふれたものであり、売買成績など有効性を裏付ける証拠も一切ない。

またいつ出てくるかと思っていたフィクサー黒田なる人物もついに登場しなかった。

また気になったのはサイバーエージェントFXと外為どっとこむ、フォーランドオンラインでの口座開設をしつこく推奨することだ。

商材中に2度も出てくる。転送URLで判別できないが商材中でアフィリエイトでもしているのだろうか。

また商材を購入すると後日冊子版と動画解説CDが送られてくる。

冊子版の内容はPDFとまったく同じである。動画解説CDの内容はインジゲーターの設定方法とポジションの仕掛け、手仕舞いでこれもPDFと同じ内容である。

時間にして10分も無いだろう。この商材、無料で入手できる実質レバレッジの説明となんの証拠も無い売買ルール、価格程の価値どころか無料レポートのレベルである。

でたらめなセールスレターの内容からある程度は想像できたがあまりにも酷い商材だ。

E-BOOK のダイジェスト

現実離れしているレターはやはり現実離れしているのである。読者の方はこのような商材には騙されないようにしたい。

異論があるならフィクサー黒田氏に反論してもらいたいものである。

カグラ式FXトレンド シグナルベーシック版

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 天野真人 |
| ■販売責任者 | 天野真人 |
| ■所在地 | 福島県郡山市喜久田町四十坦 12-13 |
| ■電話 | 090-3646-3745 |
| ■メール | kagura@jelly.nifty.jp |
| ■URL | http://homepage3.nifty.com/kagura/ |

価格 19,800 円

… 目次 …

| | |
|---------------|----|
| はじめに..... | 3 |
| 売買手法の説明..... | 4 |
| エントリールール..... | 17 |
| エグジットルール..... | 18 |
| 欠点と克服方法..... | 20 |

- 全 24 ページ。画像が不鮮明な部分があり、画像説明が読みづらい箇所がある。
用語や言い回しが統一されておらず、読みにくい。

E-BOOKのダイジェスト

本商材「カグラ式FXトレンドシグナル」はセールスレターを見てもわかるようにテクニカル分析を主体としたスキャルピング手法を扱ったものである。

商材はある程度テクニカル分析について知識があることを前提としており、初心者向けの基礎知識などの記述はない。

売買ロジックのみを24ページに納めたシンプルな内容である。

では売買ロジックの内容を見てみよう。

取引通貨ペア

ドル円、ユーロ円、ユーロドル

その他の通貨ペアでも取引は可能だが、この3通貨ペアを以下の理由で推奨している。

- ・取引量が多いのでチャートが素直である。
- ・スプレッドが小さいので利益が出やすい。
- ・それぞれに相関関係があるので、動きを予測しやすい。

使用するテクニカル指標

ローソク足（5分足）

単純移動平均線

E-BOOKのダイジェスト

- ・ 5区間の終値の移動平均線
- ・ 5区間の高値の移動平均線
- ・ 5区間の安値の移動平均線

この商材ではメタトレーダーを使って以上のテクニカル指標を表示させる。

メタトレーダーがなくても特に問題はないが、高値、安値の移動平均線を表示できるチャートソフトを持っていないのなら、無料なのでメタトレーダーをダウンロードして使用したほうが良いだろう。

この商材の売買ロジックは簡単にいうとテクニカル指標をローソク足の関係からチャートの転換点を予測し、逆張りで利益を狙っていくものである。

エントリールール

1. 高値移動平均線と安値移動平均線の差が5ポイント（pips）ある状態で

- ・ チャートが上昇中、ローソク足が陰線で、高値平均線をローソク足の実体がブレイクしたら売りシグナル発生。
- ・ チャートが下降中、ローソク足が陽線で、安値平均線をローソク足に実体がブレイクしたら買いシグナル発生。

2. シグナルが発生した後の次のローソク足が、シグナルが発生したローソク足の始値と終値の間に出現すればエントリーする。

E-BOOKのダイジェスト

3. シグナルが発生したローソク足の1本前のローソク足の長さ（始値と終値の差）が6ポイント (pips) 以上ある場合はエントリーしない。

ただし、シグナルが発生したローソク足の長さ（始値と終値の差）が、1本前のローソク足の長さ（始値と終値の差）の80%以上であればエントリーする。

4. シグナルが発生するローソク足の直前のローソク足（1本から5本程度遡ったローソク足）が窓を空けたときは以下の点に注意する。

- ・シグナルが発生したローソク足の長さ（始値と終値の差）が窓を空けたローソク足よりもはるかに長い場合はトレンドの転換と考えてエグジットする。

- ・シグナルが発生したローソク足の長さ（始値と終値の差）が窓を空けたローソク足が同程度ならトレンドの転換の可能性があるので、注意する。

- ・シグナルが発生したローソク足の長さ（始値と終値の差）より窓を空けたローソク足がはるかに短い時はそのままポジションを保持する。

エグジットルール

1. シグナルが発生した時点での高値平均線と安値平均線の幅の80%をリミットにし、ストップは高値平均線と安値平均線の幅の1ポイント (pips) 上(下)に置く。

例えば高値平均線と安値平均線の幅が5ポイント (pips) なら、5ポイント

E-BOOKのダイジェスト

ト (pips) × 80% = 4 ポイント (pips) となるので、エントリーから ± 4 ポイント (pips) にリミットを置く。

ストップは 5 ポイント (pips) + 1 ポイント (pips) = 6 ポイント (pips) となるので、エントリーから ± 6 ポイント (pips) にストップを置く。

**2. レートがリミットにヒットしたら、いままでのリミットにストップをト
ルール (移動) させる。**

新たなストップはその時点での高値平均線と安値平均線の幅の 80% に置く。

**3. 高値平均線と安値平均線の幅が狭まってきたら目測でかまわないので、
ストップも変更していく。**

60 区間移動平均線を使った手法

より確実にエントリーするため、60 区間移動平均線を併用する。

60 区間移動平均線と同じ方向のエントリーする場合は利益を大きく狙い、逆の方向にエントリーする場合は数ポイント (pips) の利益を取った時点でエグジットの準備をしておく。

3つの通貨ペアを同時に見る

E-BOOKのダイジェスト

ドル円、ユーロ円、ユーロドルは相関関係があるため、1つの通貨ペアにシグナルが発生すると他の2つの通貨ペアにもシグナルが発生する確率が高い。

エントリー機会を増やすため、3つの通貨ペアのチャートを同時に表示させてエントリー機会を待つ。

以上が本商材の売買ロジックである。スキャルピング手法は短い時間でのトレンドの持続を狙った順張りの手法は多いのだが、ここでは逆張りでトレンドの反転を狙う手法となっている。

使用するテクニカル指標も逆張りでよく使われるRSIやストキャスティクスといったオシレーター系ではなく、移動平均線とローソク足を使っているのが珍しい部分だ。

ローソク足と高値、安値、終値の3本に移動平均線を使って価格変化での買い圧力、売り圧力の変化からトレンドの反転を測ろうとしているのだろう。売買ロジックの根拠としては妥当であると思う。

ただし、使用するテクニカル指標はシンプルだが、売買ルール自体は例外が多数あり、実際にこの手法でトレードをスムーズにできるようになるにはある程度の練習が必要だろう。

また有効性についても多くのスキャルピング手法の商材と同じく検証結果

E-BOOK のダイジェスト

が記載されていないので、なんとも言えないのが正直なところである。

ある程度有効であろうとは想像がついても価格に見合ったものかどうかはわからない。

できればバックテストしたいのだが、5分足や1分足の過去データの入手は難しいのが現状である。

販売者にはそこら辺も含めてできるだけ長期間の売買成績を公開してもらいたいものである。

毎月投資額の 8%を稼いだ方法

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 小林悟志 |
| ■屋号 | 小林悟志 |
| ■販売責任者 | 小林悟志 |
| ■所在地 | 愛知県名古屋市中川区高畑 2-103 豊常ビル 301 号 |
| ■電話 | 052-740-0388 |
| ■メール | exe@45101616.com |
| ■ URL | http://45101616.com/zero |

価格 22,000 円

… 目次 …

| | | |
|----|---------------------|----|
| 1. | はじめに..... | 3 |
| 2. | 概要..... | 4 |
| 3. | 空売りとは..... | 5 |
| 4. | 日経先物オプションとは..... | 6 |
| 5. | 手法 1..... | |
| 6. | 手法 2..... | |
| 7. | オプション口座の開設について..... | 27 |
| 8. | サポートについて..... | 28 |

●全 28 ページ。

構成が分かりづらく、用語なども統一されていない。

E-BOOK のダイジェスト

この商材「毎月投資額の8%を稼いだ方法」はセールスレターにもあり、おり日経平均先物の売り戦略である。

なじみの無い方のために簡単に説明するが、日経平均先物オプションとは毎月第2木曜日の翌営業日（通常は金曜日）の日経平均の始値を予測するものである。

この金曜日をSQ日といいこの日にポジションを精算する。

取引は第2木曜日まで行える。例えば現在日経平均が15000円だったとしよう。

次のSQ日の日経平均の始値が16000円以上になると予測すれば「コール」という商品を買う。

14000円以下になると予測すれば「プット」という商品を買う。

SQ日までの間日経平均が上昇し16000円近くになるとコールの価値は上昇し、プットの価値は下落する。

逆に下落し、14000円に近づいてくるとコールの価値は下落し、プットの価値は上昇する。

これが日経先物オプションの「買い」だ。ではこの商材の手法である「売り」とはなんだろうか。

E-BOOKのダイジェスト

コールまたはプットが利益を出すには価格の方向を当てさらに2つの条件をクリアしなければならない。

つまり価格の方向を当て（コールなら上昇、プットなら下落）さらに「決められた期間（SQ日）」までに決められた幅（16000円、14000円）価格が動かなければならない。

売りとはこの条件をクリアできない方に賭けることである。

売りをした場合はSQ日までに買い戻しをして精算しなければならない。SQ日になると強制的に精算される。

売りの利益は売った時に貰う価格と買い戻す時に支払う価格の差額になる。

以上簡単だが概要は説明できたと思う。それでは商材の内容に入ろう。売買ルールは2つある。まずは手法1を説明する。

日経平均先物オプションのSQ日は複数ありそれぞれ違う商品として売買されている。

7月にSQ日がある日経平均先物オプションを「7月限」と呼ばれ、「8月限」「9月限」と1ヶ月刻みで8ヶ月先まで設定されている。

その中でも現在の月の日経平均先物オプションを「当月限」と呼ぶ。

E-BOOK のダイジェスト

手法1ではこの当月限のオプションを投資対象とする。

取引画面を見るとわかるが「行使価格」というものがある。

これは先ほどの16000円、14000円などのコール、プットが条件をクリアするための価格だ。

15000～19500円まで500円刻みで選ぶことができる。

また価格も表示されている。オプションは1枚単位で売買し、1枚の価格は表示価格の1000倍になる。

つまり1枚売買するのに必要な資金は表示価格×1000になる。

もし現在行使価格16000円プットの価格が10円だったとするとプットの売りに成功した場合 $15円 \times 1000 = 15000円$ ー 手数料が一旦手にはいる

その後日経平均が上昇し、プットの価格が下がり5円になったところで買い戻したとする。

その時 $5円 \times 1000 + 手数料$ を払わなければならない。

つまり $15000円 - 5000円 = 10000円$ が利益となる。

では日経平均先物オプションを1枚売買するのに大体いくら必要なのか。

証券会社によって多少違うが、売りの場合1枚につき70～90万円の証拠金が必要だ。

E-BOOKのダイジェスト

もちろん入金した証拠金以上に評価損が増えてしまった場合は追証をしなければならぬ。

著者によれば証拠金率は150～200%を目安にしたほうがよいという。

売買ルールをまとめると以下になる。

手法1

1. 売りのタイミングはSQ日の10日前～SQ日の前日が安全
2. 日経平均より1000円以上離れた行使価格のオプションを売るのが安全
3. 時間的価値の減少を実際の投資の中で確認する。
4. 日経平均のトレンドは毎日見る。
5. 初心者の場合証拠金率は200%以上
6. 慣れるまでは売り価格は少なくする

手法1は当限月のみを売買したが、手法2は特に限月にはこだわらずチャンスがあれば仕掛ける。

手法2

1. 売りのタイミングは日経平均が200円以上動いた時
a 日経平均が大きく上昇した時は反落を狙ってコールの売り

E-BOOKのダイジェスト

- b 日経平均が大きく下落した時は反発をねらってプットの売り
 - c 日経平均しばらく上昇を続けると予測した時はプットを売り
 - d 日経平均がしばらく下落を続けると予測した時にはコールの売り
2. 日経平均より行使価格が 1500 円以上はなれたオプションを売るのが安全
 3. SQ 日までに日数がある次月限か次々月限のオプションを選択
 4. 日経平均が思惑と反対に動いた場合はさらに追加できる資金を残しておくこと。

a 仕込み増し

- b 反対側のオプションを新規に売り。一時的にコールプットの両方を売っている状態もありうる。

変動にしたがって順次利食い

5. 手法 1 に比べると SQ 日までに日数があるので証拠金は少なくて済む(20 万円～)。

また商材では実践例で説明しているが、売買ルールも主観、経験に頼る部分が多く実行するには多くの練習が必要だろう。

「日経平均が上昇すると予測したら・・・」「日経平均が大きく下落した時」のような説明がたびたび出てくるが、それをどう予測するか、「大きく下落した」とはどのような状態かの説明はまるでない。

そんなに簡単に相場の行方は予測できない。

また前述したようにオプションの売り戦略は資金がある程度必要だ。

E-BOOKのダイジェスト

その説明をセールスレターできちんとするべきだ。

「資金は100万円以上あった方が楽しめると思います。」

セールスレターに記載されているのはこんな曖昧な文章のみである。確かにオプションの売り戦略は殆どの場合成功する。

しかし失敗した場合日経平均の始値がどこまで動くかはわからないので損失は理論上無限大となる。

このような性質上オプションの売りは小さく勝ち続け、ある時1回の損失でそれまでの利益を吹き飛ばすパターンがよくあるのである。

セールスレターにある1年半程度の短期間であれば「勝率100%」も可能だろう。

これは著者が必勝法を見つけたのではなくて、そういう性質の戦略なのである。

この商材は全28Pと少なく売買ルールは以上ですべてである。しかし内容は一般的なオプションの売り戦略にすぎない。細かい部分は違いうだろうが書籍で充分手に入る情報である。

とても数万円の価値がある情報ではない。書店にいてその類の本を買ったほうがよほど安くあがる。

E-BOOK のダイジェスト

もちろん100万円以上をリスクにさらして数万円の利益を狙うオプション売り戦略のリスクもしっかりと書かれているだろう。

残念ながらこの商材には書いていなかったが。

世界最高峰の投資理論

FX Masters Method - Ver.Revolution

発行元情報

| | |
|--------|----------------------------|
| ■発行元 | サクシーズ |
| ■販売責任者 | 馬場倫子 |
| ■所在地 | 東京都中央区銀座 1-27-8 セントラルビル 7F |
| ■電話 | 03-6311-17935 |
| ■メール | info@sucseez.greater.jp |
| ■URL | http://www.sucseez.com |

価格 34,800 円

… 目次 …

- マニュアルなし。
動画ファイル9本（約300分）。
付属：メタトレーダー設定ファイル。
動画の音声小さく聞き取りにくいファイルがある。

E-BOOKのダイジェスト

「世界最高峰の投資理論」、この商材はテクニカル分析を主体としたデイトレードの手法である。

決まったテクニカル指標を用い、売買ルールにもある程度の決まりはあるのだが、基本的には裁量トレードである。

マニュアルはなく、全9本の動画と専用サポートページでの相場解説がメインの内容となる。

「本を読めば済むような基礎知識は事前に勉強する必要があるため、初心者の方はさらに勉強が必要」

セールスレターにこのように書いてある通り、基礎知識などの説明はないので、初心者向けではない。

またトレード中はチャートを監視し続けるため、PCに張り付いている必要もある。

セールスレターにはこれらのことは記載されているが、万人向けの誰でもできる手法ではないことは確かだ。

では動画の内容を順におって説明しよう。まず動画1は相場に対する心構えについて説明される。

一般的な相場心理についての内容となっており、特にここでは記すことはない。

E-BOOK のダイジェスト

次の動画 2 からテクニカル分析の説明に入る。

トレンドライン

- ・大きなトレンドライン、小さなトレンドラインなどトレンドラインを数本引き、トレンドラインをレートがブレイクしたら仕掛ける。
- ・引いたトレンドラインから高値、安値をそれぞれ結んだにチャンネルラインを引き、そのチャンネルラインの幅から 1 日の値幅を予測する。
- ・チャンネルラインをレートがブレイクしたらドデンをする。
- ・各トレンドラインのパターンから相場の流れを予測する。

2 本のトレンドラインが平行なら、トレンドラインの方向に売買圧力が強まっている、三角形なら保ち合いで三角形が段々小さくなっていけばトレンドが強まっているなど各種のトレンドラインのパターンから相場予測をする。

ここでは詳しいトレンドライン、チャンネルラインの引き方は説明されていない。

事前を取得していると言う前提なのだろうが、トレンドライン、チャンネルラインの引き方にはいろいろな方法があり、引き方によって結果が違ってきてしまうだろう。

E-BOOKのダイジェスト

このような場合にはキチンと引き方を説明すべきだ。

これも裁量トレードのうちとってしまうのはあまりに不親切だろう。

相場転換

・ダブルトップ、ダブルボトム、トリプルトップ、トリプルボトム、クライマックスなどのチャートパターンから判断する。

また文章では説明しづらいのだが、竜の形をしたチャートパターンや川の形をしたチャートパターンなどから一日に値幅を推測する。

「人間は意識しないでも美しさを求めるので、ほとんどの場合こういった同じパターンになる」

こう動画中で作者は言っているが、これはいかにも後付けの感が強い。チャートを美しい形にしようと投資家が取引するとはあまり考えにくい。

むしろ出来上がったチャートから美しい形を見つけ出しているといったほうがよいだろう。

原因と結果を逆転させている。

次の動画3、4、5では一目均衡表、PIVOT、フィボナッチリトレースメントの使い方の説明に入る。

E-BOOKのダイジェスト

PIVOT

- ・PIVOTはS1で買いS2で買い増しするというように逆張りの的に使う。
S1を下抜けたら一度損きりして、S2でポジションを持つても良い。

またPIVOTと前述したチャンネルラインの関係から1日の値幅を推定する。
たとえば竜の形をしたチャートパターンの脚の部分とS2、頭の部分とR2
がちょうど一致していたら、その日の値幅はS2からR2までとなる可能性
が高いと言った具合だ。

一目均衡表

一目均衡表は雲をレートが上抜けたら買い、下抜けたら売りが基本となる。
雲の切れ目は反転サインになることが多く、そこでレートが戻すか、抜け
るかを判断して仕掛ける。

フィボナッチリトレースメント

- ・フィボナッチリトレースメントの見方は38.2から61.8はレンジ相場、
38.2以下は売られやすい、61.8以上は買われやすいと判断する。

分析の仕方はここまでである。使用しているテクニカル指標を表示できるメ
タとレーダー設定ファイルは専用サポートページで配布しているが、同様の
設定ができれば特に必須ではない。

E-BOOKのダイジェスト

以降の動画6から9は実際の相場状況に合わせた解説となっている。
紙面では動画にあるすべてのパターンを記載するわけにもいけないので、省略させていただく。

さて動画1から5でテクニカル指標の見方判断などはごく一般的なものである。

テクニカル分析を書籍には必ず載っている内容だろう。

ただしこの商材は裁量トレードであるので、テクニカル分析自体がオリジナルである必要は必ずしもない。

裁量トレードはテクニカル分析に加え、自分の経験や考えから総合的に判断するものだからだ。

しかしそれには経験とある程度のセンスも必要であるのも事実でそれが裁量トレードが難しいと言われている所以でもある。

果たして動画を見るだけでそれができるといえば難しいのではないか。

動画では後半様々な相場状況での取引を説明しているが、現実にはそれ以外のパターンも多くある。

そうした場合、以前のパターンとの相似性をいかに見つけ、応用できるかが勝負の分かれ目になるだろう。

セールスレターにあるような「あなたも、この教材で学べば、すぐに相場

E-BOOKのダイジェスト

の動きが手にとるように判断できるようになり、通常では有り得ないほどの利益を獲得する技術が備わります。」

では決してないだろう。

ある程度の時間と経験、そしてセンスも必要なので、人によって結果に大きく違いがでるだろう。

商材には30日分の相場解説も特典でついてくるが、30日間でもすべてを学ぶのは難しいのではないか。

この商材は基本編ということである。最終的には3部作で完結ということだ。

なのでこの商材だけですべてを学ばなくてよい作者は考えているのだろうか。

しかしそれではあまりに高額である。3部作を全部購入したら10万円近くはかかるだろう。

正直いえばそれほどの価格に見合った内容ではないと思う。

本商材のようなテクニカル分析主体の裁量トレードを学びたいならば、書籍などでテクニカル分析を学んだ上で、セミナーなりスクールに通ったほうが安上がりだし、有効だろう。

裁量トレードを学ぶのには定期的な長期間の学習が必要であり、この商材のような方法では難しいのが現実である。

E-BOOKのダイジェスト

手法自体は一般的なテクニカル分析の基本からなっているので、ある程度の有効性はあるだろう。

しかし動画で解説に使われているチャートは日時や通貨ペアなどが明らかにされていないので、予測にうまく合致するチャートを後付で持ってきた可能性も否定できない。

結論からいうと本商材は裁量トレードを学ぶにはある程度有効だろうが、この商材だけで技術を取得できるものではないだろう。

もし裁量トレードを学ぶなら書籍やセミナーで独学した方が安上がりだし、確実だろう。

決まった売買ルールがあって、裁量がいくらか入ると言った類の手法なら、動画やマニュアルでも十分だが、本商材のような基本的なテクニカル分析を使って、その時々で総合的に判断する手法の場合は動画やマニュアルでは不十分だろう。

独学で失敗しながらやっていくか、誰かの弟子になるしかないと筆者は考える。

他人のトレードを見る機会はあまりなく、それは非常に勉強になることは確かである。その意味では動画6から9の後半は興味深かった。

E-BOOK のダイジェスト

しかしそれだけのために数万円ものお金を出す必要はないだろう、というのが結論である。

現役プロトレーダー仕様！一日10分×2回の確認作業！
お気楽トレードで高収益を叩き出す！

F X サヤ獲り名人

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | F X office A S A D A |
| ■販売責任者 | 浅田 範史 |
| ■所在地 | 山口県周南市久米老郷地上 2685-1 |
| ■電話 | 0834-34-3220 |
| ■メール | iasadapro7@asadapro7.com |
| ■URL | http://www.asadapro7.com |

価格 39,800 円

… 目次 …

| | | |
|-----|------------------|----|
| | はじめに..... | 4 |
| 第一章 | サヤ取り理論（基礎編） | |
| 1. | サヤ取りとは..... | 7 |
| 2. | 安全性とリスク..... | 15 |
| 3. | 対応通貨ペア..... | 26 |
| 4. | 相関と組み合わせの関係..... | 30 |
| 5. | トレードルール..... | 33 |
| 第二章 | 実践編 | |
| 1. | 基本運用..... | 40 |
| 2. | アクティブ運用..... | 50 |
| 3. | 重要補足..... | 59 |
| 第三章 | 質疑応答 | |
| 1. | 統計表の使い方..... | 77 |

- 付属 サヤ統計エクセルファイル
補足統計表エクセルファイル
特典12ページ（ものぐさサヤ取り法）

- 本編83ページと特典12ページ

丁寧な説明がされているが、書籍や他商材で既に公表されている為替でのサヤ取りと内容は大差ない。

E-BOOKのダイジェスト

「サヤ取り名人」という題名からも分かるよう本商材はサヤ取りの手法である。

厳密に言えばサヤ取りではなく、株式のペアトレードのようなものなのだがここでは商材にならってサヤ取り呼ぶことにする。

商材ではまずサヤ取りについての説明がある。

「片張りではなく相関性のある2種類の通貨ペアを同時に保有し、同時に決済して利益を出す手法のことです。」

商材ではこう説明されている。例えば豪ドルとNZドルは地域的条件やファンダメンタル要因などから相関性が高く、値動きが似ている。

似ているといってもまったく同じ動きになることはないわけで、統計をとってみるとある一定の幅で両者のレートが推移していることがわかる。

レートはある時は近づき、また離れていくという動きを繰り返している。

この両者のレートの差を「サヤ」と呼び、サヤがいずれはその平均回帰することを前提にそのレート差の狙っていくのが、サヤ取りである。

前述の例でいうとAUD/JPYを10枚ロング（ショート）し、同時にNZD/JPYをショート（ロング）する。

その後両者のレートが動くが、似た値動きをするためのそれほど大きく動くことはない。

E-BOOKのダイジェスト

サヤ取りではどちらかのポジションは利益を出し、どちらかのポジションは損失となるのが普通だが、それを相殺してなお利益ができることを期待してポジションをとるのである。

相関関係には2種類あり、一方のレートが上がれば、もう一方のレートも上がるような関係を「正相関」、一方のレートが上がれば、もう方のレートが下がるような関係を「逆相関」という。

この相関関係の程度は相関係数と呼ばれる0.0～1.0までの数字で表される。

数字が大きいほど似たような動きになり相関係数が1だとまったく同じ動きとなる。

サヤ取りの場合正相関通貨ペアの場合だと「ロング（ショート）とショート（ロング）」のように逆方向でポジションを持ち、逆相関通貨ペアの場合だと「ロング（ショート）とロング（ショート）」のように同じ方向でポジションを持つことになる。

「相関性の高い種類の通貨ペア」を「同時に保有（エントリー）」⇒「2種類の通貨ペアの差し引き利益を確認」⇒「プラスであれば同時決済（利益確定）」これが基本的な取引となる。

さて次からは具体的な内容の説明に入ろう。まずサヤ取りが可能な対応通貨ペアは以下の6種類となる。

E-BOOKのダイジェスト

1. NZD／JPYロング（1）：AUD／JPYショート（1）
2. EUR／JPYロング（2）：CHF／JPYショート3）
3. AUD／JPYロング（1）：CAD／JPYショート（1）
4. CAD／JPYロング（3）：EUR／JPYショート（2）
5. AUD／JPYロング（1）：CHF／JPYショート（1）
6. NZD／JPYロング（1）：CHF／JPYショート（1）

○ 内の数字はレートのボリュームを合わせるためのポジション量の比率だ。

またすべて両通貨ペアの差し引きのスワップがプラスになるような組み合わせを基本としている。

この6種類の通貨ペアが過去2年において相関係数が0.8以上の通貨ペアということだ。

特にNZD／JPYとAUD／JPY、EUR／JPYとCHF／JPYは相関係数が0.9以上で変動幅も小さいのでこの組み合わせを中心にすることを推奨している。

ここに上げた6種類の通貨ペアは過去2年間では相関係数が0.9以上なのだが、この相関関係が今後も続くとは限らない。

よって2,3ヶ月の間に通常にサヤ幅から10～20%以上のサヤ幅の拡大が起こった場合はその組み合わせを除外する。

E-BOOKのダイジェスト

除外した組み合わせはその後動きを追っていき、サヤ幅の拡大が収まって後3ヶ月間程度のサヤ幅変動率が5～10%未満であったらポートフォリオに復帰させる。

次に仕掛けだが商材中にはこうある。「ある一定期間のサヤ幅平均値を基準として、平均値から遠ざかったサヤ幅に至った時に、平均値に戻ろうとする動きを想定してポジショニング方法です。」

これは平均回帰をよりどころとしてサヤの縮小を狙う手法である。

ではいよいよ実践編はいろいろ。まず準備として各組み合わせのサヤ幅を確認する。

商材では付属のエクセルファイルで40日分のサヤ幅が確認できる。

これは各組み合わせの終値データを入手すれば手計算でも可能だ。

例えばある日のAUD/JPYの終値が95.00円でNZD/JPYの終値が85.00円だったとすると $95.00円 - 85.00円 = 10$ これがその日のサヤ幅となる。

これを各組み合わせで40日分の表を作成すればよい。

次にその表を見ながら20日区切りでサヤ幅の最大値と最小値を見つける。

見つけたら最大値と最小値の平均を出す。0～20日の平均値と20～40日の平均値を出すということだ。

E-BOOKのダイジェスト

基本的に使用するのは0～20日の平均値だ。20～40日の平均値は補足として使用する。

基本的な考え方はこの平均値を基準にサヤ幅が拡大と縮小を繰り返すので、この平均値よりサヤが拡大した時にサヤが平均値に戻るのを期待してポジションを持つということだ。

具体的な仕掛けポイントは「サヤ幅が直近20日間のサヤ幅の最大値（最小値）付近の到達した時」となる。

決済は「サヤ幅が直近20日間のサヤ幅の平均値付近に到達した時」となる。

損切りは通貨ペアごとではなく、各組み合わせの総利益で判断し、サヤ幅が損益方向へ350～400 p i p s 程度逆行した場合行う。

ここまでの基本的な運用方法だ。次にアクティブ運用として応用編の説明がある。

1. 1日2回サヤ幅を確認し、サヤ幅が直近20日間の平均値より100 p i p s 程度以上乖離した場合、サヤ幅が平均回帰することでプラスとなるポジションをとる。

これは短期的に利益を狙う手法だ。

2. 少ないポジションで3組以上保有して相殺前提で回転率を上げる。

これは3組以上保有して、3組の総合した損益がプラスならすべての組み

E-BOOKのダイジェスト

合わせを決済してしまうとうことだ。

こうすることで、無駄なポジションの保有を防ぎ資金効率を上げられる。

3. 損切りはすべて相殺で処理する。

つまり4組保有していて2組プラスで2組マイナスとなっていた場合、2組のプラス合計が残り2組の内どちらかのマイナスより上回っていた場合、プラスの2組とマイナスの1組を相殺して決済するということだ。

マイナス1組は残るが、無駄なポジションの保有を防ぎ資金効率を挙げる効果がある。

以上で本編の説明は終わったのだが、本商材には特典がある。

そこに書かれている「ものぐさサヤ取り法」という手法をこれから説明しよう。

この手法は本編と違いチャートを使用する。

1. **トレードする組み合わせの通貨ペアを4時間足の折れ線で表示させる。**
2. **このチャートに回帰線とトレンドライン計3本を20日～40日間の期間に引く。**
3. **引いたラインとレートの位置関係に注意しながら、2つのチャートの明らかにことなる形の部分を探す。**
4. **見つけた部分での2つの通貨ペアのレートの動きを比較してレートが上で推移している通貨ペアを買い、下で推移している通貨ペアを売る。**

E-BOOKのダイジェスト

決済ポイントはチャートからは判断できないので、裁量で行うことになる。

この手法もチャートを使って視覚的に判断しているが、サヤ幅の平均値にレートが戻ることを期待するという考え方は本編と同じだ。

さて冒頭でも書いたが、サヤ取りはもともと商品先物の世界で使われていたもので基本は異市場間や異限月間で行うものである。

簡単に説明すると異市場間のサヤ取りとは同じ商品、例えばガソリンが違う市場では価格が違っていたりする。東京ガソリンと中部ガソリンの価格が違う時、高い方を売り安い方を買う。

また異限月サヤ取りとは先物には期限である限月というものが数種類ある。

大豆の先物で来月が限月のもの、再来月が限月のものの価格差があるとき、やはり高い方を売り、安い方を売るのである。

これらは元は同じ商品のため強い相関性があるのは当然だ。

しかし為替や株式では違う通貨ペアや銘柄なので相関性が強いといっても過去のデータから推定したに過ぎない。

似た動きをする理由は考えられるが、それがいつ崩れるかわからない。

そして平均回帰に賭ける手法ではあるがなぜ平均回帰するかという理論的な背景がない。

E-BOOKのダイジェスト

この手法のようにサヤ幅が一定以上乖離した時に平均回帰を狙ってポジションをとるのだが、一定以上乖離したということは相関関係が崩れる前触れである可能性も多い。

決してセールスレターにある「安全で高収益」に繋がる究極のトレード法が実現可能となるのです！」とは言えない部分がある。

有効性はあるが、この手法の内容だけでは不完全だと思う。

この商材以外にもいくつかの為替のサヤ取りがあるが、内容的にはさほど新しい部分は無かった。

工夫次第では有効な手法となり得ると思うが、

今のままでは「【常勝ルールの最終形】と賞され、機関投資家や富裕層を中心に用いられてきた、いわば【勝ち組の奥義的な手法】の一つです。」では決して無いことは確かだ。

この手法だけで安全で高収益と謳うにはあまりに無邪気で楽観的すぎる。そして危険でもある。

サヤ取りはマーケットニュートラルと呼ばれる手法だが、ヘッジファンドなどが様々なファクターを加味し、改良しても完全なマーケットニュートラルは実現できていないことからそれは確かである。

佐藤式インパクトトレード術

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 佐藤 力 |
| ■販売責任者 | 佐藤 力 |
| ■所在地 | 新潟県十日町市高山 5 3 8 - 7 |
| ■電話 | 025-750-7677 |
| ■メール | info@yume-fx.com |
| ■ URL | http://a8.yume-fx.com/SIT/top/ |

価格 22,800 円

… 目次 …

- 第 1 章 佐藤式インパクトトレード術の設定…4
- 第 2 章 佐藤式インパクトトレード術のトレード方法…8
- 第 3 章 トレードにおける決済応用編…15

付属：メタトレーダー設定ファイル。SIT システム導入説明書。

●全 29 ページ。レイアウトはすっきりしており読みやすい。

E-BOOK のダイジェスト

これまでもいくつかのFX商材を販売し、根強いファンもいる佐藤力氏の新商材はこの「佐藤式インパクトトレード術（SIT）」である。

「全エントリーポイントの“2.15回に1回”相場の天井付近、天底付近を捉えることができるトレード」がキャッチコピーである。

セールスレターのチャート画像をみるとボリンジャーバンドを利用した手法のようだが、早速内容を見てみよう。

本商材はメタトレーダーの設定ファイルとシステム導入説明書、売買マニュアルからなる。

売買マニュアルは全29Pでロジックのみを記したものである。

前準備

まずジャパンネット銀行のJNB-FXのリアルタイムチャートを使用するので、予め口座を開設しておく必要がある。

しかし特別な設定をするわけではないので、他の業者でもかまわないだろう。

またメタトレーダーの付属のファイルを設定すると売買シグナルが表示されるようになるが、これも目視でトレードすることも可能

E-BOOK のダイジェスト

なので、必須というわけではない。

対象通貨ペア

特に指定なし。

使用するテクニカル指標

- ・ローソク足（60分）
- ・ボリンジャーバンド（期間14、 $\pm 1.5\sigma \sim \pm 2.5\sigma$ ）
- ・ストキャスティクススロー（期間9）
- ・価格移動平均乖離率（期間14）
- ・RCI（期間9）

エントリー

買い

- ・ 価格がボリンジャーバンドの -2.5σ にタッチまたは下抜け
- ・ スローストキャスティクスのSTC % Dが25以下（15以下を推奨）
- ・ RCIが -90 以下（ -95 以下を推奨）

売り

- ・ 価格がボリンジャーバンドの $+2.5\sigma$ にタッチまたは上抜け
- ・ スローストキャスティクスのSTC % Dが75以上（85以上を推奨）
- ・ RCIが -90 以上（ -95 以上を推奨）

買い売りともすべての条件を満たしたら逆張りでエントリーする。

E-BOOK のダイジェスト

また価格移動平均乖離率は数値が 0 から離れるほど反転の確率が高くなることを前提に、あくまでも参考程度に使用する。

決済

- ・ 15 分チャートでスローストキャスティクスの STC% D と slow% D がクロス
- ・ 30 分チャートでスローストキャスティクスの STC% D と slow% D がクロス

この 2 つの条件を満たしたら決済する。

損きり

損きりポイントは 50pips に置く。

取引時間

0 時以降は反転の確率が低くなるので基本的にはトレードしない。

また応用として以下の決済方法がある。

使用するチャートはボリンジャーバンドのみでパラメーターの設定も基本の売買手法と同じである。

1 グランビルの法則を使った決済。

グランビルの法則にはいろいろなパターンがあり価格の予測をするが、それを決済に利用する。

具体的には以下のように使用する。

- ・ 買いの場合は価格が上昇したものの、移動平均の向きが下向きの

E-BOOKのダイジェスト

場合は移動平均線近辺で一旦決済する。

・売りの場合は価格が下落したものの、移動平均の向きが上向きの場合
は移動平均線近辺で一旦決済する。

2. ボリンジャーバンドを使った決済。

買いの場合は+ 2.5 σ 、売りの場合は- 2.5 σ に価格がタッチ、または
下抜け（上抜け）たら決済する。

売買手法の説明は以上である。システム導入説明書はメタトレーダーに
売買サインを表示させる設定の説明であり、特に売買ロジックとは関係な
いので割愛する。

さて特典として「佐藤式トレンドチェイサー術」が配布されているが、
こちらの売買ロジックも続いて説明しよう。

この特典は全 22 P からなる。本編はボリンジャーバンドを使った逆張り
であったがこちらはボリンジャーバンドを使った順張りである。

対象通貨ペア

特に指定なし。

使用するテクニカル指標

- ・ローソク足（60分）
- ・ボリンジャーバンド（期間 14、 $\pm 1.5 \sigma \sim \pm 2.5 \sigma$ ）

E-BOOK のダイジェスト

- ・ ストキャスティクススロー（期間9）
- ・ DMI(DI 期間9)
- ・ DMI(ADX 期間9)

エントリー

買い

1. ボリンジャーバンドのスクイーズを確認。
2. 価格が14時間移動平均線を上抜けている。
3. スローストキャスティクスのslow% Dが上向き。
4. DMI(ADX)が上向き。

上記のすべての条件を満たしたら次のローソク足の始値でエントリーする。

売り

1. ボリンジャーバンドのスクイーズを確認
2. 価格が14時間移動平均線を下抜けている。
3. スローストキャスティクスのslow% Dが下向き。
4. DMI(ADX)が下向き。

上記のすべての条件を満たしたら次のローソク足の始値でエントリーする。

尚、スクイーズの目安は下記の表を参考にする。

E-BOOK のダイジェスト

ドル円、ユーロ円、豪ドル円、NZドル円、カナダドル円

50~60pips 以下

ポンド円

80 ~ 100pips 以下

スイスフラン円

30 ~ 50pips 以下

決済

買いポジションの場合は -2.5σ のラインが上向きに変化し始めた時点、売りポジションの場合は $+2.5\sigma$ のラインが下向きに変化し始めた時点で決済する。

損きり

買いポジションの場合は 14 期間移動平均線の上昇が穏やかになり、ローソク足が 14 期間移動平均線を下回った時、売りポジションの場合は 14 期間移動平均線の下が穏やかになり、ローソク足が 14 期間移動平均線を上回った時、次のローソク足の始値で損きりする。特典の売買手法は以上である。

ここまで本編、特典と検証してきたわけだが拍子抜けしてしまったというのが正直な感想である。

相場の天底をどんな手法で予測するのかと期待していたのだが、

E-BOOK のダイジェスト

実際の売買ロジックはボリンジャーバンドのラインでの反転を狙った逆張りに、スローストキャスティクス、RCI の逆張り指標をフィルター的に重ねただけのものであったからだ。

特典の売買手法にしてもボリンジャーバンドのスクイーズからエクспанションを使ったトレンドフォローの手法であり、フィルター的にスローストキャスティクス、DMI を使ったに過ぎない。

いずれも良く知られた手法であり、各テクニカル指標の使い方やパラメーターの設定も特別オリジナルな部分はない。

特典については付録的なものであるものでこれ以上は言及しないが、問題は本編である。

この売買ロジックで果たして冒頭にあるように「全エントリーポイントの“2.15 回に 1 回”相場の天井付近、天底付近を捉えることができる…」のだろうか。

セールスレターから過去の売買成績をダウンロードできるので確認してみた。

が、エントリーや決済した時間、レートなどが記載されていないので、これではなんの証拠にもならないし、売買手法の有効性もわからない。

E-BOOKのダイジェスト

このような記載ならどうにでも操作ができるからだ。
はっきりいえばこの売買ロジックはよくある手法を多少変えただけの手法だ。

決済方法にしてもデイトレードにグランビルの法則を使うのは多少珍しいが、ボリンジャーバンドのラインで決済するのは、この手の手法では常識である。

筆者は同時期に同じボリンジャーバンドでの逆張りを主体とした手法の商材である「ReduceFX」も検証した。

ロジックの緻密さ、相場状況への対応、リミット、決済の多様さなど「ReduceFX」に比べてると本商材の内容はかなり見劣りする。

書籍レベルの内容であり価格に見合ったものではない。
著者は良心的情報起業家として知られているというが、今回は「佐藤式インパクトトレード術（SIT）」の題名と裏腹になんともインパクトのない内容になってしまったようだ。

バサラ投資術

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 篠崎 哲郎 |
| ■販売責任者 | 真田 晃 |
| ■所在地 | 千葉県若葉区小倉町 1746 - 1 ラフィネ小倉 101 |
| ■電話 | 090-1121-5605 |
| ■メール | info@kachikabu.com |
| ■ URL | http://kachikabu.com/top/ |

価格 29,800 円

… 目次 …

| | |
|----------------|-----|
| はじめに | 6 |
| 株式分析の二本柱 | 7 |
| 勝てない理由 | 12 |
| 手法は有効に機能する相場とは | 16 |
| 買い銘柄の選別 | 26 |
| 売りに関して | 35 |
| 具体的手順 | 39 |
| 事例説明 | 58 |
| ボロ株相場 | 68 |
| ボロ株個別検証 | 76 |
| ジャスダック低位株相場 | 89 |
| ジャスダック低位株個別検証 | 93 |
| 実践取引結果証明 | 104 |
| まとめ | 115 |

Q & A・・・117

●全 119 ページ。文字が大きく行間も広い。画像が小さく見づらい。

E-BOOK のダイジェスト

「バサラ投資術」。何やらインドの秘法のような題名だが、著者によると「バサラ」とは粋を表す室町時代の言葉だそうである。

全 119 P のボリュームだが文字が大きく行間も広いので実際の分量はその半分ほどであろうか。

内容を見ていこう。最初の十数ページほどは自己紹介、テクニカル分析とファンダメンタルズ分析、株式市場についての説明がある。

この部分は特に言及する部分もない、一般的な事柄である。では売買手法の説明に入ろう。基本的にはテクニカル分析を主体とした買いのみのデイトレードである。

投資対象：国内株式

東証 1 部 2 部、ジャスダック、東証マザーズ、大証ヘラクレス、大証に上場している銘柄

投資期間：1 日から数日程度

使用するテクニカル指標：一目均衡表（日足）
また銘柄選択にはファンダメンタルズ分析も使用するがその方法は売買手法の説明の中で記載する。

E-BOOK のダイジェスト

エントリー

1 「該当する銘柄が所属する市場の指数自体が上昇トレンドを形成しているタイミング」

これがまずエントリーを検討する前提条件である。

東証 1 部銘柄ならば日経平均株価、東証 2 部銘柄ならば東証 2 部株価指数、東証マザーズ銘柄ならば東証マザーズ指数、ジャスダック銘柄ならば日経ジャスダック平均株価、大証ヘラクレス銘柄ならばヘラクレス指数でトレンドを判断する。

大証銘柄の場合は日経平均株価で代用する。トレンドを判断するには一目均衡表を使用し、以下の条件のいずれかを満たせば上昇トレンドと判断する。

- ・ 転換線が基準線より上に位置している。
- ・ 株価指数が転換線より上に位置している。

2 市場が上昇トレンドにあると判断できたら次は銘柄選択に進む。
銘柄選択の基準は以下である。

- ・ 当日株価が前日比 8% から 13% の間で上昇していること。
- ・ 出来高が前日比で 10 倍程度まで増えていること。
- ・ 好材料が出ていること。

以上 3 つの条件をすべて満たした銘柄を選択する。

E-BOOKのダイジェスト

具体的には値上がり率ランキングなどで8%から13%株価が上昇している銘柄をチェックした後、それぞれの銘柄の出来高の前日比を調べる。

このチェックを通過した銘柄について証券会社の情報ページなどで好材料が出ているか調べるという手順になる。

またその銘柄自体に好材料がなくても所属するセクターが好調な場合はそのセクターに所属しているという事実が好材料となりうる。

後述する「ボロ株」「ジャスダック低位株」の場合も同様である。すべての条件を満たし、買いサインがでたらエントリーするが、そのタイミングは特に決まっていない。

ザラ場中に買いサインが出れば即エントリーしても良いし、ザラ場が終わってから銘柄選択肢し、翌日の寄り付きでエントリーしても良い。

ただし、ザラ場中にエントリーできない場合は指値注文にするなど値上がり率が条件の8%から13%の間から外れないように注意する。

また値上がり率はできるだけ低い、つまり8%に近い方が多くの利益が見込まれるので望ましい。

E-BOOKのダイジェスト

出来高が10倍に満たないが10倍になるのを待っていると値上がり率が13%を超えてしまいそうな場合などは、出来高が10倍になりそうな時点でエントリーしても良い。

決済

- ・利食いは価格が10%から20%上昇した時点
- ・損切りは価格が5%下落した時点。
- ・利食い、損切りにもかからない場合は保有するが、基本的には数日で手仕舞いする。

さて基本の売買手法は以上であるが、以下の補足的な手法もある。

ボロ株

銘柄の好材料の部分で個別銘柄自体には好材料がなくても、所属するセクターが好調な場合は所属しているという事自体が好材料になる場合があるという説明をした。

価格が50円以下のいわゆる「ボロ株」も「ボロ株」であるという事自体が好材料になる場合がある。

このようなボロ株は大量な資金を投入するとすぐに価格が動いてしまうため、機関投資家が参入することはまずありえない。

また空売りができない銘柄が大半なので、投資家の注目が集まると値上が

E-BOOKのダイジェスト

り率が高くなり、20%、30%の値上がりもザラである。

またひとつ値上がりするボロ株が現れると連動して第二、第三の値上がりするボロ株が現れる可能性が高いので、うまく値上がりするボロ株を見つけられれば大きな利益を上げられる。

手順は基本の売買手法と同じで銘柄選択の好材料がなくても「ボロ株」に該当すればエントリーする。

ただしボロ株全体が注目されて活気がある状態でなければならない。

ジャスダック低位株

これもボロ株と同じく、ジャスダック市場で50円以下の低位株であることが好材料となる場合である。

この2つの例のように個別銘柄としてでなく、大きな分類でみてそのグループが注目を集めている場合、好材料となる場合がある。

これに気づいた場合は監視銘柄に入れてチャンスとみれば積極的に仕掛ければ大きな利益を上げられる可能性が高い。

商材にはこのような記述しかないのであるが、それを的確に判断するのはそう簡単ではない。

E-BOOKのダイジェスト

具体的に「ボロ株」「ジャスダック低位株」が好材料と判断できる基準を示すべきだ。

多数のボロ株やジャスラック低位株の値動きを定期的に追っていればある程度推測可能ではあるが、やはり経験やセンスが必要だろう。

さて売買手法は以上である。

このあとは本年の9月22日から26日までの実践例が検証証拠として掲載されている。

筆者も確かにこの売買手法は市場のトレンドと合わせて買い圧力は大きい銘柄を買うのでリスクが少なく勝率も高いだろうとは思った。

しかし昨今の下落相場で利益を上げることができるのか、またそのような局面では極端にエントリー機会が少なくなってしまうのではとも感じていた。

検証されている時期はちょうどリーマンショックの直後であり、ある程度の説明にはなるのではないだろうか。

結果は3戦3勝となっていたが、この時期は下落基調が続いていたとはいえ、その後の急落相場以前である。

現在の相場状況では機能するかというと少し疑問である。また商材中に出てくる実践例はこの3例を除いては本年の1月から5月がほとんどである

E-BOOKのダイジェスト

ので、その結果を現在の状況にそのまま当てはめることはできないだろう。

またサンプル数も少なすぎる。セールスレターには「3千回もの膨大な検証を行った」とある。

なぜその検証結果を商材に載せないかが疑問である。載せられない理由があるのかと勘ぐられても仕方がないだろう。

時間的な関係もあり、完全な検証はできなかったのであるが、筆者は該当銘柄がまず現在の状況でどれくらいあるかを調べてみた。

本日11月17日東証一部で値上がり率が該当するのは20銘柄であった。その中から出来高が10倍になった銘柄はゼロであった。次にジャスダックで値上がり率が該当するのは10銘柄あった。こちらは出来高が10倍になった銘柄は2銘柄あった。

ただし日経平均株価、ジャスダック指数とも上昇トレンドの基準を満たしていなかったのでエントリーはできないことになる。

もちろんこれだけでは判断できないが、現在の相場状況で該当銘柄がいつもあるとは限らず、エントリー機会は少ないのではないだろうか。

ジャスダックやマザーズなどの新興市場ではまだチャンスもあると思われるが、全市場を調べて銘柄選択するにはある程度の時間が必要である。

E-BOOKのダイジェスト

上昇相場でエントリー機会が多数ある状況なら日中仕事を持っている人でも実行は簡単だが、現在の相場状況ではエントリー機会を見つけるのに苦労しそうである。

売買手法自体は市場リスクも考慮した安全性の高い優良なものである。しかし現在の相場状況ではエントリー機会が少なくそれほど高い収益は望めないだろう。

空売りに対応するか、銘柄選択の条件を変えれば改善の可能性もあるが。「私の投資法は、小額資金をいかに少ないリスクで確実に増やすかを追求しています」とセールスレターにはある。

そのとおり安全第一で相場が上昇するまでじっと待てる人には最適だろうが、大きく利益を狙う人にはストレスがたまる売買手法だろう。

大浦式デイトレード!

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | ネット起業ナビ株式会社 |
| ■販売責任者 | 樋口 優子 |
| ■所在地 | 東京都国立市東1-10-7 |
| ■電話 | 080-3709-1011 |
| ■メール | net_kigyounavi@yahoo.co.jp |
| ■URL | http://www.jouhou.info-depart.com/daytrade3/ |

価格 26,800 円

… 目次 …

| | |
|------------------------|----|
| はじめに | 4 |
| 著作権について | 8 |
| お互いの利益のために | 10 |
| デイトレードをお勧めする理由 | 11 |
| 長期投資、デイトレードのメリット、デメリット | 13 |
| あるシステムとは? | 24 |
| 負けない投資方法、システムトレード | 27 |
| お勧め証券会社 | 29 |
| 逆指値 | 32 |
| W指値 | 33 |
| ±指値 | 34 |
| トレーリングストップ | 35 |
| チャート | 36 |
| ローソク足 | 36 |

「陽線」「陰線」「寄引同時線」・・・38
移動平均と移動平均線・・・41
ゴールデンクロスとデッドクロス・・・42
出来高・・・43
明日上がる株のを見つけ方・・・50
口座開設・・・71
注文方法・・・74
売買手数料・・・91
信用取引と必要資金について・・・94
アフィリエイト・・・97
さいごに・・・117

付属：誰でもできるアフィリエイト 23 P、銘柄選択用エクセルファイル
●全 118 ページ。文字が大きく行間も広い。画像は少なめ

E-BOOKのダイジェスト

本商材「大浦式デイトレード」は2008年の8月20日から10月10日のリーマンショック後の金融危機を含む37日間で資金を約2.7倍に増やしたとセールスレターにはある。

現在の相場状況を考えればすごい成績である。本当のところはどうか、早速内容の検証に入ろう。

商材は全118Pの本編、銘柄選択用のエクセルファイル、そして全23Pの特典からなる。

特典の内容はアフィリエイトの簡単な説明で本編とはまるで関係がなく、わざわざセールスレターに「超特典」と謳うほどの内容ではない。

では本編のマニュアルの説明をしよう。全118Pのうち、約100Pほどは投資スタンス、テクニカル指標の説明、口座開設方法などに費やされている。

どれも一般的な内容で特に記すこともない。

またこの著者はよほどアフィリエイトが好きなのだろう、本編でも約20Pに渡ってアフィリエイトの説明をしている。

さらに銘柄選択にはエクセルファイルを使うのだが、ご丁寧にエクセルを持っていない人のためにビューワーソフトのインストール方法まで約10P

E-BOOK のダイジェスト

を使って説明している。

明らかにページ数の水増しをしようとしているのが伺える。肝心な売買手法についての説明は約 20 P ほどだろう。

では具体的な売買手法の説明に入る。

投資対象：日本株

投資期間：デイトレード

銘柄選択

まず銘柄選択をするのだが、これは付属のエクセルファイルで行う。

インフォシークの日中値下がりランキング 50 位までを 2 日分入力するとエクセルファイルに該当銘柄が表示されるようになっている。

その表示された該当銘柄から以下の条件に当たるものを省いて残ったのが投資対象銘柄となる。

- ・市場が「名古屋」「福岡」「札幌」のもの
- ・出来高が 1000 未満のもの。
- ・株価が 50 円未満なもの。
- ・ジャスダックのマーケットメイクで取引されているもの。

リミット

利益は終値が 4% 以上になった時点。

マニュアルに記載されているのはこれだけである。

E-BOOKのダイジェスト

選択した銘柄をいつ買うか、何日保有するか、ストップは置くのかなど何も説明がない。

推測すればストップはリミットと同じ4%の下落、デイトレードというからには寄付きで買い、リミットかストップにかかるまで保有して大引けで決済だろうとはわかる。

しかし著者としてはっきりマニュアルに記載するのは当然の義務だろう。セールスレターには「超初心者にも大好評！」とあるが本当だろうか？この内容では初心者は銘柄選択の後どうしていいかわからないだろう。

アフィリエイトなど関係のない項目に多くのページを割きながら、肝心の売買手法をきちんと説明しないのは本末転倒であろう。

さて話を売買手法に戻そう。実はマニュアルにはエクセルファイルでどのようなロジックで銘柄選択を行っているかが記載されていない。

そこで筆者がエクセルファイルの内容から銘柄選択のロジックを推測してみた。

1 前日、前々日のインフォシークの値下がり率ランキングの両方に入っている銘柄を抜き出す。

2 その中から以下のいずれかの条件を満たすものが該当銘柄として

E-BOOKのダイジェスト

表示される。

- ・出来高が増えている。
- ・株価下落率が同じか下がっている。

この場合は－29.2%から－13.2%のように改善したことを指す。

- ・株価前日比が同じか、上がっている。

この場合は－1400から－700のように改善したことを指す。

これらの条件は2つまたはすべて満たしていてもいい。

もしかしたらフィルターとして株価下落率何%以上、出来高が何株以上、株価前日比が何円以上といった設定をしているかもしれないがこの検証ではわからなかった。

この推測でほぼ間違っていないと思うが、あくまで推測なのでこの原稿を元に実行する場合は注意していただきたい。

売買手法の根拠としては値下がり率ランキングに2日連続で入るような値下がりした銘柄を出来高の増加、株価下落率や株価前日比などから反発の兆候を見つけ出して逆張りするという事だろう。

有効な手法ではあるが、手法自体は割りと知られているものである。この手法でセールスレターにあるように「持金を毎月1.6倍から2倍に増やす」売買成績が出せるかは疑問である。

E-BOOKのダイジェスト

もっとも肝心な銘柄選択に関してはあくまで推測なので、推測できなかった部分で売買成績をアップする何かがある可能性は否定できない。

ただしあからさまなページ数の水増し、売買手法をきちんと記載しないなど著者としては問題があることは間違いない。

一概に言えないが、そのような著者の売買手法を頭から信用できないのも事実である。

最後にひとつ。セールスレターには「完全自動取引」とあるが、「完全自動取引」とは通常プログラムを走らせて、人力をかけずに売買する方法のことを指す。

この手法は銘柄選択をエクセルファイルで自動処理するだけで、明らかに「完全自動取引」ではない。
単に知識不足なのかもしれないが、虚偽広告である。

Reduce – FX

発行元情報

| | |
|--------|----------------------|
| ■発行元 | 株式会社インヴィンシブル |
| ■販売責任者 | 株式会社HALWILL |
| ■所在地 | 愛知県名古屋市西区砂原町235-102 |
| ■電話 | 052 - 740 - 1126 |
| ■メール | info@reduce-fx.com |
| ■URL | http://reduce-fx.com |

価格 19,800 円

… 目次 …

0 ファイル

1. チャートを見て、あるポイントを見つける…3
2. そのポイントを基準に、上下に3つのラインを引く…7
3. そのラインを引いたポイントでのみ売買をする…13

1 ファイル

トレード前の注意事項…3

2 ファイル

私、黒崎が自身の失敗と過去データの数年に渡る検証と研究の末たどり着いた、シンプルなのに強力な“チャート設定”…3

3 ファイル

投資の醍醐味…「複利運用」を着実に実行していく為に必須となる絶対に押さえておかなければいけない”値動きの基本”毎日利益を出すための売買ポイント…2

4 ファイル

今までの投資基準を根底から崩した手法…容易に天と底でポジションを取ることが可能な、”感動”と”楽しさ”と”利益”の3つを同時に味わうことができる唯一無二のリバーシングライン…2

5 ファイル

サブプライムのような大暴落を事前に察知することができ、暴落時こそ圧倒的に結果を残すための”6つのチェック項目”…2

6 ファイル

毎月30%以上（毎日1%～2%）のハイパフォーマンスを安定継続させるための極意…2

7 ファイル

通常のトレードの手間を60分の1に抑えながら短期トレードと同等、もしくはそれ以上に効率よく結果を望める売買方法とリスク回避の要点…2

8 ファイル

トレード勝率100%を目指し1年間で資金を9倍いやそれ以上にするための”理論”…2

9 ファイル

「Reduce - FX総集編」私、黒崎からあなたへのプレゼント
・・・あなたの資金を最短で10倍、20倍、50倍にする方法…2

1. リバーシングラインの引き方について…2
2. リバーシングラインを使った取引方法…10
3. リバーシングラインの使い方と基本的な取引方法のまとめ…13

■応用

4. ラインをすらすら考え方・・・14
5. サブプライムのような暴落時はどうだったのか？・・・16
6. 売買ポイントを絞って利確率をさらに高めるには？・・・26
7. リバーシングラインの活用方法・・・28
8. 総括・・・29
9. 最後に・・・31

●総ページ数 135 ページ。

ファイルが分かれているので読み返したい部分を見つけやすい。

E-BOOKのダイジェスト

インフォトップランキング 1位をキープし続ける話題のFX商材がこの「ReduceFX」である。

セールスレターには「クライアント 50人に 100憶稼がせる男が教える手法でたった3つのエントリーポイントを見つけるだけで毎日、毎トレード利益を出し続ける」

「1年で資金が 4096倍に…」など華々しいキャッチコピーが並ぶ。

果たしてその実力はいかなものだろうか。その実体に迫ってみよう。

商材は 0 から 9 までの 10 の PDF ファイルからなる。

では各ファイルを順に説明しよう。

まず一番初めの 0 ファイルでは売買手法の概要が説明される。

対象通貨ペア

ドル円、ユーロ円、ポンド円、カナダドル円、豪ドル円、NZドル円

使用するテクニカル指標

- ・ボリンジャーバンド
- ・ローソク足
- ・リバーシングライン（著者オリジナル）

E-BOOK のダイジェスト

この著者オリジナルのリバーシングラインの引き方は以下である。

ボリンジャーバンドをチャート画面に表示させたら価格が -2σ 、 $+2\sigma$ にタッチしている箇所にまず注目する。

そして価格が「 -2σ から $+2\sigma$ 」に動いているのか「 $+2\sigma$ から -2σ 」に動いているのかを確認する。

チャートの流れは「 -2σ から $+2\sigma$ 」なら上昇、「 $+2\sigma$ から -2σ 」なら下落となっているはずである。

リバーシングラインは価格が $\pm 2\sigma$ にタッチし、 $\pm 2\sigma$ のラインが山のような形または水平になった部分を基準に水平に引く。

上昇なら $+2\sigma$ 、下落なら -2σ がリバーシングラインを引く基準となる。文章だけではわかりづらいが見た目はフィボナッチと同じようにチャート画面に対して水平なラインとなる。

この最初に引いたリバーシングラインを基準線と呼ぶ。

次に基準線を中心して上下にラインを引く。

この間隔は通貨ペアや日足か 30 分足かなどで違うので詳しくは後で記載する。

例えばユーロ円 30 分足の場合だとラインの間隔は 30 銭となる。

E-BOOK のダイジェスト

つまり基準線が 150 円だとしたら、上に 150.30 円、150.60 円、150.90 円、下に 149.70 円、149.40 円、149.10 円と基本的には上下 3 本ずつ引く。

見た目はほぼフィボナッチと同じで使い方もリミット、ストップ、反転の目安とほぼフィボナッチと同じである。

このリバーシングラインは価格が $\pm 2\sigma$ にタッチしたら新しく引き直す。

また各ラインを低く際に最低ボリンジャーバンドのミドルラインの上に 3 本、下に 3 本引くようにする。

売買

買いの場合は基準線より下の 3 本のライン、売りの場合は基準線の上の 3 本のラインに価格がタッチしたら逆張りでエントリーする。

この手法では基本的に 1 回のエントリーで利益を狙うのではなく、各ラインでの 3 回のエントリーで総合的に利益を狙う。

つまり買い売りで基本的には各 3 回エントリーポイントがあることになる。

資金に余裕があれば 4 回、5 回とエントリーポイントを増やしてもよいが、必ず直前のエントリーポイントよりもポジション量は増やす。

E-BOOK のダイジェスト

エントリーポイントは基準線に近い方から第1ポジション、第2ポジション、第3ポジションすると、各ポジションの資金配分は「1：3：9」となる。

第4ポジションまで増やす場合は「1：3：9：27」となる。

つまり第1ポジションでは1万通貨ポジションを持ったとすると、第2ポジションでは3万通貨、第3ポジションでは9万通貨エントリーすることになる。

つまり俗に言うナンピンをする。ポジションの処理方法も通常にナンピンと同じく、最初のポジションで価格が逆行し、第2ポジションのエントリーポイントまできたら資金配分に従って買い増しする。

第3、第4ポジションを立てる場合も同じである。後で建てたポジションを利確する時は以前のポジションを同時に決済する。

リミット、ストップリミットは基本的にリバーシングラインの1ライン幅、ストップは2ライン幅とする。先ほどのユーロ円の場合だとリミットは30銭、ストップは60銭となる。

ここまでが0ファイルで説明されている売買手法の概要だ。

E-BOOK のダイジェスト

詳しい売買手法は後のファイルで説明される。

次の1ファイルでは以下のようなこの売買手法の基本的な考え方が示される。

1. トレンドの判断をし、上昇トレンドになる要素が強ければ買いを優先し、
下降トレンドになる要素が強ければ売りを優先する。
2. 1つのポジションだけでなく、資金配分を考えて複数のポジションで勝負する。
3. 複利運用できるようなルール作りをする。

これは利益率が多少低くても勝率が高くければ複利運用は可能であり、そのようなルール作りを目指すべきというのが著者の考えである。

2ファイルはチャート設定の方法である。この手法ではVTにチャートを設定する。

設定するテクニカル指標は以下である。

- ・ローソク足（日足、4時間足）
- ・Moving average(Period10)
- ・Bollinger Bands-Fibonacci Ratios（デフォルト設定）
- ・Ichimoku Kinko Huo（デフォルト設定）
- ・トレーディングシステムにあるVT-Commodity Channel Index System も

E-BOOKのダイジェスト

設定する。

これらのテクニカル指標を日足、4時間足の2つ、または30分足、4時間足、日足の3つを同時に表示させる。

設定するとVTのチャート上では買いサインが「青い矢印」売りサインが「赤い矢印」決済ポイントが「EXIT」と表示されるようになる。

1 買いサイン

価格が上昇し、ミドルラインを超える。

2 買いEXIT 価格が上げ止まり10MAを割る

3 売りサイン 価格が下落しミドルラインを割る

4 売りEXIT 価格が下げ止まり10MAを超える

以上がチャートにサイン発生の売買ロジックであるが、このサインは実際の売買には使わず以下のようにトレンドの判断に使用する。

レンジ相場

「買いサイン」「買いEXIT」「売りサイン」「売りEXIT」と4つのサインが順番に表示される状態。

上昇トレンド

「買いサイン」「買いEXIT」「買いサイン」のように買いが連続して売りサインが出ない状態。

E-BOOK のダイジェスト

下降トレンド

「売りサイン」「売り EXIT」「売りサイン」のように売りが連続して買いサインが出ない状態。

3 ファイルではリバーシングラインを使わないこの売買手法の基本となった手法の説明だ。

リバーシングラインを使わずこの手法だけでも有効だという。

買いエントリーの基本

- ・ 価格が -2σ 、 -3σ を割ってきた時点

売りエントリーの基本

- ・ 価格が 2σ 、 3σ を抜けてきた時点

このように基本は逆張りとなる。

予め -2σ 、 -3σ に買い注文、 2σ 、 3σ に売り注文を入れておく。

また -1σ から 1σ の間は値動きが不安定なので慣れるまでは基本的にエントリーはしない。

また価格が 1 OMA に何度も跳ね返されている場合、2 時間足の一目均衡表の潜りかけている場合はレンジブレイクの前触れと判断し仕掛けない。

E-BOOKのダイジェスト

リミットの基本

買いエントリー

- − 2 σ でエントリーした場合は − 1 σ 、− 3 σ でエントリーした場合は − 2 σ 売りエントリー

2 σ でエントリーした場合は 1 σ 、3 σ でエントリーした場合は 2 σ
このように基本的には次のボリンジャーバンドのラインがリミットとなる。

ストップ

2ライン上または下に置く。つまり 1 σ で仕掛けた場合は 3 σ 、− 1 σ で仕掛けた場合は − 3 σ に置く。

各ポジションの持ち方は最初に説明した方法と同じで資金配分に従ってナンピンをする。

慣れたきたら ± 1 から ± 3 σ の各ラインで 3 つのポジションを持つても良い。

4 ファイルではリバーシングラインの引き方、使い方が説明される。

リバーシングラインの幅は通貨ペアや日足、分足かによって違い以下を基準とする。

E-BOOK のダイジェスト

| | 日足（短期スイング pips） | 分足（デイトレード pips） | 基点 |
|--------|-----------------|-----------------|--------------|
| ドル円 | 150 | 60 分足 30 | ± 2 σ |
| ユーロ円 | 250 | 30 分足 30 | ± 2 σ |
| ポンド円 | 300 | 15 分足 50 | ± 3 σ |
| カナダドル円 | 150 | 30 分足 40 | ± 2 σ |
| 豪ドル円 | 150 | 30 分足 30 | ± 2 σ |
| NZ ドル円 | 150 | 60 分足 30 | ± 2 σ |

なお売買手法に慣れるまでは「ドル円 2 時間足 60 分足 ± 2 σ 」の設定でトレードすることが推奨されている。

5、6 ファイルではサブプライムのような暴落時の対処方法の説明がある。まず以下の 6 項目をチェックする。

- ・ 一目均衡表の雲に価格が近づいているか
- ・ 一目均衡表の雲に価格が潜っていないか
- ・ ボリンジャーバンドのミドルライン以上で陰線が 3 本連続していないか
- ・ 1 σ 以上の高値圏で買い EXI のサインがでていないか
- ・ - 2 σ に達してから戻りがないか弱い
- ・ - 3 σ からの戻りが弱い

この 6 項目のどれかに該当したら暴落の兆候と判断する。

暴落の兆候があった場合は通常は仕掛けを見送るがリバーシング

E-BOOK のダイジェスト

ラインを 1 本ずらして仕掛ける。

つまり最初のポジションを±2σ、第2ポジションを±3σ、第3ポジションを±4σのようにずらすことでリスクを減らす。

特に−2σはレンジブレイクが始まるポイントなる可能性が高いので以下のチェックも併用し、1本ずらすか仕掛けを見送るか判断する。

1. 10MA、ミドルラインをどう割っているか。

以下の状態かどうかをチェックする。

- 10MA、ミドルラインをローソク足が一揆に下抜けた。
- 10MA、ミドルラインの間からローソク足が始まり下抜けた。
- −2σに一度タッチしたが戻りが弱く再度−2σにしたなど各ラインに一度タッチしたのに戻された。

2. −1σより上から−2σに来ているか？

10MA、ミドルラインで価格が抑えられていないか？

3. −2σに価格がタッチした後、そのローソク足も含めて4本以内に10に移動平均線を越えているか？

4. −1σでの反発がまったくなく、1本のローソク足で−2σに向かっているか？

E-BOOKのダイジェスト

5. -2σ でポジションを持った後、わずかな上昇で利確できず -2σ に戻されてきた。

いずれも1本ラインをずらすか仕掛け見送るが「5」の場合は手仕舞いをしたほうが良い。

ここまでのデイトレードの基本的な売買手法である。

次の7ファイルではスイングトレードの手法が説明される。

基本的な売買手法は同じだが、リバーシングラインを引く幅や資金配分、リミット、ストップ幅がデイトレードの場合と異なる。

以下が保有期間、リミット、使用するローソク足の目安である。

| | 足 | 利幅 (pips) | 保有期間 |
|---------|------|-----------|---------|
| 長期スイング | 月足 | 500 ~ 700 | 1ヶ月以上 |
| 中期スイング | 週足 | 200 ~ 400 | 1 ~ 3週間 |
| 短期スイング | 日足 | 100 ~ 150 | 1 ~ 10日 |
| 超短期スイング | 4時間足 | 50 ~ 80 | 当日 ~ 3日 |

E-BOOK のダイジェスト

スイングトレードではデイトレードに比べてリスクが大きくなるため
利確前には同じエントリーポイントでは買い増しをしない。
以下がそのポイントである。

| | 10MA ~ミドルライン | ミドルライン~ $\pm 1\sigma$ | $\pm 1\sigma$ ~ $\pm 2\sigma$ | $\pm 2\sigma$ ~ $\pm 3\sigma$ |
|---------|--------------|-----------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 長期スイング | | | 第1ポイント | 第2ポイント |
| 中期スイング | | | 第1ポイント | |
| 短期スイング | 第1ポイント | 第2ポイント | 第3ポイント | 第4ポイント |
| 超短期スイング | | 第1ポイント | 第2ポイント | 第3ポイント |

エントリーポイントはデイトレードの場合と同じく買いの場合は -1σ 、
売りの場合は 1σ を第1ポイントとし、以下は $\pm 2\sigma$ を第2ポイント、
 $\pm 3\sigma$ を第3ポイント、 $\pm 4\sigma$ を第4ポイントとする。

ここで $\pm 4\sigma$ という言葉がでたが、実際のチャートには $\pm 3\sigma$ までしか
表示されないのが疑問に思った方もいるだろう。

この手法では日足の場合 $\pm 3\sigma$ の上下150pipsに仮想の $\pm 4\sigma$ を置く。
ポジションの数によっては $\pm 5\sigma$ ~ 7σ まで使う場合もあるが、
考え方は同じである。

ただし短期スイングの場合、上昇トレンド中は価格がなかなか -1σ
 σ に届かない場合が多いので、10MAを割り込んだポイントでエント
リーしてもよい。

E-BOOK のダイジェスト

リミットは最初の表または2ラインを目安とし、ストップは3ライン分を目安とする。

以下がストップの目安である。

長期スイング：1500pips～

中期スイング：1200pips～

短期スイング：500pips～

超短期スイング：250 pips～

また各エントリーポイントの資金配分はデイトレードでは

「1：3：9」だったが、スイングトレードでは「1：2：4」とする。

暴落の前兆のチェック項目は基本的にはデイトレードと同じだが、スイングトレードの場合以下の項目に特に注意する。

- ・一目均衡表の雲とローソク足が近づいていないか？
- ・陰線が3本連続したところで買いをいれていないか？

ここまでがスイングトレード説明である。

次の8ファイルはこれまでの売買手法の復習となっている。

重複するので特に内容は帰さないが、理想的な資金配分として

「1：3：9：27」が推奨されている。

E-BOOKのダイジェスト

最後の9ファイルはこれまでの内容のまとめになっている。

基本的な売買手法は重複するので記さないが、強い下落時のトレード方法が説明されているので紹介する。

10MA、ミドルラインを同時に割るような強い下落の前兆がある。

その時 -2σ から動いた価格がミドルラインで抑えられて再び -2σ に戻ってきたらこれをブレイクの前兆と判断する。

そして -3σ のラインから価格が10MAに届かず、再び -3σ のラインに戻されたらブレイクの確定と判断し、売りを入れる。

そして売りで仕掛けながら -5σ から -7σ の間で買いのチャンスを待つ。

その際は以下のようにボリンジャーバンドのラインを変化させていく。

1 下落している価格が一旦反発し10MAまたは2バンドまで戻った場合そこが新たな -3σ となる。

例えば -6σ のところでその反発が起こった場合

-6σ を「 -3σ 」として買いの判断をする。

ここまで売買手法を順に説明してきた。

基本となっているのは昔からあるボリンジャーバンドを使った逆張りである。

しかしこの手法は価格がレンジを越えるような強いトレンドになると

E-BOOK のダイジェスト

機能しなくなるのが欠点だ。

それを各チェックポイントや仮想の $\pm 4\sigma \sim \pm 7\sigma$ 、リバーシングラインなどを使うことによって暴落時など想定外の相場状況にも対応できるようにしている。

ただし気をつけなければいけないのこの手法の資金配分だ。

商材中ではいろいろと細かく書いてきたが要はナンピンである。

ポジションと価格が逆行したら買い増しし、価格が反転するのを待つ戦法である。

確かに著者が言うように高確率で反転するならばそれもよいだろう。

ただしその証拠はない。

例えば商材にあるように「1 : 3 : 9 : 27」

の資金配分で第4ポジションまで我慢して反転しなければ1万通貨単位だとすると40万通貨分の差益損失となる。

全体で2円の損失だとしても80万円の損失でとなってしまう。

これは少なめに見積もったが実際の損失は100万円を超えてしまうだろう。

このようにナンピンは一度でも失敗すると大きな損失になる。

また含み損を抱えてさらに買い増しをするというのは心理的にも大きなプレッシャーとなる。

E-BOOKのダイジェスト

自分が開発した売買手法で十分検証したならともかく、所詮は他人の売買手法なので商材購入者がナンピンをすんなり実行できるかも疑問だ。

もしこの手法を実行するなら 1000 通貨単位で取引できる業者で取引することをオススメする。

1000 通貨単位なら全部のポジション合計は 4 万通貨で済むので、それほどリスクは大きくないだろう。

実際この手法を実行するとなると安全に運用しようとするなら 100 万円以上の資金は必要だと思われる。

1000 通貨で運用するか、資金配分を小さくするにしても 50 万円程度は必要ではないか。

また各状況で判断することも多く、裁量の部分が大きいため個人の習熟度によって結果に大きく差が出るだろう。

裁量トレードというのは習熟すればすべての相場状況にうまく対応できる可能性があるが、未熟だとすべての相場状況に対応できなく損失を出す可能性があるからだ。

ナンピンはいつか失敗して大きな損失を出すことは確かだ。
ただそれを補えるパフォーマンスが出せるなら有効だと思う。

E-BOOK のダイジェスト

しかしそれは十分自分で検証しないとわからないし実行できない。

著者の言葉を鵜呑みにして実行し大きな損失を出してからでは遅いのだ。

またセールレターにある返金条件はこうである。

「この教材を購入して60日後、もし私がマニュアルで教えしている方法で、5トレード（5セット）以内に、一度も利益が出なければ、全額返金をします。

1トレード（1セット）とは、買い4ポイント、売り4ポイントを同時に推奨する資金配分、リミット値、ロスカット値で指値注文した状態を指します」

この条件でもし1万通貨で実行するとすると200万通貨分の損失だ。

これは無理な返金条件だ。返金条件を満たすためには商材代金の何倍もの損失を被らなくてならない。

もっとも、資金配分を守ればいいのであれば1000通貨でも返金条件は満たしている。

その場合でも20万通貨分の損失を被らなくてならないが。

E-BOOKのダイジェスト

もうひとつセールスレターから。

「テクニカル分析でもファンダメンタルズ分析でもない第3の手法」とある。

これは虚偽広告だろう。いろいろ工夫はあるがこの手法はどうみてもテクニカル分析とっていい。

オリジナル性もあるし、よく考えられていて有効な手法ではあるが、資金面や投資技術面などから万人向けではないし、実行するとなると十分検証してからでないとしリスクが大きすぎるというのが筆者の結論である。

渋谷高雄の空売りセミナー DVD

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 株式会社ウィニングエッジ |
| ■販売責任者 | 中村 司 |
| ■所在地 | 福岡県北九州市小倉北区馬借 1-5-18 |
| ■電話 | 0120-212-718 |
| ■メール | manual@shibuyatakao.com |
| ■ URL | http://www.shibuyatakao.com/karauridvd |

価格 39,800 円

… 目次 …

- 冊子全 90 ページ（セミナー内容書き起こしのため目次なし）。
目次がなく DVD を見ながらでないと理解しづらい。
DVD 約 120 分。

E-BOOKのダイジェスト

マスコミにも度々登場する著名な株式投資家渋谷高雄氏の第2弾の商材がこの「渋谷高雄の空売りセミナーDVD」である。

商材の題名からもわかるようにセミナー内容を撮影したDVDとそれをテキスト化した冊子が本商材の内容である。

また特典として投入資金調節表エクセルファイルと冊子版の内容をPDF化したもの、銘柄情報などを配信する月額19,800円の有料会員サービスの1ヶ月無料の権利がついてくる。

冊子は片面90Pの分量である。セミナーで話した内容をテキスト化したものなので、話題があちこちに飛び、内容を要約することは困難だができるだけ試みてみよう。

内容は初めて空売りをする初心者向けとあっていいだろう。

セミナーでは個々の銘柄についてケーススタディで説明しているがそのすべてを記載するわけにもいかないの、ポイントのみをまとめたみた。

1. 信用取引を行う場合レバレッジの考え方

こういう人は空売りはおろかまだ信用をやってはいけない。

- ・損きりができない人
- ・投入資金調節表に乗っ取った投資ができない人

これは付属のエクセルファイルのことで、投入代金、ロスカット、期待利益などを記入していく。

E-BOOKのダイジェスト

といっても自動で最適な数値を算出してくれるようなものではなく、簡単な計算をする機能のみである。

すこしエクセルを知っている人なら十分自作できるレベルである。

ここでいう「投入資金調節表に乗っ取った投資ができない人」とは資金管理のできない人と考えていいだろう。

資金管理に関しては特に厳密なルールがあるわけではない。

ただセミナーではエントリーの際には利益の限界ではなく、損失の限界から考えて投資金額を決めることを強調している。

2 信用取引口座を開設すれば、これまでの約 3 倍の売買ができるようになるが、この 3 倍というレバレッジに対する注意点

- ・ 3 倍の資金が投入できる利益が 3 倍になると考えてはいけない。
売買できる銘柄の数が 3 倍になったと考える。

これについてはよく言われていることであり利益が 3 倍になると同時に損失も 3 倍になるのでできるだけ分散投資をしてリスクを軽減するということである。

3 空売りに対する、最初に必要な 3 つの考え

I 空売りの意義

① 下降トレンド時の対処法としての意義

E-BOOKのダイジェスト

下げ相場で買いのみの戦略で利益を出すことは難しいので「空売り」を使い下げ相場でも利益を狙う。

②トレンドラインを価格が割った場合の対処法としての意義

前作でもわかるように著者の手法はトレンドラインを重要視しており、買いの場合もトレンドラインを判断の基準にする。

この現在引いているトレンドラインを価格が割ったらどうするかをまず想定しておく。

買い持ちをしていて価格がトレンドラインを割った場合の対処法としても空売りは使える。

トレンドラインを価格が割った場合は急落することが多いので買いポジションを手仕舞いドデンして空売りをかける。

Ⅱ空売りの難しい側面

下降トレンドから上昇トレンドに転換する場合は空売り出来高の上昇を伴って直近の安値を更新しない、高値を更新するが多い。

このように空売りから買いへと柔軟に変更することは案外難しいので、十分な注意が必要である。

Ⅲ信用残の見方

空売り残（貸株）と買い残（融資）を比べて空売り残の方が多ければ将来の買い圧力につながり、買い残が多ければ将来の売り圧力につながる。

E-BOOKのダイジェスト

また信用残は「日商金信用残」と「東証金信用残」があるが「日商金信用残」は個人投資家の動向、「東証金信用残」は大口投資家の動向と見てよい。

信用残を見る上では負けやすい個人投資家の動向を見るため「日商金信用残」を中心に考える。

3 空売りの具体的なトレード方法

I 下降トレンド銘柄を売り建てる。

・日足で5日、25日移動平均線が下向きになり、陰線が頻発したらエントリー。

移動平均線がデッドクロスしていれば尚よい。

II トレンドライン、またはサポートラインを価格が割ったら売り建てる。

III 日足上で25日移動平均線で価格が跳ね返られたら売り建てる。

IV 大ギャップ+大陰線

・大ギャップ+大陰線が同時に現れた時は新規下降トレンドの始まりと考えられるので、そこを狙って空売りを仕掛ける。

4 空売りを仕掛ける際の注意点

I 急騰中の銘柄の天井を狙って空売りを仕掛けない。

II 損きりと利益確定

下降トレンドはダマシの瞬間上げを伴いながら下げていくので、その時に利益確定をしないようにできるだけ利益を伸ばすようにする。

ただし下降トレンドからの反転はスピードが速いので、以下の条件を満たしたらすばやく損きりする。

E-BOOKのダイジェスト

- ・底値切り替えしのチャートパターンが見えてきた。
- ・その時の出来高も増加している。

このチャートパターンについての説明はない。様々なチャートパターンを見られる「チャートフォリオ」の利用を前提にしているのだろうが、現在はヤフーでの無料公開は終了しており、利用にはマネックス証券の口座開設が必要である。

以上が商材の内容である。初心者向けのセミナーということもあり、多くは基本的な知識の説明である。

書籍でも十分学べる内容だ。また売買手法については有効性は否定しないが、正統的なテクニカル分析を基にしたもので、特に目新しい部分はない。

初心者向けセミナーということもあって必要最低限の売買ルールが述べられているに過ぎず、具体的な突っ込んだ内容を期待する人には不十分な内容だろう。

セールスレターには「空売りで最短距離でガツンと稼げるようになる渋谷高雄ロジック」とあるが、本商材の内容はそのサワリだけといった印象である。

実際にセミナーに行けばまた得るものもあるだろうが、この内容のDVDでこの価格は高すぎる。

E-BOOKのダイジェスト

著者がこれまで空売りの手法を一般公開していないことを差し引いても、特典として付いてくる有料会員サービスへの誘導がこの商材の目的ではないかと筆者などは疑ってしまう。

いずれにしても著者のファン以外には価格程の内容は無いというのが結論である。

キャンドルFX

発行元情報

| | |
|--------|--|
| ■発行元 | 原 和弘 |
| ■販売責任者 | 原 和弘 |
| ■所在地 | 神奈川県川崎市幸区南幸町 3 - 5 |
| ■電話 | 080-1307-2187 |
| ■メール | whynot@ss.secret.jp |
| ■ URL | http://whynot.secret.jp / |

価格 29,800 円

… 目次 …

| | |
|----------------|----|
| 実際の運用に際して | 7 |
| 第 1 章トレード準備 | 10 |
| 第 2 章トレード手法の説明 | 16 |
| 第 3 章資金管理 | 26 |
| 第 4 章実践トレーディング | 39 |
| 第 5 章周辺知識 | 56 |

●全 82 ページ。著者独自の用語がありわかりづらい部分がある。

E-BOOKのダイジェスト

セールスレターにもあるように本商材「キャンドルFX」はローソク足の
みを用いたデイトレード手法である。

著者が「テクニカルは使えない！！」「ローソク足だけで勝てる」と言い
切るその手法の内容はどのようなものだろうか。

では売買ロジックの説明に入ろう。

使用するテクニカル指標

ローソク足（15分）

対象通貨ペア

「スプレッドが狭いこと」「ボラティリティが高いこと」が対象通貨ペアの
条件である。

この2つの条件から以下の通貨ペアを投資対象とする。

・スプレッドが狭い通貨ペア

米ドル円、ユーロドル、ユーロ円、豪ドルドル

・ボラティリティが高い通貨ペア

ポンド円、ポンドドル、ユーロ円

この中でも2つの条件を満たすユーロドルとボラティリティの高いポンド
円が推奨されている。

売買手法

E-BOOKのダイジェスト

基本の手法は以下の2つがある。

手法1 トレンド継続を確認して順張り

手法2 トレンド加速を確認して順張り

手法1

エントリー

逆線が2本連続で立ち、2本目のローソク足の始値を超えた時。

逆線とはローソク足が陽線の次に陰線、または陰線の次に陽線が立つことである。

逆線が2回立つとはつまり以下のような状態のことだ。

陽線→陰線→陽線

陰線→陽線→陰線

この3本目の陽線で買いエントリー、3本目の陰線で売りエントリーとなる。この時前述したように3本目が2本目の始値を越えていることが条件となる。

また3本目のローソク足の完成を待たず、3本目が2本目の始値を越えた時点でエントリーする。

決済

・ボラティリティの小さい通貨ペア

10pips 利益がでたらストップを10pips ずつトレイルしていきストップにかかるまで保有する。

・ボラティリティの大きい通貨ペア

20ps 利益がでたらストップを20ips ずつトレイルしていきストップにか

E-BOOK のダイジェスト

かるまで保有する。

ストップ

- ・ボラティリティの小さい通貨ペア

25pips

- ・ボラティリティの大きい通貨ペア

40pips

*通貨ペアは対象通貨ペアでの分類を適用する。

また東京時間では変動幅が小さいためストップをトレイルせずに決済する。

応用

基本では3本のローソク足の並びでエントリーしたが、ここでは陽線（陰線）に挟まれる

ローソク足は1本目の陽線（陰線）の始値を超えない限りは何本あっても構わないとする。

つまり基本では陽線→陰線→陽線または陰線→陽線→陰線であったが以下の形でも構わないということだ。

陽線→（陰線→陰線→陰線→）陽線

陰線→（陽線→陽線→陽線→）陰線

ただし（ ）の中の陽線（陰線）は何回続いても構わないが1本目のローソク足の始値を越えないことが条件である。

エントリーは最後の陽線（陰線）が2本目の始値を越えた時点で行う。

また1本のローソク足でエントリー条件を満たさなくてもよい。

E-BOOKのダイジェスト

つまりこのような形だ。

陽線→（陰線→陰線→陰線→）陽線→陽線

陰線→（陽線→陽線→陽線→）陰線→陰線

ただしこの場合は1本のローソクでエントリー条件を満たした場合よりもトレンドの力が弱いと判断する。

エントリー条件を満たすのにより多くのローソク足が必要だからだ。

その他決済、ストップの条件は基本と同じである。

手法2

手法1はトレンド中の押し目、戻りを狙った手法だが一方的なトレンドではエントリーチャンスが無くなってしまう。

それを補足するのが手法2である。

使用するテクニカル指標、対象通貨ペア決済ストップは手法1と同様である。

エントリー

2本以上同じ色の足が連続し、3本目の足が2本目の実体と同じ価格だけ上昇したら買いエントリー、下降したら売りエントリー。

また2本目の足があまり小さい実体だとトレンドの力が弱いので、エントリー可能な実体の大きさは以下とする。

- ・ボラティリティの小さい通貨ペア

7pips 以上 20pips 以下

- ・ボラティリティの大きい通貨ペア

10pips 以上 40pips 以下

E-BOOK のダイジェスト

資金管理

次は資金管理についてである。内容は一般的な 1 回のトレードにおける許容損失額、心理的な許容損失額、リスクリワードなどで特別な内容はない。

しかしポジションサイジングについて面白い方法が記載してあったので紹介する。

それはラスベガス方式というポジションサイジングである。

最初の賭けは 2 単位

↓

最初の賭けに勝てば次は倍の 4 単位、負ければ単位は変えない。

↓

次も勝てば（2 連勝）次は 1 単位、負ければ 2 単位に変更する。

↓

次は勝っても（3 連勝）負けても単位は 2 単位のまま変更しない。

文章にするとややこしいが連勝している間は $2 \rightarrow 4 \rightarrow 1 \rightarrow 2 \rightarrow 4 \rightarrow 1 \dots$ と同じ繰り返しで変化し、負けた場合必ず次は 2 単位で賭けるということである。

このラスベガス方式はラスベガスで勝つために考案され 2 勝 2 敗でもトータルでプラスになる方法といわれている。

商材中では詳しく説明されているのだが結論からいうと期待値は「0」である。

つまり普通に同じ単位を賭けてもラスベガス方式を使っても期待される利益は変わらないということだ。

E-BOOKのダイジェスト

ただしこれは2勝2敗、つまり勝率が50%の場合だ。

勝率が50%以上、先ほどの例でいうと3勝2敗の場合の期待値を計算してみると「2.7」である。

単位を変えない場合の期待値は「2.0」なので期待値は上がったことになる。

このラスベガス方式は連勝した時に威力をはっするので勝率が高い売買ロジックをもちいれば効率よく資金を増やすことができるかもしれない。

ただし、リスクリワードが1対1であること、つまり勝った時の利益と負けた時の損失が同額であることが条件である。

また短期的には勝率は変動するので思うような結果が出ない可能性もある。

しかしポジションサイジングの方法として面白いのではないだろうか。

さてこの資金管理のあとはデモ口座の活用法、オススの書籍など周辺知識の説明が続く。

一般的な内容なので特に記すことはないが、ひとつ有効だと感じたことを説明する。

それはトレード日誌のつけ方だ。筆者もトレード日誌はつけているのだが、ノートの手書きで書いているので、後で見直すとその時の状況がよく思い出せないこともある。

商材で紹介されているトレード日誌のつけ方はその点よくできていると思

E-BOOKのダイジェスト

う。

1 エントリーしてストップを入れたらチャート画面をキャプチャーしてエクセルやワードなどに貼り付ける。

2 その画面の横に「なぜエントリーしたか」の根拠を書く。

3 決済、損きりをしたらまたチャート画面をキャプチャーしてエントリー画面の下に貼り付ける。

4 その横に「なぜこのタイミングで決済、損きりしたか」その根拠を書く。

5 その1、2時間後にまた画面をキャプチャーして「3」の画面の下に貼り付ける。

6 その画面の横の決済、損きりの評価を書く。

以上がトレード日誌のつけ方だ。

5分程度で簡単にできるし、チャート画面があるので後から見ても当時の状況が思い出しやすい。

ここまでの商材の内容である。最後に書いたのは売買ロジックとは関係のない部分だが非常に参考になった。

多くの商材が売買ロジック以外の部分にページを割いているが大抵一般的な内容であり参考になる部分がなかっただけに商材全体に気を配った著者の姿勢は評価したいと思う。

そして肝心の売買手法についてだが、簡単にいうとローソク足の並びから買い圧力、売り圧力を見てエントリーするという手法である。

酒田五法などローソク足のパターンを売買サインとする手法と考え方は同じだ。

E-BOOKのダイジェスト

著者は「テクニカルは必要ない」といったがローソク足も価格推移をグラフ化するという意味ではテクニカル的一种である。

その点ではテクニカル分析とその効果は大きくは変わらないのではないか。

ローソク足のパターンに一定有効性があることは認めるが、いつまでそれが続くかが問題である。

この手法にもそうした問題はあるだろう。またこの手法はトレード中PCに張り付いている必要がある。

著者によると1通貨ペアで1日5、6回のエントリーチャンスがあるとのことだが、夜間しか取引できない人にはエントリーチャンスは限られてしまうだろう。

同時に複数の通貨ペアのチェックをすることは初心者には難しく、またかなり労力を使うだろう。

基本手法だけでなく応用手法も使えばエントリーチャンスは増えるだろうが、これは裁量の部分が大きく練習が必要だ。

商材中には著者の1日のトレード模様が記載されているが、著者のように専門トレーダーならともかく、一般の人がどれだけエントリーチャンスが得られるのかは疑問である。

しかしトレードの多くの時間を割ける方なら試してみる価値はある手法である。

分速 FX24

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 有限会社ゆめコープ |
| ■販売責任者 | 小出高義 |
| ■所在地 | 東京都墨田区江東橋 2-6-7 ダービービル 3-H |
| ■電話 | 080 -2065 -8035 |
| ■メール | contact@yume-corp.com |
| ■ URL | http://www.fx24.biz/ |

価格 23,100 円

… 目次 …

| | |
|-------------------------|----|
| 第 1 部これまでの常識を覆す FX 売買手法 | 9 |
| 第 1 章だから、あなたは儲からない | 9 |
| 第 2 章トレンドなんか発生しなくてよい! | 12 |
| 第 3 章株取引と FX の違い | 25 |
| 第 2 部トレード | 32 |
| 第 4 章設定 | 32 |
| 第 5 章トレードの基本 | 46 |
| 第 6 章それぞれのシーンに応じたトレード | 66 |
| 第 7 章もっと簡単なやり方 | 72 |
| 第 3 部修練 | 76 |

全 81 ページ。画像は余り綺麗ではない。誤字脱字も目立つ。

E-BOOKのダイジェスト

インフォトップ 24 時間ランキングでも上位に食い込んでいるこの「分速 FX24」。

著者の小出万吉氏は過去にはダイエット商材などでヒットを飛ばしたこともある古くから活動している情報起業家である。

過去の商材については賛否両論があるものの、ここは先入観なしに商材を検証していきたいと思う。

商材は全 81P からなる。まず「だからあなたは儲からない」としてこれまでの FX 投資は間違いだと断言している。

株と違い「寄り付き」も「大引け」「損きり高・損きり安」もない FX の世界に株の理論をそのまま持ち込んでも通用するわけがないという。

そしてファンダメンタルズやテクニカルなどなにも役立たないと。

ここまで言えば極論だがある程度は当たっているとは思う。

FX の分析法には株の分析法をそのまま持ち込んだものも多く、機能しない部分があるのも確かだ。

次の章では「トレンドなんか発生しなくてもいい」とまた極論が展開される。

「FX では株でいわれることのトレンドの考え方はほとんど通用しません」

「サポート（支持線）に近づいたからといって、多くの人が「狼狽売り」

E-BOOKのダイジェスト

をするようなこともありません。」

「当然レジスタンス(抵抗線)から値が「剥がれるなんてこともありません。」とチャートストが聞いたら目を剥くような文章が並ぶ。

そしてこの商材の売買手法は「小さな勝利を毎日何度も上げ、勝率は100%、無敗を目指す。何かの間違いでロスカットをすることはあっても、それは単純計算で元金を割らない範囲にとどめる」のだという。

ここまでの文章でも推測はついたと思うが、この商材の売買手法はスキャルピングである。

トレンドが発生し、どんなに一方的にレートが動いているように見えても瞬間的には1~2銭程度のレートのブレは発生し、それをすばやく抜くというのがこの売買手法である。

しかしこれは口でいうことは簡単だが、実際には難しい。

ポジションを持った時点から確かに2銭から5銭程度はいつでも動くだろう。

しかしどちらに動くかはわからない。例えばドル円を1ドル90円で買ったとしよう。その後レートは逆行して89.95円になったとする。

その場合はそこから7銭上昇して90.02円にならないければ利益確定とはならない。

この売買手法で利益を上げるためにはよほど正確に方向を予測しなければならないはどのような方法でそれを実現するのだろうか。

ではその説明に入ろう。

E-BOOK のダイジェスト

前準備

前もってクリック証券とマネーパートナーズの口座を開設しておく必要がある。

マネーパートナーズはチャート表示用で実際の取引はクリック証券で行う。

設定

クリック証券

・「FX取引」タブより「FXチャート GOLD」をクリックして以下の設定をする。

レイアウト「L-4」

・チャートを以下の設定にする。

ローソク足「60分」

EMA1、EMA2「21」* 設定画面にはEMA1、EMA 2と出てくるが、実際に使用するEMAは1本である。

同様の設定をローソク足の「20分」「5分」でも行い画面を3つ作成する。

マネーパートナーズ

「情報ツール」タブより「チャート」をクリックして以下の設定をする。

・ローソク足は「日足」「60分足」「30分足」「5分足」を4分割で表示させる。

・チャートを以下の設定にする。

ボリンジャー周期・「21」

ボリンジャー周期・ σ 「2」

E-BOOK のダイジェスト

その他は非表示にする。

次に「情報ツール」タブより「MP チャート」をクリックして以下の設定をする。

- ・ボリンジャーバンド・基準「21」上限「2.0」下限「2.0」

この時ボリンジャーバンドの基準にはチェックを入れず非表示にする。

- ・RSI・短期「5」中期「14」長期「42」

対象通貨ペア

指定は無いが、スプレッドの狭いドル円を推奨している。

基本トレード

1 まずクリック証券の「60分足」「20分足」「5分足」で大まかなトレンドを確認する。

全部の時間帯のローソク足が同じ方向に向かっていれば5銭の差益を取りに行き、「60分足」「30分足」が下降中で「5分足」が上昇中ならば、上昇は一瞬と判断し2銭の差益を取りに行く。

また「60分足」「20分足」「5分足」も穏やかなラインでローソク足が張り付いているように並んでいる場合、レンジ相場と判断し、売り買いどちらでも2銭の差益を取りに行く。

実際にトレードする場合は別のトレンドの判断をするので、ここでは大まかなトレンドを把握するだけでよいが「買い」で仕掛けるか「売り」で仕掛

E-BOOK のダイジェスト

けるかは決めておく。

2次にマネーパートナーズの4分割の画面を表示させる。

「60分足」「30分足」「5分足」の直近のローソク足を見る。

「1」で「買い」と決めている場合3つのローソク足がすべて陽線なら5銭の差益を狙いにいく。

すべてが揃っていないなくても「30分足」「5分足」が陽線なら同様に狙ってもよい。

3狙いが決まったらマネーパートナーズの5分足を見る。

ボリンジャーバンドとRSIでトレンドの転換の前兆がないかを判断する。

ボリンジャーバンドは幅が狭まってきたら、RSIは中期線と長基線の間隔が広がってきたらトレンド転換の前兆と判断する。

4ここまできたらクリック証券の取引画面を表示させる。

4-1 指値で注文する場合

直近のローソク足にマウスポインタを持っていくとレートが表示される。

ローソク足が短い場合は真ん中辺り、それ以外は陽線の場合は上の方、陰線の場合は下の方にポインタを合わせる。

そこに表示されたレートでIDF-OCO注文を出す。

利益確定は5銭、損きりは1円上下にする。

E-BOOKのダイジェスト

4-2 成り行きで注文する場合

マネーパートナーズのMPチャートを表示させる。

すばやく注文するために予め取引数量を入力し、売買確認画面まで進んでおく。

4-3 次にマネーパートナーズのMPチャートを見る。

以下の条件のどちらかを満たせば注文ボタンを押してエントリーする。

売り

①ラインチャートがボリンジャーバンドの上限を一瞬上に抜けてすぐ下に切り替えした時。

②RSIの短期線が70%の線を一瞬上に抜けてすぐ下に切り替えした時。

買い

①ラインチャートがボリンジャーバンドの下限を一瞬下に抜けてすぐ上に切り替えした時。

②RSIの短期線が30%の線を一瞬下に抜けてすぐ上に切り替えした時。

4-4 利益確定

約定したら以下の条件に従って利益確定と損きりをOCO注文する。

クリック証券の「60分足」「20分足」「5分足」のEMAがすべて同じ方向の動いていて、なおかつマネーパートナーズの「60分足」「30分足」「5分足」の直近のローソク足が揃っている場合。

トレンドに沿っているエントリーなら5銭、沿っていないエントリーなら

E-BOOKのダイジェスト

2 銭に利益確定を設定する。

4-5 損きり

損きりは 1 円逆行したポイントに設定する。

この損きりポイントは随分大きい。2 銭～5 銭の利益に対しておよそ 50 倍、通常 1:1 以上が理想とされるリスクリワードはおよそ 1:50 である。

著者はこの売買手法は小さく勝って大きく負ける売買手法だという。

これまでの「損小利大」、つまり小さく負けて大きく勝つことが大事という常識とはまるで逆だ。

しかし勝率が 100% 近いのでこれでも大丈夫だという。

確かに目標利益がこれだけ小さく、これだけ損きり幅が大きければめったに負けることはないだろう。

しかし 1 回のトレードの目標利益が 2 銭～5 銭では 30 回トレードして 29 勝 1 敗でもマイナスになってしまう。

また目標利益が小さいのである程度の大きなポジションを持たなければ得られる利益は少ない。

この商材の資金管理は 1 回のトレードに全資金の 1/3 のリスクを負う。

つまり全資金が 30 万なら 10 万円のリスクを負う。

損きりが 1 円なのでポジションは 10 万通貨となる。

しかしこれはかなり大きなリスクだろう。常に高勝率を維持していなければすぐに資金はなくなってしまう。

E-BOOK のダイジェスト

よほど事前にデモトレードで検証して結果を確認してからでないとな筆者などは怖くてとても実践できない。

以上が基本トレードの内容である。次から応用トレードの説明に入る。

応用トレード

応用トレードでは以下の各状況によって売買手法を使い分ける。

トレンド発生時

急騰中や急落中にエントリーする場合はそのまま成り行きで OCO でエントリーする。

重要指標発表時

まず有名ブログの羊飼いの FX ブログで以前その指標が発表された時の値動きを調べる。

例えばその時にドル円が 60 銭上昇した後 1 円 60 銭下落したとする。

その場合どちらに値が動いてもいいように IFD-OCO 注文を同時に 2 つ出しておく。

①現在のレートより 80 銭高いところに「買い」の逆指値。

30 銭上に利益確定の売り注文、1 円下に損きりの売り注文。

②現在のレートより 80 銭低いところに「売りの逆指値。

E-BOOKのダイジェスト

30 銭下に利益確定の買い注文、1 円上に損きりの買い注文。

簡易な売買手法

これはスキャルピングに慣れた上級者向けだが、簡単にこの売買手法を実行する方法である。

1 マネーパートナーズの4分割画面とクリック証券の5分足チャートを表示させる。

マネーパートナーズの「60分足」「30分足」「5分足」の直近のローソク足が全部陽線の場合は「買い」、陰線の場合は「売り」、

ローソク足がそろっていない場合は5分足が陽線なら「買い」、陰線なら「売り」と判断する。

次にクリック証券の5分足チャートで上記の判断に従ってエントリーする。

ローソク足が揃っている場合は1銭～2銭、揃っていない場合は1銭を利益目標とする。

さて以上が本商材の内容である。著者には悪いが一昔前の情報商材でよくあったような怪しい胡散臭いセールスレター、PDFのデザインから正直余り期待していなかったのだが、思ったより正統的な内容であった。

所々見られる誇張的な表現や極論は少し気になったが売買手法自体に矛盾や無理はない。

E-BOOKのダイジェスト

ではこれまでのスキャルピングとどう違うかといえばそれは利益目標の小ささと損きりの大きさである。

前述したようにこれは勝率を上げるためではあるが、リスクも高いといえよう。

損きりが大きいためレートが戻ってくる可能性も高いが、それまでポジションが塩漬けになってしまうので、資金効率も通常のスキャルピングより悪くなるだろう。

またチェックする項目や手順も多いので、これをスピードが勝負のスキャルピングにおいてスムーズに実行するには多くの経験が必要だろう。

リスクも大きく初心者に進められる売買手法ではない。

実行するならデモトレードで十分練習する必要があるだろう。

いずれにしても有効性はあるが、セールスレターにあるような誰でも儲けられる夢の売買手法ではなく、儲けるには経験とセンスが必要なことは確かであろう。

山本伸一のグロース・ワラント

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 株式会社グロースアドバイザーズ |
| ■販売責任者 | 山本伸一 |
| ■所在地 | 東京都新宿区新宿 2-13-16 SENSHO ビル 4F |
| ■電話 | 03-6457-7033 |
| ■メール | info@growth-advisers.jp |
| ■URL | http://www.kabutomato.jp/infotop/warrant/ |

価格 9,800 円

… 目次 …

- 第1章 eワラントとは? ..8
- 第2章 eワラント取引を始めよう ..28
- 第3章 eワラント取引テクニック ..55
- 第4章 eワラントの妙味 ..79
- 第5章 eワラントを徹底活用しよう ..91
- 第6章 銘柄選びと売買タイミングについて ..97
- 第7章 実践、ワラントで儲ける銘柄選択 ..118

●全 132 ページ。デザインはすっきりしていて読みやすい。

E-BOOKのダイジェスト

本商材は「日経 225 先物パターントレード」に次ぐ「神の手」と呼ばれた証券ディーラー山本伸一氏の第 2 弾目の商材で、前作と違い今回は e-ワラントが投資対象である。

前作は面白い部分はあったものの「神の手」と呼ぶには少々役不足の感があったが今回はどうであろうか。

早速商材の検証に入ろう。商材は全 132P からなる。

まず第 1 章では「eワラントのメリット・デメリット」「コールとプットとは」など eワラントの概要について説明される。

第 2 章では「証券会社の選び方」「口座開設の手順」「価格の見方」などもう少し実践的な内容の説明となる。

次の第 3 章では eワラントの売買に関するポイントが挙げられている。

・急上昇しそうな銘柄を選ぶ

現物株の上昇銘柄を探す場合と同じように株式の上昇率ランキングをチェックしたり売買高が増加している銘柄を探したり、好決算やポジティブなニュースがでる銘柄を探す。

・買う時は思い切りよく

eワラントの価格は変動が激しいので、買うと決めたらすぐに販売価格（ま

E-BOOK のダイジェスト

たはその上の価格) で注文を出す。

・売りターゲットを決める

株価が何%上がったら e ワラントの価格が何%上がるかを推測し、買った直後に目標価格を設定する。

・失敗したらすぐに売る

思惑通りに株価が動かなければ深追いをせずすぐに売る。

・狙うのは急伸局面

逆張りや押し目買いは e ワラントでは通用しないので、値動きのよいものについていく。

・自分なりの勝ちパターンを身につける

リミット、ストップをいれ自分なりの勝ちパターンを身に着ける。

銘柄選びのポイントは「満期まで 1 ヶ月以上あるもの」「権利行使価格と対象銘柄価格」が近いもの」「価格が 1.00 以上のもの」「ギアリングが 1 桁のもの」「ゴールドマンサックスが発表しているリスク度が低いもの」を基準とする。

また「価格が 1.00 以下の安すぎる銘柄」「満期日まで 1 週間を切った銘柄」は原則として手を出さない。

ここまででこの章は終わりである。大部分は一般向け書籍に書いてあるような内容であるし、これらをどう利用して売買するかの具体的な手法がない。

E-BOOKのダイジェスト

前作でも同様だったが購入者が一番知りたいのはそこではないだろうか。
これでは高額な価格に見合った内容ではない。

次章以降に具体的な売買手法の説明があることを期待して先に進もう。
次章はリスクを減らす方法として以下のポイントが挙げられている。

・自分の得意分野を選択する

株式をやっているなら日経平均eワラント、FXをやっているなら為替eワラントのように

自分の良く知っている投資対象を選択する。

・リスクが少ない権利行使価格の銘柄を選択する。

イン・ザ・マネーなどできるだけリスクが少ない権利行使価格の銘柄を選択する。

・満期日まで余裕のある銘柄を選ぶ

最低でも満期日までの期間が1ヶ月以上、できれば3～4ヶ月ある銘柄を選択する。

・コールを買う

プットは利益確定のタイミングが難しいので基本的にはコールを買うようにする。

E-BOOK のダイジェスト

・利食いのタイミングは対象銘柄から

利食いのタイミングはeワラントの価格ではなく、日経平均なら 300 円高、個別銘柄なら 5 % 高など対象銘柄から決める。

・プットコールレシオでの相場予測。

プットコールレシオ上昇→見通し弱気

プットコールレシオ低下→見通し強気

ここまで 92P である。またもや一般的な内容に終始し、具体的な売買手法の説明はなかった。

次の章も現物株のヘッジにプットを利用する、余裕資金で行うなど取り立てていふべきこともない内容である。

さてページ数もいよいよ 100P 近くなってきたところで次章の「銘柄選びと売買タイミング」が始まる。

eワラントでは短期間に価格変動がある銘柄を探し出すことが利益を上げるコツで以下のポイントからその銘柄を探し出す。

①現物株の株式ランキング上位の銘柄から絞る。

ヤフーファイナンスやインフォシークマネーアンドのホームページで株式ランキングをチェックし上位銘柄から eワラントの対象銘柄を選び出す。

E-BOOKのダイジェスト

具体的な銘柄選択方法は以下となる。

- ・ 値上がり率上位にランキングされた銘柄が夜間取引で上昇を続けた場合
→コール
- ・ 値上がり率上位にランキングされた銘柄が夜間取引で反落した場合→
プット
- ・ 大きな材料でストップ高となった銘柄→コール
- ・ 大きな材料でないのにストップ高となった銘柄→プット
- ・ 今後の業績に打撃を与える事件でストップ安となった銘柄→プット
- ・ 業績に関係なくストップ安となった銘柄→プット

また以下の場合はその時の状況によってコールとプットの両方が考えられる。

判断が付かない場合はコールとプットを同時に買い様子を見るのもひとつの方法である。

- ・ 株価上昇と出来高増が同時
売り物薄で大幅上昇→コール
買い意欲の減退→プット
- ・ 株価下落と出来高増が同時
売り物が尽きて反騰→コール
買い物が尽きて続落→プット
- ・ 株価下落と出来高減少

E-BOOKのダイジェスト

相場の注目を失って続落→プット

下げ材料による売り出尽くし→コール

②現物株のテクニカル指標を参考にする。

・ローソク足の長いヒゲ

ローソク足の長い上ヒゲは反落転換を意味するので昼間の株式市場でローソク足の長い上ヒゲを確認したら、夜間取引でその銘柄のプットを買う。

逆に長い下ヒゲは反発転換を意味するので夜間取引でその銘柄のコールを買う。

・移動平均線

短期（5日、25日など）

長期（13週、26週など）

短長期の2本の移動平均線で以下のように判断する。

①株価が長期線を大きく上回った状態から下落→コール

②株価が長期線を大きく下回った状態から上昇→プット

この章ではいくらか具体的な説明があったが特に独自の手法はない。

また具体的な売買手法というより大まかな相場予測の域に留まっている。

最後に「実践、ワラントで儲ける銘柄選択」としてもう一度銘柄選択の方法が紹介される。

E-BOOKのダイジェスト

- ・満期日の設定は1ヶ月～6ヶ月先にする。
- ・価格が急騰するeワラントではトレンドフォロワーの手法は難しいので株式市場で予め割安な銘柄を見つけておく。

割安な銘柄のスクリーニングは以下の手順で行う。

①まず会社四季報のCD-ROMから以下の条件で検索する。

- ・自己資本比率が30%以上
- ・3期連続経常黒字
- ・利益剰余金がプラス

②検索した銘柄の中から前期が大きな赤字の銘柄を外す。

③素材関係など景気循環銘柄を外す。

④残った銘柄の中からPBRは1倍前後、PERは10倍前後～20倍前後の銘柄を探す。

- ・現在売られている銘柄をパッケージで買っておく。

eワラントの場合ピンポイントで割安銘柄を見つけるのは難しいので売られている銘柄をパッケージで買っておく。

その場合バラバラに買うのではなく業種やセクターを揃えておく。

ここまでが商材の内容である。内容について言えばまず銘柄選択など記述が重複している部分が多々ある。

前半で銘柄選択のポイント、しばらくして後半で銘柄選択の具体的な方法

E-BOOKのダイジェスト

と、構成的にもわかりにくいし、何度も同じ様な記述が出てくるのはページの無駄であろう。

また前の章と後の章で記述が異なっている部分もある。

第3章では「最低でも満期日までの期間が1ヶ月以上、できれば3～4ヶ月ある銘柄を選択する。」とあるのに第7章では「満期日の設定は1ヶ月～6ヶ月先にする。」とあるし、同様に第3章では「逆張りや押し目買いはeワラントでは通用しないので、値動きのよいものについていく。」とあるのに第7章では「価格が急騰するeワラントではトレンドフォローの手法は難しいので株式市場で予め割安な銘柄を見つけておく。」と逆張りの手法を推奨している。

このように内容が一貫していないのでは、購入者は迷うばかりである。

そして何度も書いたが大部分は一般書籍レベルの内容であり、価格に見合った内容ではない。

前作にあったオリジナルな部分がまるで消えてしまっている。

いたずらにページ数を増やしたただけの中身の薄い商材となってしまったようだ。

山本伸一の 日経 225 先物パターントレード

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 株式会社グロースアドバイザーズ |
| ■販売責任者 | 山本伸一 |
| ■所在地 | 東京都新宿区新宿 2-13-16 SENSHO ビル 4F |
| ■電話 | 03-6457-7033 |
| ■メール | info@growth-advisers.jp |
| ■ URL | http://www.kabutomato.jp/infotop/sakimono/ |

価格 9,900 円

… 目次 …

- 第 1 章 日経 225 先物取引とは…8
- 第 2 章 日経 225 先物取引の仕組み…25
- 第 3 章 日経 225 先物で有効なテクニカル分析とは…52
- 第 4 章 パターントレードⅠ～時間波動～…69
- 第 5 章 パターントレードⅡ～分析値～…77
- 第 6 章 パターントレードⅢ～ペンタゴンチャート～…89
- 第 7 章 日経 225 先物に挑む心構え…98

●全 115 ページ。デザインはすっきりしていて読みやすい。

E-BOOKのダイジェスト

元証券会社の社員、元ファンドマネージャーなど投資商材の著者の肩書きはいろいろと宣伝材料に使われることが多い。

本商材の著者も日興証券、永和証券、木村証券で証券ディーラーとして第一線で活動し続けてきたということだ。

セールスレターには「信じられない利益を生み出すその投資法から「神の手」と呼ばれた」とある。

いささか大げさすぎる気もするが、その「神の手」の内容をこれから検証していこう。

商材は全115Pからなる。第1章では先物取引の基本的な概念、日経225の説明、取引方法、税金など基礎知識が説明される。

続いて第2章では限月や具体的な注文方法、オススの証券会社などさらに詳しい説明がある。

初心者でもわかりやすいように丁寧に説明されているがここまでは書籍レベルで特に記すことは無い。

第3章から日経225先物に特化したテクニカル分析の内容に入る。

著者の考えでは日経225先物においてはファンダメンタルズ分析は大きな流れを意識する程度で十分で、テクニカル分析を重視すべきだという。

この章ではこれ以上の内容はなく、あとは一般的なテクニカル指標の説明にとどまっている。

E-BOOKのダイジェスト

ここまでですでに 70P を費やしている。内容的には一般レベルの話であり少々、前置きが長い感もある。

第 4 章からやっと本編であるパターントレードの説明となる。

パターントレード I ～時間波動

外資系機関投資家、ヘッジファンドなどの注文が多く市場に出され、株価に影響を与える時間がある。

これは数分のズレはあるが毎日同じように繰り返される。

この特定の時間帯に現れるパターンを利用して利益を挙げようというのが時間波動の考え方である。

注目する時間帯

- ① 09:36 ② 09:52 ③ 10:08 ④ 10:24 ⑤ 10:40 ⑥ 10:56
- ⑦ 12:48 ⑧ 13:04 ⑨ 13:20 ⑩ 13:36 ⑪ 13:52 ⑫ 14:08
- ⑬ 14:24 ⑭ 14:40 ⑮ 14:56

この 15 個の時間には日経 225 先物の値動きは高値、安値をつけに行く傾向にあるという。

この法則を具体的にはどのように利用して利益をあげるかはいろいろな方法がある。

一例としては寄り付きから価格が上昇傾向にあるとしよう。

①の時間波動のパターンから「9:36」頃には一旦高値をつけに行くと予想されるので、寄り付き後すぐ買って「9:36」頃に決済する。

E-BOOKのダイジェスト

このように時間波動前後の値動きを見て15個の時間帯に高値をつけにくい
か安値をつけにくいかを判断して仕掛けるのが基本である。

注意点として後場寄り付きは動きが読めないなので仕掛けない。

パターントレードⅡ～分析値

「半値掛け2割引き」（株価は高値の32%で下げ止まる）の格言のように
相場には分析不可能な特定の数値が存在する。

フィボナッチもそのひとつだが、それだけでは日経225先物では機能し
ないので独自の数値を加えたのが分析値である。

いくつかあるフィボナッチの数値のうち拡大期の指標である「0.618」を
使い、株価上昇を「 $1 + 0.618$ 」として算出する。

しかしこのままでは機能しないので「0.75」とという数値を間に挟んで2
回ごとにこの数値を引いてみるときれいなパターンが出来上がった。

つまり「 $1 \times 1.618 \times 1.618 \times 0.75 \dots$ 」となる。これを日経平均の算出
が始まった1949年5月19日の始値を当てはめて算出するとバブル時の最
高値とピタリと一致するという。

実際の分析値は以下となる。

① 1206 円 ② 1952 円 ③ 1464 円 ④ 2369 円 ⑤ 3832 円 ⑥ 2874 円

E-BOOKのダイジェスト

⑦ 4651 円 ⑧ 7525 円 ⑨ 5643 円 ⑩ 9131 円 ⑪ 14774 円 ⑫ 11081 円 ⑬ 17928 円 ⑭ 29008 円 ⑮ 21756 円 ⑯ 35201 円

実際には①以下に3桁の分析値も存在するのだが、現在の日経平均から考えて実際に使う可能性があるのはこれくらいだろう。

この分析値をどのように活用するのだが、基本的には以下を基準に相場動向を判断する。

- ・分析値を1本の太陽線で抜いたときその後は強気相場になる。
- ・分析値を1本の大陰線で抜いたとき、その後は弱気相場になる。

この方法は中長期での全体のトレンドを見るには適しているだろう。数日程度の短い期間ではあまりこの条件を満たす機会はないのではないだろうか。

その点から言えば日経225先物よりも個別株向きかもしれない。

パターントレードⅢ～ペンタゴンチャート

ペンタゴンチャートとは底辺と対辺がフィボナッチ(0.618)数列の関係にある五角形(ペンタゴン)とチャートを組み合わせて、相場のトレンドや変化点などを分析する手法である。

一般的な使い方としては五角形の底辺の両端の一方などに底値や転換点を

E-BOOK のダイジェスト

重ねる事で、相場の動向や転換点を探る。

見方としては株価が五角形の対角線に添って動くことをトレンドと判断し、対辺を戻りのメドとして株価がそこから反転すると判断する。

複数の五角形を用いて中期長期のトレンドを分析する場合もある。

ペンタゴンチャートを引くポイントは以下になる。

1. 株価は各点に引き寄せられたり、各辺に沿って動く。
2. 各点の位置が時間の変化日にあたる。
3. 各点に引き寄せられたが、その点に到達しない場合には反転しやすい。
4. 中心点（K点）の上方を株価が通過すると次のペンタゴンは上か真横、下方を通過すると真横か下に描き足される可能性が高い。
5. 「時間の逆行」が生じてはならない。

文章だけでは解りづらいのだが、商材で説明されている内容は実は上に書いた基本的なペンタゴンチャートの使い方そのままである。

特別な手法はなにもない。ペンタゴンチャートの使い方はややこしい面も

E-BOOKのダイジェスト

あるのでこの商材の説明だけでは理解するのは難しいだろう。

ペンタゴンチャートを使いたいならば書籍を読むことをオススメする。

逆に言えばこの章の内容は書籍を読めば十分だとも言えるだろう。

またはペンタゴンチャートが自動で引けるチャートソフトもあるのでそちらを利用するのもいいだろう。

ここまでがパターントレードの説明である。

以下の章では「日経 225 先物取引に挑む心構え」として「コツコツ小さく利益を狙え」「マスコミの情報に左右されるな」など一般的なメンタル面での記述があるのみである。

さてパターントレードと名づけられた売買手法についてだが、基本的な使い方そのままのペンタゴンチャートは別として時間波動や分析値はもし有効に機能するならば面白いと思う。

ただし分析値は数字のこじつけの感もある。数字をあれこれいじくり回せばどこかにうまくはまる箇所があるからだ。

それを取り上げて誇張すればさもそこに必勝の法則があるように見えてしまう。

有効かどうかは実際に検証してみるしかないのだが、中長期の予測だけに非常に時間がかかるだろう。

E-BOOK のダイジェスト

またこの分析値を実際のトレードにどう利用するのかという具体的な売買手法を示されていないのも不満な点である。

しかし時間波動については相場のメインプレーヤーである外国人機関投資家やヘッジファンドの動きから一定のパターンを見出し、それを利用して利益を挙げることができればかなり有効な手法であろう。

これは職業トレーダーでなければなかなか気づかない点であるとも言える。

もっともこのような手法は理論的裏づけがないので、あくまで実際にトレードしてみなければその有効かどうかはわからないのだが。

商材に記載されているある 1 日のみの値動きではそれは証明されない。

また分析値の場合と同様に時間波動をどう利用するのかという具体的な売買手法がここでも示されていない。

確かにこの時間波動のパターンが有効ならどのような方法でトレードしようがある程度の利益は挙げられるだろう。

しかしそこには個人差が出てきてしまうのも確かである。

その意味では消化不良の内容ではあるが着眼点は面白いと思うし、うまく利用すれば優秀な売買手法を構築できる可能性もある。

E-BOOK のダイジェスト

しかしパターンの有効性が証明されたわけではないので、興味のある方は十分に自分で検証してから実行したほうがよいだろう。

日本初のワラントシステム「e笑人くん」セット

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 株式会社ネクストビジョン |
| ■販売責任者 | 大嶺義人 |
| ■所在地 | 沖縄県浦添市港川2-22-4当銘ビル201 |
| ■電話 | 098-878-7797 |
| ■メール | info@w-investor.com |
| ■URL | http://w-investor.com/ |

価格 35,800 円

… 目次 …

| | |
|-----|----------------------------|
| 第1章 | eワラントの基礎知識・・・13 |
| 第2章 | eワラント取引の基本・・・43 |
| 第3章 | eワラント常勝の極意—①鉄板銘柄の選び方・・・66 |
| 第4章 | eワラント常勝の極意—②売買タイミング・・・99 |
| 第5章 | eワラント常勝の極意—③資金・リスク管理・・・110 |
| 第6章 | 投資の基本原則・・・125 |

●全137ページ。画像が小さく見にくい。

E-BOOKのダイジェスト

最近情報商材でもeワラントを扱ったものが増えてきている。
しかし一般書籍を焼き直したような商材が多いのも事実である。

「暴落相場でも勝率70%を安定的にたたき出す…」とセールスレターで謳っているこの商材だが果たしてどうだろうか。

順を追って内容を説明しよう。商材は全123P。まずは「基礎編」としてeワラントの基礎知識の説明がある。

eワラントの性質、特徴、価格決定の仕組みなどいわゆる初心者向けの内容だ。

その中でeワラントのメリット・デメリットを述べている部分があるので、抜粋してみよう。

メリット

- ①株式の空売りより空売りに連動したプットの方が簡単。
株式の信用取引での空売りに比べて、証拠金もいらず、逆日歩の心配もな
いため空売りで利益を狙えるという。
- ②豊富な取り扱い銘柄
- ③9:00～23:50という長い時間取引できる。
- ④小額からの投資が可能。
- ⑤レバレッジを使えるので投資効率がよい。

デメリット

E-BOOKのダイジェスト

- ①時間的価値の損失で時間が経つほど価格が下落する
- ②買値の売値の差スプレッドで利益を食われる。
- ③アウト・オブ・ザ・マネーのまま満期日を迎えるとeワラントの価値は無くなる。

次に「リスクを回避するための達人の知恵」として以下の点が挙げられている。

- ① 短期売買を心がけ満期日の近い銘柄は避ける。
満期日が1ヶ月以内の銘柄は時間的価値の損失度合いが大きいので避ける。
- ② スプレッド以上安く指値で購入できればベスト
スプレッドが5%なら現在価格から5%安い価格に指値注文しておく。
期限は忘れてしまわないように当日か翌日までにしておく。
- ③ 実効ギアリングとスプレッドを駆使する。
基本的に実効ギアリングは3～10倍、スプレッドはできるだけ小さいほうがよい。
ただし「スプレッド」÷「実効ギアリング」
の式で投資効率を判断して決める。
数字が大きいほど投資効率がよく、「1」以下なら購入しないほうがよい。
ここまでが第1章の内容である。続いて「eワラント取引の基本」とする第2章に入る。

まず「証券会社の選択と口座開設」として各証券会社とその口座の特徴の説明がある。

商材ではSBI証券とクリック証券が推奨されている。

E-BOOKのダイジェスト

続いて口座への入金方法、PC画面での「注文・決済方法となる。

ここまでの第2章の内容である。ページ数は半分以上の65Pを費やしているが一般的な入門書に書いてあるような内容である。

さて次からは「極意編」として具体的な売買の内容に入る。

① 銘柄選択の仕方

価格は一直線に動くのではなく上下しながらスパイラル（螺旋）上に動くので、その動きをしている銘柄を選択する。

② 日経平均の流れにのる。

日経平均の動きを無視しては、全体の流れがわからなくなるので、「日経平均のスパイラルを把握した上で、その方向に沿った銘柄で勝負する」

③ NYダウは日経平均の影響度が大きいので、その動きを確認した上でeワラントの取引をする。

④ 日経平均に影響を与える米ドル相場もチェックする。

特に国際優良銘柄の場合は影響度大なので注意する。

スパイラルを見抜く方法

銘柄選択に必須のスパイラルを見抜く方法とは以下である。

I 25日移動平均線を使う。

① 25日移動平均線が上昇している時は「上昇スパイラル」である、この時はコールを中心に購入する。

E-BOOKのダイジェスト

② 25日移動平均線が横ばいの時期はレンジ相場であり、基本的には投資を控える。

③ 25日移動平均線が下落している時は「下落スパイラル」であり、プットを中心に購入する。

この説明を読んだ限りでは「スパイラル」と大げさに言っているが、ただの移動平均線を使ったトレンド分析である。

購入タイミング

① 5日移動平均線と25日移動平均線のゴールデンクロス、デッドクロスで購入する。

商材での説明はないがゴールデンクロスではコール、デッドクロスではプットを購入すると判断してよいだろう。

② 押し目買い/戻り売りを狙って、上昇スパイラル時に25日移動平均線付近まで価格が下がったところでコール、下落スパイラル時に25日移動平均線付近まで価格が上がった時にプットを購入する。

③ MACDが0以下でゴールデンクロスすればコール、0以上でデッドクロスすればプットを購入する。

これらの判断も一般的なテクニカル指標の見方に沿ったものである。特にオリジナルな部分はない。

逆張り「3-1ルール」

逆張りを行う場合は「3-1ルール」と呼ばれる以下の手法で行う。

逆張りではこの「3-1ルール」の他に暴騰、暴落後のリバウンドを狙ってもよい。

E-BOOKのダイジェスト

では「3-1ルール」の説明に入ろう。この手法は3日以上の大陽線、大陰線の翌日のリバウンドを狙う。

またそれを補足するためにRSI、スローストキャスティクス、移動平均乖離率を以下を目安にして補足的に使う。

- ・ RSIが30%以下なら割安、70%以上なら割高
- ・ スローストキャスティクスが25%以下でゴールデンクロスしたらコール買い、75%以上でデッドクロスしたらプット買い
- ・ 25日移動平均乖離率が+15%なら反落の可能性、-15%以下なら反発の可能性。

テクニカル指標の使い方も一般的であり、3日以上続いた大陽線、大陰線の後具体的にどのように売買するのかこれではわからない。

テクニカル分析の入門書をそのまま写したような内容である。

その後、銘柄のスクリーニング方法、値上がりランキングのチェック方法などが続く。

これも一般的な入門書にあるような内容だ。

ここまでで第3章は終わりである。ページ数は100P近くになるが、今だ具体的な売買手法は出てこない。

では最後の第5章の説明に入ろう。

売買タイミング

E-BOOKのダイジェスト

15:00以降株式市場が終了した後の終値ベースでチャート分析し、翌日以降動きそうな銘柄を見つける。

そして夕方から夜にかけてeワラントを購入する。

売却タイミング

銘柄を購入すると同時に5～10%程度利益を載せた指値注文をする。

保有期間

eワラントは値動きが激しいので利食い損きりは早めを心がけ、基本的に保有期間は3日程度とする。

中長期保有する場合は「満期日までの期間が長く、権利行使価格が低いディープ・イン・ザ・マネーの銘柄を狙う。

ディープ・イン・ザ・マネーとは原資の現在価格が権利行使条件を満たし、なおかつ権利行使価格から十分離れていることで、満期日まで保有しても価値がなくなる可能性が低い状態のことだ。

中長期保有には為替ワラントなどが向いている。

特にプレミアムが非常に低いかマイナスなら満期日に近づくとつれて価格が上昇するので

狙い目である。

さて第4章もここで終わりである。続く第5章では資金・リスク管理の説明となる。

ここでも書かれているのは銘柄を分散させる、口座の全資金を投資しない

E-BOOKのダイジェスト

など一般的な内容であり具体的な説明もない。

唯一以下の2つが具体的であるが、これもeワラントの入門書などではよく見る内容である。

- ・ 満期日が1ヶ月を切っている銘柄はリスクが高いため投資しない。
- ・ 価格が1.00未満の銘柄は実効ギアリングが高くリスクが大きいため投資しない。
- ・ 決算発表後、SQ日前後は価格が大きく動くことが多いので注意する。

ここまでで第5章は終わりである。最後の第6章も相場格言などであり、何度も書くようだが一般的な内容である。

これで本商材の内容はすべてである。eワラントの入門書をそのまま写したような内容で、特別な情報、売買手法はなにもないといっていだらう。

また株式の表現をそのまま引用したような部分も多く、「ゴールドクロスしたら買い、デッドクロスしたら売り」などのようわかりにくい表現も多々ある。

この表現では「売り」というのは「プットを購入するのか」「決済するのか」わからない。

実践できる具体的な売買手法は何一つ書かれていない。

価格的には1500円も出せば十分だろう。とても高額な代金を取る商材内容ではない。

E-BOOKのダイジェスト

そしてなによりも啞然とするのがセールスレターと商材内容の乖離である。

セールスレターに大きくこう書いてある。

「…“日本初“の独自ワラントシステムを300名限定で公開しますが、興味ありませんか？」

「最強の独自ワラントシステム「e笑人」とは？」

そしてセールスレターには長々とこの「e笑人」なるシステムの特徴を連ねている。

このセールスレターを見れば誰もが商材はこの「e笑人」というシステムだと思うだろう。

そして商品名も「日本初のワラントシステム「e笑人くん」セット」なのである。

しかし実際はここまで説明したようにeワラントの入門書レベルのマニュアルである。

たしかに申し訳程度にこうセールスレターにはある。

「え、日本初のシステムがおまけってどういうこと」

「でも、実はこのシステムを超える「あるモノ」が存在するのです。それは、システムより優れた能力を持つ男の頭脳です」

このマニュアルのことであろう。しかし実態は皆さんもご存知のとおりである。

E-BOOKのダイジェスト

たしかに特典として商材購入者は「e笑人」というシステムを1ヶ月無料で使える。

この商材がそのシステムへ誘導する目的で書かれていてもセールステクニクとしてはアリだろう。

ただし、そのことをセールスレターに明記すべきだ。

これは明らかな虚偽広告である。いかにも商材内容を誤解させるようなセールスレターの表現、そしてeワラントの入門書レベルの内容を高額で売りつける姿勢。

こうした販売者からは如何にその「e笑人」なるシステムが優秀でも決して購入しようとは筆者は思わない。

情報商材業界も随分クリーンになったと最近は感じていたが、まだまだこのような購入者をだます販売手法が横行しているのは非常に残念である。

インスタント FX システム

発行元情報

| | |
|--------|--------------------------|
| ■発行元 | 株式会社S Yコンサルティング |
| ■販売責任者 | 山本伸介 |
| ■所在地 | 岐阜県美濃加茂市太田町4 4 1 - 2 3 |
| ■電話 | 090-8421-6117 |
| ■メール | info@kantanfx.com |
| ■ URL | http://kantanfx.com/001/ |

価格 29,800 円

… 目次 …

| | |
|-----------------|----|
| 手法のおさらい | 4 |
| 過去検証データのまとめ | 9 |
| 分析結果から考えられる投資手法 | 23 |
| 応用編 | 25 |
| 外為オンラインでの注文方法 | 33 |

付属：過去売買成績エクセルファイル、無料版

●全 41 ページ。ページの空白が多い。

E-BOOK のダイジェスト

「1日5分の作業で年利100%」がこの商材「インスタントFX」のキャッチコピーである。

資金を1年間で何十倍にもするというような投資商材が溢れている中、「年利100%」はそれほど目立つ数字ではないが、常識的に考えれば十分な成績である。

商材は毎月100名限定で無料配布される「無料版」そして具体的な数値が記載されている有料の「ドル円版」、売買成績を載せたエクセルファイルからなる。

結論から言えば売買ロジックのほとんどの部分は「無料版」で説明されている。

有料の「ドル円版」ではより利益が出るリミット・ストップ値が掲載されているが、自分で最適値を検証から見つけ出せるスキルがあるならば無料版の内容だけでも十分だろう。

売買ロジックはシンプルなものなのでそれほど煩雑な作業にはならないはずだ。

ではまず無料版の内容から検証しよう。

E-BOOK のダイジェスト

無料版は全 65P からなる。まず始めにスプレッドや取引手数料の意味、そしてそれがコストとして損益にどれだけ影響があるかの説明がある。

一般的な知識ではあるが、これは本商材の売買ロジックの根拠とも重なってくる部分である。

売買ロジックの根拠

数年前と比べて現在は手数料無料、スプレッド 0 ~ 1pips の取引会社も増えてきた。

こうした状況であれば勝率 55%程度、利益目標 10pips 程度の単純な売買ロジックでも、長期的には十分利益を上げることが可能である。

これが本商材の売買ロジックの根拠である。

システムの構築や検証をする場合、つい取引手数料やスプレッドといったコストは無視してしまいがちだが、長期的にはパフォーマンスに大きく影響を当てることは周知の事実だ。

またそこに注目し、低コストを前提として売買ロジックを考えてみるというのは面白い視点だろう。

E-BOOK のダイジェスト

売買ロジック

著者は 2007 年のドル円日足データから当日の価格が前日の安値を下回った場合、87.6%の確率で 10pips 以上下落する、また前日の高値を上回った場合 83.0%の確率で 10pips 以上上昇することを確認したという。

その後商材中ではその理由がいろいろ推測されているが、10pips 程度なら様々な理由で動くことは確かだ。

ただし商材中の統計データでは 2007 年度の 100 回程度であるので、サンプル数が少なすぎて統計的には余り信頼が置けるものでないことは付け加えておく。

エントリー手順

- ①前日のドル円の安値・高値を確認。
- ②前日の安値に売り、高値に買いの逆指値注文を入れる。
- ③同時にリミット・ストップを 10pips に設定して IFO 注文を入れる。

基本的にはエントリー手順はこれだけだ。またスプレッド分を考慮してスプレッドが 1pips なら安値マイナス 1pips に売り、高値プラス 1pips に買いの逆指値をいれてもよい。

E-BOOK のダイジェスト

取引対象通貨

ドル円

本商材ではドル円のみを対象としている。他に有料で「ユーロ円版」もある。

取引会社

この手法では低コストを前提にしているので実行する取引会社は以下の条件を満たす必要がある。

- ①取引手数料無料
 - ② IFO 注文が可能
 - ③ドル円のスプレッドが 0 ~ 1pips
 - ④資金 10 万円以下で運用する場合は 1000 通貨単位で取引できること。
- 以上の 4 項目を満たせばどの取引業者でもかまわない。

商材中では以下の取引会社が推奨されている。

外為オンライン <http://www.gaitameonline.com/rpage2/accountAc.html>

みんなの FX http://min-fx.jp/LP/index_mfr02.html

クリック証券 <https://www.click-sec.com>

MJ オンライン <http://www.mj-net.jp/m/index20.html>

これらの取引会社は①②③の条件をみな満たしている。

ただし①から④まですべて満たしている取引会社は筆者の知る範囲ではない。

E-BOOKのダイジェスト

資金管理・リスク管理

この説明は具体的なものではなく「1回当たりの利益目標」「1ヶ月あたりの利益目標」「1年あたりの利益目標」を決める、過去の統計から4連敗程度はありうるので4連敗しても大丈夫な資金管理をするという記載しかない。

これでは抽象的すぎて、あまり役にたたない。

「無料版」ということで仕方ない部分もあるが、売買ロジックの説明に比べてあまりにあっさりしすぎている。

セールスレターで「初心者でもできます」と言っているのならもう少し具体的に説明すべきだ。

さてここまでが無料版の内容である。この無料版で売買ロジックのほとんどの部分は説明されているとあっていいだろう。

説明の足りない部分はあったがこの内容を無料で公開した著者の姿勢は評価したい。

では有料の「ドル円版」にはどんな内容が書いてあるのか。

それをこれから説明しよう。

ドル円版は全41Pからなる。

E-BOOKのダイジェスト

順に見ていくとまずは無料版の売買ロジックのまとめがある。

そして次からはストップ・リミット幅を変更しての2007年1月から2008年9月までの21ヶ月間の検証データがある。

無料版ではストップ・リミットを10pipsとしたが、その設定よりもさらにパフォーマンスが上がる組み合わせを見つけようというわけだ。

以下が検証した結果最高のパフォーマンスとなったリミット・ストップの組み合わせである。

売り

リミット 35pips ストップ 45pips 獲得 1940pips

リミット 40pips ストップ 50pips 獲得 2030pips

無料版の設定では獲得 400pips

買い

リミット 10pips ストップ 45pips 獲得 350pips

無料版の設定では獲得 110pips

検証結果を見ると「売り」の勝率が高く、パフォーマンスもよい。またほとんどの月で50pips以内の負けに収まっている。

E-BOOKのダイジェスト

最大ドローダウンも売りで350pips、買いで120pipsに収まっているので安定したパフォーマンスといえよう。

ただし検証期間が短いのと取引回数が記載されていないのでこの検証結果をそのまま鵜呑みにはできない。

この手法は単純なブレイクアウトだがブレイクアウトに一定の有効性があるのは歴史が証明している。

そこに検証から導き出した適切なリミット・ストップを設定すれば利益が上がることも推測はできる。

しかしそれには検証が十分でなければならない。本商材に記載されている検証結果だけ不十分である。

この検証結果だけで実行しろと言われても筆者ならば躊躇してしまうだろう。

さて商材の内容に戻ろう。

このリミット・ストップを無料版の値に置き換えて実行してもよいのだがよりパフォーマンスを上げるための運用方法が3つ紹介されている。

E-BOOKのダイジェスト

①高レバレッジで福利運用

パフォーマンスのよい売りのリミット 35pips、ストップ 45pips をレバレッジ 10 倍から 20 倍で複利運用する。

ただしこの場合は全額複利運用するのではなく、資金が 2 倍になったら半額を引き出し、残りの資金を複利運用する。

残りの資金が 2 倍になったらまた半額を引き引き出すというように運用を続けていく。

②リスク分散のための分割投資

パフォーマンスだけを考えれば「売り」だけを行ったほうがよいが、リスク分散のためにリミット 10pips ストップ 40pips の「買い」も同時に行う。しかしこれはあまりリスク分散にはなっていない。

リスク分散を考えるのなら通貨やエントリータイミングを分散させたほうが有効である。

③できる限りリスクを抑える

検証結果でドローダウンが一番小さい「売り」のリミット 10pips ストップ 10pips のみを行う。

売買ロジックの説明はここまでである。あとは外為オンラインでの注文法

E-BOOKのダイジェスト

方などで特に記す内容ではない。

さて、単純なブレイクアウトながらコストの安い取引会社を利用し、リミット・ストップを最適化して利益を狙うという手法、有効性はある。

ただし前述したようにその根拠となる検証結果が不十分である。

特にこの手法はデイトレードで比較的小さい利益をねらうので、どれくらいの取引機会があるのかは重要である。

そこが明かにされていないため全面的にこの検証結果を信じるわけにはいかないのである。

付属のエクセルファイルにはリミット・ストップごとに月別勝敗表が掲載されている。

はっきりと取引回数とは書いていないが、勝敗数をみてみるとどうやら一月の取引回数は売り買い合わせても10回程度だ。

デイトレードにしてはこれは少なすぎるだろう。この取引回数ではメインの手法としては使えないのではないだろうか。

繰り返すが売買ロジックのほとんどを無料で公開した著者の姿勢は評価できるし、売買ロジックそのものがダメというわけではない。

E-BOOK のダイジェスト

ただはっきりした検証結果を記載して欲しいということなのだ。

特に最適なりミット・ストップ値などは統計的な方法からしか導くことはできないので、そのデータを記載するのは最低限の義務である。

今後3ヶ月ごとにデータを入れ替えるということなので、今後はきちんとした検証結果を著者には望みたい。

島左近のシンプルリラックスFX

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 平澤菜穂美 |
| ■販売責任者 | 平澤菜穂美 |
| ■所在地 | 埼玉県坂戸市芦山町 3-2 メゾンドプレジール 205 |
| ■電話 | 080-1218-3884 |
| ■メール | shimasakonfx@yahoo.co.jp |
| ■URL | http://shimasakonfx.com |

価格 販売中止のため不明

… 目次 …

- 第1章 シンプルな考え方について…6
- 第2章 手法解説…7
- 第3章 資金管理…43
- 第4章 メンタルについて…45
- 第5章 実践編…47

付属：収支明細表、ケーススタディ

●全 52 ページ。画像は大きく見やすい。

E-BOOK のダイジェスト

関ヶ原の合戦でも有名な戦国武将「島左近」の名前を冠したこの商材「島左近のシンプルリラックス FX」、本物の島左近はかなりの戦略家だったという話だがこの島左近はどうだろうか。

商材の検証に入ろう。

商材は全 52 ページの本編、実践例を載せたケーススタディ、ユーロ円、ポンド円、ユーロドルの 3 通貨の 2007 年～ 2008 年までの収支明細表からなる。

初心者用の基礎知識などのページはなく売買手法のみが説明されている。

使用するテクニカル指標

ローソク足（日足）

対象通貨ペア

特に指定はないがユーロ円、ポンド円、ユーロドルが推奨されている。

エントリー

- ①まず前日の高値・安値を見る。
- ②そして当日の価格が高値プラス 30pips を超えたら買い、安値マイナス

E-BOOK のダイジェスト

30pips を割ったら売りでエントリーする。

基本的なエントリールールはこれだけである。当日に各エントリーポイントに逆指値をするだけでよい。

プラスマイナスする幅は各通貨ペアごとに違い以下のようになる。

ドル円・・・20pips

ポンド円・・・40pips

その他・・・30pips

③買いの場合は前日の安値マイナス 30pips, 売りの場合は前日の高値プラス 30pips にストップを置く。

ストップの移動

この手法ではストップに掛からない限りはポジションを保有する。

またストップに掛からずにポジションを次の日に持ち越した場合、以下のようにストップを移動させる。

①例えば始めにポンド円を 168.85 円で買い、167.17 円に売りで逆指値を入れたとする。

②翌日逆指値に価格が届かずエントリーしなかった場合、前日の高値プラス 30pips、安値マイナス 30pips に逆指値を修正して再び価格がエントリーポイントに達するのを待つ。

E-BOOK のダイジェスト

このようにしてエントリーとなるまで毎日前日の高値・安値に従ってエントリーポイントの逆指値を修正していく。

③仮にポンド円 166.70 円で売りのポジションを持ったとする。
その場合ストップを前日の高値プラス 30pips の置き、翌日まで待つ。

④翌日ポンド円の売りポジションがストップにかかっていなければ、ストップを前日の高値プラス 30pips に修正する。

このようにしてストップを前日の高値・安値を元に毎日修正しながらストップにかかるまでポジションを保有し続ける。

これはトレンドに乗っている限りは利益を確保しながらストップを移動できるので、日足ベースのトレイリングストップとっていいだろう。

決済と次のエントリー

①ストップにかかった場合はドデンして反対のポジションを持つ。

例えば売りポジションでストップにかかったら同時に買いポジション、買いポジションでストップにかかったら売りポジションを持つ。

売りポジションのストップはドデンした買いポジションのエントリーポイ

E-BOOKのダイジェスト

ント、買いポジションのストップはドデンした売りポジションのエントリーポイントとなる。

ポジションの追加

ここまでが基本ルールだが、利益を大きくあげるため以下のルールに従ってさらにポジションを追加する。

使用するテクニカル指標

単純移動平均線（4日、8日）

エントリー

以下の条件を満たせば翌日の始値で最初のポジションと同量でポジションを追加する。

- ・4日線と8日線がゴールデンクロスした場合買いポジション追加
- ・4日線と8日線がデッドクロスした場合売りポジション追加。

後は基本ルールと同じく、毎日高値・安値を元にストップを修正し、ストップにかかるまでポジションを保有する。

移動平均線のクロスはトレンドを表すもので、このポジションの追加はト

E-BOOKのダイジェスト

トレンドに乗った場合のピラミッティングと基本的には同じである。

トレンドに乗った場合は大きな利益となるが、だましのクロスが多く発生した場合損失が大きくなる弱点もある。

レンジ相場

このようなトレンドに乗って大きな利益を狙う手法の場合、レンジ相場においてはドデンを繰り返し、挙句ストップにかかり損失を出す可能性が大きい。

この商材ではレンジ相場においてもトレンド相場を待ちルールどおりにドデンをずるとしているのではなおさらその可能性が高いだろう。

確かにトレンドに乗った時の利益がレンジ相場での損失を上回ればそれも可能だが、レンジ相場が続いた場合一時的には大きな損失を出すことになるだろう。

このようなトレンドフォローの手法ではレンジ相場でいかに利益を出すか、利益を出せないまでもできるだけ損失を少なくするのが重要なのだが、商材には「レンジ相場でも売買ルールに従った淡々と取引する」とあるだけで具体的な対策はない。

はらみ足

E-BOOK のダイジェスト

ここでいうはらみ足とは通常の「1本前の高値または安値を越えているローソク足」のことではなく、「1本前のローソク足の高値プラス 30pips または安値マイナス 30pips を越えているローソク足」のことを意味する。

このはらみ足が出現した場合、逆指値ではなく、高値を超えている場合は買い、安値を超えている場合は売りで即エントリーする。

つつみ足

1本前のローソク足の高値も安値も超えず、包まれているようなローソク足のことをつつみ足という。

このつつみ足が出現した場合、逆指値はつつみ足のローソク足でなく、その1本前のローソク足の高値・安値から算出する。

ストップも同様に1本前のローソク足から算出する。

資金管理

1回の取引に投じる資金は全資金の50分の1程度にする。

例えば全資金が100万円なら1回の取引でエントリーするには2万通貨となる。

ポジションを追加する場合も同量の2万通貨を追加する。

E-BOOKのダイジェスト

この手法はレンジ相場に対する対策が無いこと、ポジションを積みますことから、一時的には連敗や大きなドローダウンが考えられる。

資金には余裕がないと厳しいだろう。これくらいの余裕を持って運用しないとたちまち破産する恐れがある。

少ない資金を高レバレッジで運用しようという人には不向きな手法である。

ここまでが売買手法の説明である。残りのページは実践例、メンタル面などで特に記すべき内容はない。

さてこの手法、シンプルだがトレンドにうまく乗れば大きな利益が出せるだろう。

また1日1回チャートをチェックすればよいので日中に仕事がある人でも簡単に実行できるのも利点だ。

しかしレンジ相場に対する対策がないため、レンジ相場が続いた時には連敗し、大きな損失がでるだろう。

また移動平均線のダマシが頻発し、ポジションを積み増した後、価格が逆行すればそれもまた大きな損失になる。

E-BOOKのダイジェスト

この手法の場合レンジ相場での損失をいかに小さくしてトレンドに乗ったときにいかに大きな利益をとるかが勝負の分かれ目になる。

ポジションの積み増しやストップの変更によるトレンド相場で大きな利益を取る部分は有効だが、レンジ相場での損失をいかに小さくするかの部分は無策であった。

これでは結局いかにドローダウンに耐え、トレンド相場を待てるかの勝負になってしまうだろう。

万人向けではないし、初心者にも危険なのではないだろうか。

セールスレターには「精神的にも非常に楽です。」とあったがドローダウンに耐えながらチャンスを待つのは非常に精神的にはつらいはずだ。

トレンド相場に対する手法自体は悪くない。ただレンジ相場への対応に不満が残る。

現在販売を停止しバージョンアップ中とのことなので、著者にはぜひこの部分のバージョンアップをお願いしたい。

逆転! 桶狭間トレード

発行元情報

| | |
|--------|-------------------------------|
| ■発行元 | 仲村 実章 |
| ■販売責任者 | 仲村 実章 |
| ■所在地 | 沖縄県読谷村喜名 2271 |
| ■電話 | 090-6633-7950 |
| ■メール | mail@systrading.biz |
| ■ URL | http://systrading.biz/infotop |

価格 39,800 円

… 目次 …

桶狭間トレード…4

最後に…20

付属：最適投資額管理ファイル

●全 20 ページ。グラフ画像などが不鮮明で見づらい。

E-BOOKのダイジェスト

最近の戦国武将ブームを反映してか情報商材にもそれらしい商材名が多くなったようだ。

この商材の題名も「逆転！桶狭間トレード」である。

セールスレターを見ると株式の空売りを主体としたシステムトレードのようである。

「20万を40億にした」とあるが果たして内容はどうであろうか、検証に入ろう。

商材は売買ロジックのみを記載した全20PのPDFファイルと最適投資額を決定するエクセルファイルからなる。

エクセルファイルは全資金額、そして1回の取引に何%投資するかなど数値を記入すれば、ドローダウンと利益最大化のポイントから最適投資額が算出される仕組みとなっている。

あれば便利ではあるが、なくても取引は可能だ。

では売買ロジックの説明に入ろう。エントリーはすべて売りのみである。

投資対象

貸借銘柄

E-BOOKのダイジェスト

商材では「賃借銘柄」と記載されているが、実際は空売りができる銘柄ということで信用銘柄と考えてよいだろう。

売りエントリー条件

- ① 終値の前日比が15%より大きくかつ株価が50円から1万円までの間でかつ終値が高値より小さい銘柄を抽出する。
- ② 該当する銘柄を翌日寄り付きで当日の終値より-5%の価格で指値注文する。
- ③ 株価が前日比15%に近いものから優先的に注文し、10銘柄に分散投資する。

決済条件

当日終値が前日終値より安く引けた場合、翌日の寄り付きで成り行き注文し、買い戻し決済する。

売買ロジックの概要

売りエントリー条件である前日より15%大きく上昇した銘柄の多くは何か好材料がありストップ高になった銘柄がほとんどである。

ストップ高になった銘柄は翌日、高く寄り付く場合が多い。

E-BOOKのダイジェスト

しかし「終値が高値より小さい」ということは売り圧力もあると考えていい。

そうした銘柄を逆張りの的に反動を狙って売るのがこの売買ロジックだ。

株価が50円から1万円の間としたのは検証から得られた結果である。

「翌日寄り付きで当日の終値より－5%の価格で指値注文」とするのはストップ安になり売買が成立しないことを防ぐためである。

例えば前日終値が10000円だった場合、翌日の寄り付きに9500円で指値注文することになる。

9500円より安く寄り付いた場合、注文は成立しない。

決済条件の「当日終値が前日終値より安く引けた場合」はストップ高になった銘柄は翌日の大きく上昇する可能性があり、その場合返済買いが成立しない可能性があるため、それを防ぐための条件である。

「10銘柄に分散投資する」とはもちろんリスクを減らすためであり、例えば資金が100万円の場合なら1銘柄に投資する金額は10万円となる。

「株価が前日比15%に近いものから優先的に注文」は15%の銘柄、18%の銘柄、20%の銘柄とあった場合、15%の銘柄、18%の銘柄、20%の銘柄の順により15%に近い銘柄から注文するということである。

E-BOOK のダイジェスト

以上が売買ロジックの内容である。売買ロジックの根拠や手法としては特に疑問はないが、銘柄を絞り売りのみでエントリーするため実際の取引機会がどれくらいあるかは気になるところだ。

商材では全銘柄で売りが可能として検証しているため、取引機会がない日はほとんどない。

しかし実際に投資対象となるのは信用銘柄であるし、この手法ではレバレッジはかけないというが 10 銘柄に分散投資するとなれば保証金もそれなりにかかる。

資金的な問題で投資できる銘柄が限られてくる場合もあるだろう。

そこで今回は株式システムの検証ソフト「パイロン」で検証してみることにした。

できるだけ商材と同じ条件にしたつもりだがソフトの仕様上以下の点は変更した。

- ・ 翌日寄り付きで当日の終値より - 5% の価格で指値注文 → 翌日寄り付きで成り行き注文
- ・ 株価が前日比 15% に近いものから優先的に注文 → 該当銘柄を全部注文
- ・ 終値が高値より小さい銘柄 → この条件での絞り込みなし

E-BOOK のダイジェスト

これが商材と同じく毎年開始資金 500 万円、全銘柄の条件で検証を行った結果である。

| | 勝率 | 取引回数 | 資金額 | 利率 |
|------|-------|--------|------------|--------|
| 2000 | 66.1% | 2272 回 | 4996810 円 | -1.1% |
| 2001 | 68.8% | 1701 回 | 5841861 円 | 16.8% |
| 2002 | 65.5% | 1592 回 | 5638090 円 | 12.7% |
| 2003 | 63.2% | 1754 回 | 3161394 円 | -32.7% |
| 2004 | 71.1% | 1280 回 | 1312830 円 | 162% |
| 2005 | 75% | 1184 回 | 4184313 円 | -16.4% |
| 2006 | 70.5% | 723 回 | 1494374 円 | -80.2% |
| 2007 | 74.3% | 742 回 | 15691445 円 | 213.8% |
| 2008 | 67.0% | 2900 回 | 5346831 円 | 6.9% |
| | | | | |

厳密に同じ売買ロジックではないので仕方がない部分もあるのだが、商材の検証結果とは随分違う結果となった。

* 商材に記載されている検証結果

E-BOOK のダイジェスト

| | 勝率 | 取引回数 | 資金額 | 利率 |
|------|--------|-------|-----------|-------|
| 2000 | 80.60% | 468 回 | 699154 円 | 39.6% |
| 2001 | 75.90% | 519 回 | 6592782 円 | 30.8% |
| 2002 | 80.60% | 617 回 | 7515748 円 | 50.3% |
| 2003 | 76.80% | 577 回 | 6355042 円 | 21.8% |
| 2004 | 77.90% | 317 回 | 5672032 円 | 12.7% |
| 2005 | 74.70% | 190 回 | 5294046 円 | 5.4% |
| 2006 | 65.20% | 138 回 | 5186616 円 | 3.0% |
| 2007 | 80.80% | 224 回 | 5732679 円 | 13.4% |
| 2008 | 71.40% | 350 回 | 5791577 円 | 15.8% |
| | | | | |

取引回数が大きく違うのは銘柄を絞っていないためだろう。

つぎに賃借銘柄での検証を行ってみた結果が以下である。

E-BOOK のダイジェスト

| | 勝率 | 取引回数 | 資金額 | 利率 |
|------|--------|--------|-----------|--------|
| 2000 | 67.8% | 958 回 | 4996810 円 | -1.1% |
| 2001 | 66.2% | 678 回 | 5290930 円 | 10.4% |
| 2002 | 65.1% | 563 回 | 5007558 円 | 1.77% |
| 2003 | 68% | 788 回 | 5050307 円 | 1.52% |
| 2004 | 70.6% | 433 回 | 7326725 円 | 46.5% |
| 2005 | 70.17% | 789 回 | 4447449 円 | -21.1% |
| 2006 | 65.6% | 195 回 | 5080561 円 | 1.6% |
| 2007 | 68.3% | 423 回 | 5268448 円 | 5.3% |
| 2008 | 67.2% | 1519 回 | 5346831 円 | 6.99% |
| | | | | |

パフォーマンスは安定したのだが随分取引回数が減ってしまった。

商材のように条件をつけて銘柄を絞り込めばさらに取引回数は減るだろう。

厳密に同じ売買ロジックで検証したわけではないので、断言はできないがこの検証結果からすると、一定の有効性はある売買ロジックではあるが、セールスレターに記載されている「20万円を40億に」するような爆発的なパフォーマンスは難しいといえよう。

E-BOOK のダイジェスト

また空売りの手法なのに検証対象に空売りができない銘柄を含めることもおかしい。

そのことは商材では触れているが、セールスレターでは一切明らかにされていない。

掲載されているグラフも商材中の全銘柄で検証をしたものと同じである。売買ロジック自体を否定するものではないが、必要以上にパフォーマンスをよく見せようとする作為をそこに感じてしまう。

「桶狭間」というからには武士らしく、堂々と販売してもらいたいものである。

至極のチャート ver3.01

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | ゴーイング・インベストメント・テクノロジー(株) |
| ■販売責任者 | 山本 浩史 |
| ■所在地 | 岡山県岡山市妹尾803番地10 |
| ■電話 | 086-282-1881 |
| ■メール | support+@going-it.com |
| ■URL | http://www.going-it.com/fx_great_chart101/sl.html |

価格 39,800 円

… 目次 …

序章 FX 至極の叡智 概要・・・6

第1章 極めてハイリスクハイリターンなことを肝に銘ずる・・・13

第2章 本当の富を築く「究極のルール」を脳裏に焼きつける・・・28

第3章 価格のトレンドと転換点を極めて、利益を極大化する・・・97

第4章 為替を動かす力を見極めて利益を最大化する・・・190

第5章 資金マネジメントを極めて、本当の富を築く・・・202

終章 FX 至極の叡智 統括・・・220

付属：メタトレーダー用インジゲーター、テンプレートファイル、
至極のチャート解説書（全13P）、

至極のチャート新指標によりトレードマニュアル（全28P）

●全223ページ。画像が少ないので、説明が理解しづらい。

E-BOOKのダイジェスト

「至極のチャート」とは少し大げさな商材名だが、お世辞にも綺麗とはいえないセールスレターにはこうある。

「いつ、トレードすれば儲かるのか、今はロングでいるべきなのかショートでいるべきなのか、誰もが知りたいことがわかる、そんなチャートです！
そんな夢のようなチャートが遂に完成したのです！」

商材はメタトレーダー用のインジゲーター、テンプレートファイルとその解説書、そしてオリジナルのテクニカル指標でのトレードマニュアル、全223 Pの本編からなる。

まずはメタトレーダーでのチャート使用法から説明しよう。

メタトレーダーに各ファイルを設定すると以下のチャートが表示されるようになる。

通貨

USD/JPY GBP/JPY EUR/JPY AUD/JPY

チャート

ラインチャート、平均足

ラインチャートは価格がDMA（10 区間）より上にあると青、下にあると

E-BOOKのダイジェスト

赤に変化するようになっている。

テクニカル指標

① 移動平均線

MA10、MA20、MA60、MA100、MA200、MA350、MA700、MA1400が色分けされて表示される。

- ・ ボリンジャーバンド

100本 σ ±、100本 σ ±2、100本 σ ±3が色分けされて表示される。

- ・ 一目均衡表

転換線、基準線、遅行スパン、先行スパン、先行スパン2が色分けされて表示される。

- ・ ATR

ストップの基準値 = $ATR_{20max} \times 2$ として使用し、MA20が表示される。

- ・ DMA

DMA10、DMA20、DMA60、DMA100、DMA200、DMA350が色分けされて表示される。

- ・ DAMadvance

「DMA」と「DAMadvance」については著者のオリジナル指標であり、別途解説書があるのでその際に詳しい内容を書く。

この各テクニカル指標がATRを除いて同じ画面に表示されるので、かなりゴチャゴチャとしている。

E-BOOK のダイジェスト

上昇転換ポイントには青丸、下落転換ポイントには赤丸の表示が出るのだが、それがないとこのチャート画面だけで売買判断をするのは慣れないとかなり難しいだろう。

では続いてオリジナルのテクニカル指標である DMA と DAMadvance の説明に入ろう。

① DMA

価格と単純移動平均線との乖離を基本に作られて、遅効性がある単純移動平均線の弱点を補うために作成されたという。

価格の動きが緩やかになりつつある時、価格と移動平均線との乖離は減少する。

「DMA は、価格と移動平均線との乖離に着目し、その乖離に関する移動平均線を価格に転換してチャート上に表現しているのです」

と商材では書いている。

使い方としては価格が DMA を下抜けたら下落トレンド、上抜けたら上昇トレンドというように転換点の目安とする。

また単純移動平均線と同様に 10 本であれば短期、200 本、300 本であれば中長期のトレンドを見ることになる。

中でも最も重視するのが 200 本、350 本であり、主にこの 2 つで中長期のトレンドを判断する。

E-BOOK のダイジェスト

② DAMadvance

一目均衡表の遅行スパンは現在価格を 26 本前のずらしたものだが、現在価格の位置で比較するために過去の価格を 26 本後にずらしたものがこの DAMadvance だ。

基本的な使い方は以下になる。

- ・トレンド相場では価格が DAMadvance を上抜けたら買い、下抜けたら売り。
 - ・レンジ相場では価格が DAMadvance を上抜けたら売り、下抜けたら買い。
- 2つのオリジナル指標を用いたトレード

①まずトレンドがあるかを後述する方法で確認する。

②次に DMA と価格の位置で中長期のトレンドを判断する。

- ・ 価格が DMA200、DMA300 の上にあれば上昇トレンド、下にあれば下降トレンド。

③前述したように価格が DAMadvance とクロスするのを待つ。

④ラインチャートで短期のトレンドを確認してからトレードする。

- ・ 中長期のトレンドが上昇ならば、短期のトレンドが上昇に転じてから買い
- ・ 中長期のトレンドが下降ならば、短期のトレンドが下降に転じてから売り

E-BOOKのダイジェスト

ここまでがオリジナル指標の説明だ。算出方法は書かれていないので、使用するためには商材を購入するしかない。

さてでは続いて本編の内容に入ろう。本編は具体的な売買手法ではなくFX全般、そしてテクニカル指標の説明が主な内容となっている。

第1章では「極めてハイリターンハイリスクなことを肝に銘ずる」としてFXの長所・短所を株式や先物など他の投資対象と比較して書いている。

またレバレッジを効かせた取引では資金は簡単に無くなることも例を挙げて説明されている。

続いて第2章では「本当の富を築く「究極のルール」を脳裏に焼きつける」として以下のルールが挙げられている。

1. 儲けやすい通貨ペアを選ぶ。

目安としては「ハードカレンシーで価格変動が大きくトレンドが形成されている通貨」という条件を挙げている。

2. 儲けやすい状況をじっくりと待つ。

- ・明らかなトレンドがあり、わかりやすく単純であること・
- ・価格の変動幅が大きいこと

これが条件である。

E-BOOK のダイジェスト

3. 価格のトレンドと転換点を把握する。
4. 適正な資金を用い、資金マネジメントを徹底する。
5. 集中できない不利な状況ではトレードしない。
6. 持ち合い状態ではトレードをしない習慣を身につける。
7. チャンスを確信したら、勇気を持って躊躇なくトレードする。
8. 柔軟な考え方と機敏な行動力を身につける。
9. 思惑が外れたら、素直に負けを認め、損失を最小限にする。
10. ナンピンは失敗の上塗り、絶対にしない。
11. 取らぬ狸の皮算用をせず、私心を捨てる。
12. スワップにとらわれず価格の変動で儲ける。
13. 人間の欲と運をコントロールする。
14. ほどほどの利益で満足する。

E-BOOK のダイジェスト

15. 儲けを別な場所に確保する。

儲けがある程度増えたら、「元の資金× 1.05 倍」を口座に残し、「残りの儲け」を別口座へ移す。

次の第 3 章では「価格のトレンドと転換点を極めて、利益を極大化する」として第 2 章のルールの内「価格のトレンドと転換点を把握する」がより詳しく説明される。

以下が新規ポジションを建てる場合の手順である。

① 中長期のトレンドが上昇か下降かを確認した後テクニカル指標でトレンドの傾斜が強いことを確認。

② 価格の中長期のトレンド方向が上昇トレンド→買い、下降トレンド→売りを考える。

③ 新規ポジションをつくる時期

- ・ 中長期の移動平均線 100 本 ,200 本 ,350 本に価格ができるだけ近い時。
- ・ 350 本の近辺が最も望ましい、その次には 200 本 ,100 本の順番になる。
- ・ 価格あるいは指標における短期のトレンドが、中長期のトレンドと同じ方向へ転換した時。
- ・ 価格あるいは指標における短期のトレンドが、中長期のトレンドと逆

E-BOOKのダイジェスト

方向へ転換した時。

④ 既存ポジションを仕切る時期

- ・ 価格の転換点

価格の転換点は移動平均線や一目均衡表などトレンド系の指標で測ることもできる。

・ 価格あるいは指標における短期のトレンドが中長期のトレンドと逆方向へ転換した時。

またこの章では「テクニカル分析の扉を開く」として各種テクニカル指標の見方が説明される。

① ローソク足

ここでは新値を判断の材料とする。

I 新値の数え方

- ・トレンドとは逆のローソク足本数を数える。
- ・トレンドとは逆の最初のローソク足を新値1本とする。
- ・上昇トレンドであれば押し目の陰線新値であり、前の陰線新値の安値を越える新安値をもつ陰線を、陰線新値として新値本数に加える。
- ・下降トレンドであれば戻りの陽線新値であり、前の陽線新値の高値を越える新高値をもつ陽線を、陽線新値として新値本数に加える。

II 新値によるトレンド判断

- ・押し目や戻りの新値本数が3本までの場合にはトレンドの継続を意味する。

E-BOOK のダイジェスト

- ・ 押し目や戻りの新値本数が5本以上の場合には、トレンドの終焉、逆のトレンドを警戒する。

Ⅲ 新規ポジションを建てる時期

- ・ 上昇トレンドの場合、始値で買いの新規ポジション。
- ・ 下降トレンドの場合、始値で売りの新規ポジション。

Ⅳ 新規ポジションを作る際は以下を参考により大きな時間枠の区切りを意識する。

- ・ 週足→1ヶ月単位の区切りで新規ポジションをつくる。
- ・ 日足→1週間単位の区切りで新規ポジションをつくる。
- ・ 時間足→4時間、8時間の区切りで新規ポジションをつくる。
- ・ 分足→1時間足の区切りで新規ポジションをつくる。

② 移動平均線

I 本数と組み合わせ

- ・ 10本、20本、100本、200本、350本の合計5種類の移動平均線を用いる。

Ⅱ 位置関係と傾斜

- ・ 上昇トレンド時 100本 > 200本 > 350本
- ・ 下降トレンド時 350本 > 200本 > 100本
- ・ 上昇トレンド時は3本すべて上昇、下降トレンド時は3本すべて下降。

E-BOOKのダイジェスト

Ⅲトレンド転換

1) 移動平均線が上昇→平行→下降となった場合。

- ・ 上昇時には移動平均線は支持線として機能し、価格が移動平均線を下回る状態が継続すると、移動平均線は機能的に支持線から抵抗線に変化し下降状態となる。

2) 移動平均線下降→平行→上昇となった場合

- ・ 下降時には移動平均線は抵抗線として機能し、価格が移動平均線を上回る状態が継続すると、移動平均線は機能的に抵抗線から支持線に変化し上昇傾向となる。

3) 1本のMA（10区間、20区間）で短期のトレンド変換を見る。

- ・ 上昇トレンド転換→MA勾配下降→上昇、価格 $>$ MA
- ・ 下降トレンド転換→MA勾配上昇→下降、MA $>$ 価格

4) 2本のMA（10区間、20区間）で短期のトレンド変換を見る。

- ・ 上昇トレンド転換→ゴールデンクロスを確認するMA10がMA20を上突き抜ける。
- ・ 下降トレンド転換→デッドクロスを確認するMA10がMA20を下に突き抜ける。
- ・ この時できればMA10本、MA20本ともに勾配が同じになるまで待つとトレンド転換の確実性は高まる。

E-BOOKのダイジェスト

③ 抵抗線と支持線

I 抵抗線と支持線として使用できるもの

- ・ 移動平均線、ボリンジャーバンド、パラボリックタイムプライス、トレンドライン、一目均衡表の遅行スパンを除く全線。

II 抵抗線と支持線になる移動平均線

1) 抵抗線になる条件

- ・ 価格が移動平均線より上に位置し、移動平均線が上昇勾配となっている。

2) 支持線になる条件

- ・ 価格が移動平均線より下に位置し、移動平均線が下降勾配となっている。

④ ボリンジャーバンド

I 価格が $\pm 2\sigma$ に近づいている時

1) バンド幅が縮小し継続する時

- ・ バンド幅が次第に縮小し、より小さくなっていくが突然の大きな価格変動により、新しいトレンドが生ずる。

この時 $\pm 3\sigma$ のバンドを超える場合が多く、その後大きなトレンドを形成する。

2) バンド幅が拡大し急傾斜する時

- ・ $\pm 2\sigma$ 以上のバンドに沿った動きをする場合が多く、 $\pm 3\sigma$ 以上の急激な価格変動の後、底や天井をつける。

E-BOOKのダイジェスト

大きな価格変動が期待できる。

3) バンド幅が拡大した後ほぼ水平な時

- ・ $\pm 2\sigma$ のバンドが価格反転の転換点となる。それまでの動きとは、まったく逆になる場合が多い。

II バンド幅縮小継続後の新しいトレンド

- ・ バンドの収縮継続後、大きな価格変動が生じる。

この場合 $\pm 3\sigma$ 以上となる場合が多い。この価格変動によってバンド幅は急激に大きくなり、価格の新しいトレンドが生じる。

- ・ 単純移動平均線の本数によりトレンドの規模が異なり、MA20 → 短期の小さな新しいトレンド、MA100 → 中長期の大きな新しいトレンドとなる。

III 形成されたトレンドの終わり

1) 上昇トレンドの終わり

- ・ 例えば抵抗線 $+2\sigma$ 、支持線 $+1\sigma$ と考えられる時、価格が支持線 $+1\sigma$ を下回った場合、抵抗線 $+2\sigma$ までもどらずに抵抗線が元の支持線 $+1$ になったら、上昇トレンドの終焉を警戒する。

2) 下落トレンドの終わり

- ・ 例えば抵抗線 -1σ 、支持線 -2σ と考えられる時、価格が支持線 -1σ を上回った場合、抵抗線 -1 までもどらずに支持線が元の抵抗線 $+1$ になったら、下落トレンドの終焉を警戒する。

IV 価格の行き過ぎ

E-BOOKのダイジェスト

- ・ 上昇あるいは下降のトレンドが継続中、さらにそのトレンドの勢いが強くなって価格が大きくトレンド方向に変動した場合、ボリンジャーバンドの標準偏差の3, 4倍程度価格が上昇、あるいは下降している場合には価格が明らかに行き過ぎであり、そこが天井や底となる可能性が大きくなる。

⑤ 一目均衡表

I 一目均衡表の中で最も重要な線は遅行スパン

1) 遅行スパン右端部と26本前の価格と関係

- ・ 好転→26本前の価格より上に→短期上昇トレンド、逆転→26本前の価格より下に→短期下降トレンド

- ・ 短期上昇トレンド→遅行スパン>26本前の価格、短期下降トレンド→26本前の価格>遅行スパン

2) 遅行スパン右端部と26本前の雲との関係

- ・ 遅行スパンと26本前の雲との関係が、価格に影響を与える。

⑥ MACD

I 2つのMACDにより超短期、短期の価格変動を見る。

2つのMACDを使うことによって大きな価格の動きを把握しながら、小さな価格の動きで早く正確なトレードが可能になる。

- ・ 超短期の動きを見るMACD-S (EMA、短期4本、中期20本、シグナル5本)
- ・ 短期の動きを見るMACD-L (EMA、短期20本、中期100本、シグナル5本)

E-BOOK のダイジェスト

ル 10 本)

II MACD のダイバージェンス

ダイバージェンスとは価格のトレンドと指標のトレンドが逆の傾向を示すことで、この場合価格のトレンドは遅れて反転し、指標のトレンドと同じトレンドになることが多い。

⑦ RSI

I RSI の新しい基準

以下のように従来の RSI とは違った基準で判断する。

- ・ 短期上昇トレンド \geq RSI 50% \geq 短期下降トレンド
- ・ RSI が 50% 近辺の値は押し目や戻りの転換点を示す場合が多い。
- ・ 押し目の場合 40%、戻りの場合 60% までいく場合がある。

⑧ ストヤスティクス

⑨ I ストヤスティクスの新しい基準

⑩ 以下のように従来のストヤスティクスとは違った基準で判断する。

- ・ 期間の新しい組合せ $(n, m, p) = (14, 5, 5)$ ・
- ・ 短期上昇トレンド \geq スロー% K 50% \geq 短期下降トレンド
- ・ スロー% K 50% 近辺の値は、押し目戻りの転換点を示す場合が多い。

さてここまでで第 3 章は終わりである。ここで記載した以外にも「トレンドライン」「フィボナッチ係数」の説明があるのだが、いずれも「高値同士安値同士を結ぶ」「押し目、戻り」の目安となるといった一般的な内容に留まっ

E-BOOK のダイジェスト

ているので省略した。

また同様に一目均衡表の三役など記載したテクニカル指標においても一般的な内容の部分は省略した。

さて次の第4章は「為替を動かす力を見極めて利益を最大化する」としてファンダメンタルズについて書いている。

一般的な内容なので為替のファンダメンタルズの優先順位のみ記載する。

I 為替のファンダメンタルズの優先順位

1. 米国の為替政策、米国経済の動向
2. 欧州・日本の為替政策、欧州・日本の経済動向
3. 他のハードカレンシー国の為替政策、各国経済の動向
4. 世界経済や米国経済に影響をおよぼすような出来事
5. 金利差

最後の第5章では「資金マネジメントを極めて、本当の富を築く」として資金管理や損きりについて説明されている。

これも一般的な内容であるが、具体的な説明がある部分のみを記載する。

I 1回のトレードで許容するリスク

- ・ 資金の5%以下、2%を基本とする。

II 損きりの大きさ

- ・ 真の値幅の20本移動平均値ATR20を基本とする。

E-BOOKのダイジェスト

Ⅲ新規ポジション量

- ・ 新規ポジション量 = 1回のトレードで許容できる損失額 ÷ ストップの大きさ

ここまでの商材の全内容である。著者の知識が伺える部分もあるが、全体的にはテクニカル分析の教科書といった感である。

詳しく説明されてはいるが、基本的には一般的なよく知られている見方である。

オリジナルの2つの指標やMACD、RSI、ストヤスティクスの使い方など独自部分はあるが、あくまでそれはメインではない。

またメタトレーダーでも転換点は表示されるが、具体的な売買手法の説明はなく、商材で説明されたテクニカル分析を元に自分で判断する形になる。

著者のオリジナル指標の算出法が説明されていないので、この指標を使いたい人は商材を購入するしかないが、そうでなければ書店に行ってテクニカル分析の本を何冊買ってきた方が安上がりである。

テクニカル分析の教科書にこの価格は少々高すぎるのではないか。

相場から金を巻き上げる快感をあなたへ!
超安定の日経 225 先物システムトレード
Foresight 225

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | 菊地浩貴 |
| ■販売責任者 | 菊地浩貴 |
| ■所在地 | 広島県広島市中区中町 1 丁目 -27-402 |
| ■電話 | 080-1834-3045 |
| ■メール | info@foresight225.com |
| ■ URL | http://foresight225.com/ |

価格 39,800 円

… 目次 …

第 1 章 Foresight 225 で運用する前に…4

第 2 章 エクセルファイルの使い方…5

第 3 章 ロジックの解説…13

付属：売買判定用エクセルファイル（ラージ、ミニ）

●全 16 ページ。すっきりしていて読みやすい。

E-BOOKのダイジェスト

最近ではFXと並び人気の日経225先物。本商材も日経225先物を対象としたものである。

売買判定エクセルファイルが出す売買サインにしたがって寄り付きでエントリー、引けで決済する寄り引けのデイトレードが本商材の手法である。

セールスレターでは「9年間無敗」を謳い、バックテスト結果を見るとかなり優秀だが、その内容をこれから検証しよう。

商材はラージ、ミニ用のそれぞれの売買判定エクセルファイル、16Pの取り扱い取扱書からなる。

売買ロジックやエクセルファイルの操作以外の記述は一切ない。

売買ロジック

売買ロジックの基本的な考え方は売り6個、買い8個の単純なシステムを走らせ、それらのシグナルの組み合わせから最終的な売買判定をするというものである。

最終的な売買判定は「買いサイン」「売りサイン」の数が多い方の売買判定を採用する。

E-BOOKのダイジェスト

例えば下記のように個々のシステムの売買サインの数で判断する。

売りサイン 5 個、買いサイン 2 個→売り

売りサイン 1 個、買いサイン 4 個→買い

個々のシステムのロジックは以下となる。

売りシステム

以下の条件に該当すれば翌日寄り付きで売り

- ・ 当日終値が当日始値より大きい時
- ・ 前日始値が当日始値より大きい時
- ・ 当日始値が当日終値より大きくかつ前日始値が前日終値より大きい時
- ・ $(\text{終値} - 4 \text{ 場平均})$ が 4 場平均の 5 % より大きい時
- ・ 当日終値が 1 場前から 3 場前までの高値より大きい時
- ・ 5 場平均 - 20 場平均がプラスからマイナスに変わった時

買いシステム

以下の条件に該当すれば翌日寄り付きで買い。

- ・ 当日終値が当日始値より大きくかつ当日前場始値が当日前場終値より大きい時
- ・ 当日始値が当日終値より大きくかつ当日後場始値が当日後場終値より大きい時

E-BOOK のダイジェスト

- ・ 前日始値が前日終値より大きくかつ当日始値より当日後場終値が大きい時
- ・ 当日後場高値が当日前場高値より大きくかつ当日前場安値が当日後場安値より大きい時
- ・ 9 場平均が当日終値より大きい時
- ・ 当日終値が 20 場平均より大きくかつ当日終値が当日始値より大きい時
- ・ 1 場前から 12 場前までの安値が当日終値より大きい時
- ・ (5 場平均 - 20 場平均) がマイナスからプラスに変わった時

フィルター

フィルターとして以下の条件を設定し、その場合は売買判定を無効とする。

売り

- ・ 連続で売り判定が 5 回以上出た時
- ・ 木曜日に売りサインが 3 個以上出た時
- ・ 木曜日に連続で売り判定が 4 回以上出た時

買い

- ・ (5 場 - 20 場平均) が 5 場平均 \times (-1.5%) より小さい時
- ・ 連続で買い判定が 4 回以上出た時

E-BOOK のダイジェスト

ロスカット

売り

3場のボラティリティの平均に65%を掛けた値

買い

3場のボラティリティの平均

以上が売買ロジックである。エントリー手順としては寄り付きで売買判定に従って成り行き注文し、約定したらロスカット注文を出す。

ロスカットに掛からず引けになったら損益に関係なく決済する。

ここまでが売買ロジックの説明である。付属のエクセルファイルに4本値を入れると売買判定される仕組みである。

エクセルファイルが無くともこの売買ロジックどおりに判定していけば実行は可能だ。

ただし通常の4本値ではなく、前場後場ごとの4本値のデータが必要になる。

E-BOOKのダイジェスト

前場後場ごとの4本値は公開しているサイトは筆者の知る限りではない。自分で記録していくしかない。または下記のサイトでは1分足～時間足までのデータを公開しているので、そのデータから作成してもいいだろう。

225 ラボ <http://225labo.com/>

さてこの売買ロジック著者が何よりも目指したのはセールスレターにも書いてる通り「超安定」であるという。

確かにセールスレターに記載されている過去の成績や実際に売買判定エクセルファイルでの売買成績からも安定した成績を残している。

パフォーマンスを上げようとシステムを複雑にすればするほどカーブフィッティングに陥る可能性は高くなる。

またそれを避けようと複数の単純なシステムを同時に走らせると作業は煩雑になり、また個々のシステムの好不調に全体のパフォーマンスが影響を受ける。

しかしこの手法は個々の単純なシステムの売買サインの数で最終的な売買判定をすることでこれを免れている。

売買ロジックとして非常に優秀だと言えよう。

E-BOOKのダイジェスト

このような手法の場合できるだけ多くの違ったアプローチのシステムを揃えることでさらにパフォーマンスは上がることが予想できる。

その点で少し個々のシステムの数やバリエーションが少ないのではとは感じた。

また過去の成績かを見ると「買いサイン」「売りサイン」の数が拮抗している場合は余り成績が良くない。

下手にいじるとかえってパフォーマンスが低下する恐れがあるので難しいのだが、そこら辺はまだ改良の余地があるだろう。

いろいろ注文をつけたが今発売されている日経 225 の商材の中では上位に入る優良商材であることは確かだ。

ミラクルFX MindTracer2009

発行元情報

| | |
|--------|---|
| ■発行元 | マインドトレーサードットジェーピー |
| ■販売責任者 | 里谷和彦（著者）三嶋一夫 |
| ■所在地 | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区境木本町55-8 |
| ■電話 | 080-3546-0996 |
| ■メール | MindTracer777@e-mail.jp |
| ■URL | http://mindtracer.iinaa.net/ |

価格 19,800 円

… 目次 …

1. はじめに…4
2. トレード概要…7
3. プログラム本体の使用方法…21
4. アルゴリズム説明…65
5. 応用編…87
6. その他の注意点…91
7. おわりに…120

付属：売買システムエクセルファイル、ストップ・リミット計算エクセルファイル

●全 120 ページ。説明に難があり、内容がわかりにくい部分がある。

E-BOOKのダイジェスト

「常に相場の集団心理（市場心理）を追いかけてその動向を掴む事さえできていれば大きな相場の急変やトレンドをチャンスにすることが可能なはずなのです。」

セールスレターにはこうある。市場心理を指数化した下落指数を用いたこの mind tracer。

その内容を早速検証しよう。商材は全 120 P。
最初からトレード概要の説明となる。

トレード概要

この手法は一週間単位で為替相場の動きを把握し、その時点でトレードの有利な通貨を選択、日足単位で売買していくことになる。

付属のエクセルファイルにデータを入力すれば売買サインが表示される。
入力するデータは週足と日足の 2 種類がある。

① 週足データ

毎週土曜日にその週の月曜日から金曜日の 4 本値と口座残高をエクセルファイルに入力。

② 日足データ

E-BOOK のダイジェスト

火曜日から金曜日の朝に前日の 4 本値をエクセルファイルに入力。

週足のデータにより翌週トレードする通貨を決め、前日のデータにより翌日の売買方針が決まる仕組みだ。

このエクセルファイルには売買サインの他トレード対象通貨と売買指示、売買量が表示される。

取引対象通貨

米ドル円、ユーロ円、ポンド円、豪ドル円、NZ ドル円、カナダドル円、スイスフラン円

トレード期間

1 日～ 1 週間

レバレッジ

15 倍で固定、初期資金が 30 万円以下の場合は 5 倍～ 10 倍へ変更

取引数量単位

1 万通貨、初期資金が 30 万円以下の場合は 1000 通貨へ変更

E-BOOK のダイジェスト

1 週間のトレードの流れ

- ① 毎週末にトレードする通貨と売買量を確認。
- ② 週足サインで売買サインが点灯した通貨は月曜日朝、成り行き注文か OCO 注文する。

決済は翌週月曜日の午前 7 時に行う。

- ③ 週足サインで売買サインが点灯しなかった通貨は月曜日エントリーを見送り、火曜日から金曜日に日足サインで売買サインが点灯した場合に午前中に IFO 注文する。

IFO 注文の期限は週末とし、注文が執行されなかった場合は消滅するように設定する。

IFO 注文が執行されてポジションを持った場合、決済は翌週月曜日の午前 7 時に行う。

- ④ 決定されたトレード対象通貨でなくとも、日足サインで「売り」が点灯した場合、午前 7 時に成り行き注文か OCO 注文を入れる。

「売り」注文はトレードする通貨や曜日、ポジション保有状態に関係なくサインどおりに注文することになる。

- ・ 週足サインで買いポジションを持った場合、同じ通貨に日足で売りサ

E-BOOK のダイジェスト

インがでたら、その時点でドデンする。

ただし、IFO 注文を一度出した通貨のみ売りサインは無視する。

- ・ 翌週月曜日午前 7 時に決済するが、その時点でサインが「売り」の場合そのままポジションをホールドする。

以上が 1 週間のトレードの大まかな流れである。

この後は実際のエクセルファイルの入力方法や操作の説明となるので省かせていただく。

ロジック内容

では肝心のロジック内容を説明しよう。まず使用しているテクニカル指標は以下である。

① 移動平均トレンド

日足売買サイン算出の時点で、トレンドが円安か円高かを判断するために使用する指標である。

算出方法は移動平均線と同じだが、9 日間の始値の平均値を算出している。

また前々日と前日の差を「移動平均トレンド」としてこの値の大小により円安用円高用のリミット、ストップを算出するようになっている。

E-BOOK のダイジェスト

② RSI

RSI の期間は一般的には 14 日間だが 9 日間を採用している。

使い方は買われすぎ、売られすぎを判断する一般的な方法である。

③ 下落指数

著者のオリジナル指標であり、売買サインの算出に大きなウェイトを占めている。

これが市場心理を掴むために数値化したとセールスレターに掲載されていたもので、以下の式で算出される。

$$M = (\text{始値} - \text{安値}) + K * (\text{前日始値} - \text{始値})$$

K：通貨毎に値を変えている（1～1.5）

この計算を 5 日分遡って行う。

$$\begin{aligned} \text{下落指数} = & M(5 \text{ 日前}) * (-1) + M(4 \text{ 日前}) * (-1) + M(3 \text{ 日前}) \\ & * (-1) + M(2 \text{ 日前}) * 4 + M(\text{前日}) * 10 \end{aligned}$$

この指標により売買サイン算出当日の下落エネルギーを判断する。Mの「始値－安値」は 1 日に起こる下落の最大値である。

しかし一時的な下落である可能性もあるので、継続的な円高の流れを判断するため前日から当日の始値同士を比較し、K という係数でウェイト付けする。

E-BOOK のダイジェスト

そして算出した「下落指数」は5日前から3日間まではその影響を打ち消すために「-1」を掛け、2日前が4を、前日には10を掛ける、2日前が4を、前日には10を掛けることで、2日前と前日の影響を大きく反映させる。

この下落指数の大きさを以下の売買判断をする。

- ・小さい→“買い”
- ・大きい→“売り”
- ・中間→“見送り”

④ NR7

このシグナルを使用するのは、週足サインによる買いの成行注文をした後のOCO注文で、ストップ設定した場合のみである。

このシグナルが点灯した場合はストップの設定を「安値 $- \alpha$ 」に変更する。 α の値は通貨ごとに異なる設定となっている。

また豪ドル円、NZドル円、カナダドル円のみにこのルールを適用する。

⑤ 移動平均乖離率

週足サインの算出に使用し、期間は通貨ごとに異なる設定となっている。売買システムに関する商材の内容はここまでである。

後はデータの入手先、注文時間などの注意点、そして実践例が掲載されている。